

# 平成30年度 医学科授業計画

医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。

【開学の祖 ポンペ ファン メールデルフォールトの言葉】

長崎大学医学部医学科



# 目 次

はじめに .....	1
アクセシビリティ .....	2
試験成績の発表 .....	2
追試験に関する取扱い .....	3
共用試験の判定基準に関する申合せ .....	4
医学部カリキュラムの概要 .....	5
学年・学期別の試験科目一覧 .....	13
平成23年度以前入学者の科目の読替え表 .....	15
平成24～27年度入学者の科目の読替え表 .....	16
長崎大学ナンバリング・システムについて .....	18
医学部医学科のディプロマポリシーにおける領域ごとの達成レベル .....	20
学年・学期別授業計画	
1年次授業計画 .....	21
2年次授業計画 .....	59
3年次授業計画 .....	97
4年次授業計画 .....	153
5年次授業計画 .....	218
6年次授業計画 .....	223

# 科目別目次

## 1年次科目

授業時間割	21
医と社会Ⅰ	22
人体構造系Ⅰ	25
生体分子系	29
発生・組織系	33
内臓機能・体液系Ⅰ	37
プレリサーチセミナー	41
地域医療ゼミ	43
熱帯医学ゼミ	46
国際医療ゼミ	47
医学ゼミ	48
医学英語	49
学部モジュール科目	50

(医科生物学入門、Communication Skill in English、  
医学史・原爆医学と長崎、医学統計学)

## 2年次科目

授業時間割	59
医と社会Ⅱ	61
神経・感覚器系	64
人体構造系Ⅱ	68
動物性機能系	72
内臓機能・体液系Ⅱ	76
分子遺伝系	78
環境因子系	81
感染系	83
免疫系	87
腫瘍系	89
プレリサーチセミナー	92
国際医療英語	93
医学ゼミ	94
医学英語	96

## 3年次科目

授業時間割	97
医と社会Ⅲ	98
病理総論系	101
薬理系	103
放射線医学	106
基礎医学TBL	108
循環器系	110
血液・リンパ系	114
呼吸器系	117
腎泌尿器系	121
感染症系	124
運動系	128
生殖系	131
臨床検査医学	134

内分泌・代謝・栄養系	137
消化器系	141
プレリサーチセミナー	146
リサーチセミナー	147
国際医療英語	149
医学ゼミ	150
医学英語	152

## 4年次科目

授業時間割	153
医と社会Ⅳ	154
人体構造系Ⅲ	157
薬理系Ⅲ	160
病理各論系Ⅲ	162
精神系	165
脳・神経系	167
皮膚系	171
運動系	174
視覚系	176
耳鼻咽喉口腔系	179
衛生学・分子疫学	181
公衆衛生学	184
外科治療学	186
法医学系	190
診断学	192
臨床検査医学	198
臨床疫学・医療情報学	201
臨床薬理学	204
東洋医学	206
総合病理学	209
臨床推論PBL	211
臨床実習	212
医学ゼミ	213
アドバンストリサーチセミナー	215
医学英語	217

## 5年次科目

授業時間割	218
臨床実習	219
高次臨床実習	220
アドバンストリサーチセミナー	221

## 6年次科目

授業時間割	223
高次臨床実習	224
アドバンストリサーチセミナー	225
臨床総括講義(卒前集中講義)	227

## はじめに

長崎大学医学部医学科では「大学教育における基本的教養と専門の基盤となる幅広い知識を修得させるとともに、医学に関する高度の専門的知識を修得させ、自立性と社会性を身につけた医師及び科学的創造性をもった医学者を育成すること」を教育目標としております（医学部規程第2条）。

この目標達成のために学科教育では、

- 1) 医学医療の知識と総合的理解（医学を学ぶ）
- 2) 科学性及び医学的創造性の養成（科学を学ぶ）
- 3) 医師としての社会的責任感及び自立性の確立（人間を学ぶ）

を図ることを重視し、この3点をバランスよく併せ持ったカリキュラムが実施されています。一般教育（全学教育）と専門教育を楔形に合わせた6年一貫教育形態が取り入れられており、平成10年度と平成14年度の改訂を経て、その概要は次頁以下に示した通りです。

医学医療の知識の修得と総合的理解の点では基礎医学から臨床医学へと展開していく医学教育の順次性を重視した年次別の授業科目が開設されています。即ち、1年次では2年次以降に学ぶ教科の基盤作りが行えるように、「医科生物学入門」をはじめとする医学の基礎科目が開講されます。2年次では人体の構造、生理機能をさらに詳細にかつ統合的に理解し医学の基礎作りが行えるように、3・4年次においては疾患の発生機序、病態の理解を基に診断、治療、予防の原理の理解へと進み、5・6年次でそれまでに得られた知識を臨床実習や臨床総括講義を通してより実戦的なものとして整理体系づけると共に、診療に必要な思考力、判断力及び技術を養成できるように授業科目が配置されています。

特に4年次からは「Problem-based learning (PBL)」が導入され自己問題解決能力の向上を図ると共に、4・5年次の各科ローテーションを軸とする「臨床実習」と5・6年次の選択必修となる「高次臨床実習」を通して、より現場に即した実習内容が提供されることになっています。また、長崎大学医学部のユニークな授業科目として1年次には「医学史・原爆医学と長崎」が、3年次には「熱帯医学」と「感染症学」を融合させた「感染症系」が設けられています。さらに、4・5年次の「臨床実習」では「離島実習」があり、実際に五島列島などでの離島医療の現場に接していただきます。それらによって、長崎の歴史と地域性に根ざした上で、日本の医療が担うべき国際的な立場の認識、さらにこれからの社会において必要と思われる医師、医学者の国際的感覚をも養っていただくことが期待されています。

科学性及び医学的創造性の養成については、各教科の授業でも当然行われますが、学生の科学的好奇心の喚起、科学的創造性の育成を図って、3年次に10週間の「リサーチセミナー」の期間が設けられています。この期間は医学部基礎系研究室と熱帯医学研究所の各部門で、各自が選択した研究テーマについて終日研究活動に従事することになります。また、平成14年度からの新カリキュラムでは必修選択科目の少人数教育「医学ゼミ」が開始され、特定の分野を深く学ぶことが可能になります。また、6年次の最終講義として卒前集中講義を設けました。

医学教育においては早い時期での医療への接触が大切だとされています。それを踏まえて、「医と社会」が設けられ、そこでは病院体験や看護体験実習での医療現場への参加や、今日的医療テーマについて専門教員を交えての討論の機会が用意されています。

さらに2・3年次の「医と社会」では、医学・医療の社会に入り自立する為の精神的基盤作りを図れるように医の倫理、医療心理学、医学・医療社会問題等について学習します。一方、4～6年次での臨床実習では、実戦的な知識・技術を身に付けるばかりでなく、多くの患者さんに接することによって職業的使命感を養っていただくことが期待されています。

最初に述べた本医学部医学科の教育目標を十分に理解し、「医学を学び」、「科学を学び」、「人間を学び」自立性と社会性を身に付けた医師、科学的創造性を持った医学者に育ていただくことを切望します。

## アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

(TEL) 095-819-2006      (FAX) 095-819-2948

(E-MAIL) [support@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:support@ml.nagasaki-u.ac.jp)

## 試験成績の発表

専門の成績（可否）については掲示にてお知らせします。

成績結果に疑義がある場合は、成績発表後、1週間以内に学務課へ問い合わせてください。

また、評価については、年度末にお知らせします。

## 追試験に関する取扱い

平成25年12月18日  
医学科会議決定

長崎大学医学部規程第14条の規定に基づく追試験の取扱いは、下記のとおりとする。

1. 病気その他やむを得ない理由により専門教育科目の定期試験を受けることができなかつた者に対し、教務委員会において審議し、追試験を行うことがある。病気その他やむを得ない理由とは、次の各号のいずれかに該当する場合をいう。

- (1) 入院加療を要する病気又は重度の負傷の場合（医師の診断書等の提出を要する）
- (2) 忌引の場合（会葬御礼のカード等の提出を要する）
- (3) 交通機関の事故・不通の場合（証明できる書類の提出を要する）
- (4) その他、教務委員会が正当と認める理由である場合

対象となるものは、定期試験実施後、すみやかに上記証明書を添えて追試験願いを提出しなければならない。

2. 本人の不注意（寝過し、時間割誤認など）によるものについては、追試験は認められない。また教務委員会での審査にて、定期試験が受験可能であったと判断されるものについては、追試験を許可しない。

3. 追試験を受けようとする者は、担当教員の指定する日時に追試験を受験しなければならない。

4. 当該授業科目の追試験は1回限りとする。

5. 追試験の評価は科目責任者の判断にて減点される場合がある。

6. 尚、専門科目の定期試験以外の試験はこの申し合わせ事項を適応せず、追試験実施の有無は各科目責任者の判断によるものとする。

共用試験の判定基準に関する申合せ

〔平成 29 年 11 月 22 日〕  
医 学 科 会 議 決 定

共用試験の判定基準について、下記のとおり申し合わせる。

記

- 第 1 共用試験の合格の判定は、CBT 及び OSCE の両方に合格した者に対し行う。
- 第 2 共用試験を不合格と判定された者は、翌年度 4 年次科目の臨床推論 PBL、診断学を聴講の上、CBT 及び OSCE の両方を受験しなければならない。
- 2 前項の科目について、各授業を行った時数の 3 分の 1 を超えて欠席した者に対しては、CBT 及び OSCE の受験資格を認めない。
- 3 第 1 項の科目を除く 4 年次科目の聴講については、学生からの申出により、各科目責任者が判断する。
- 第 3 CBT 本試験の評価については、能力値（以下 IRT 値）359 以上をもって合格とし、IRT 値 359 未満の場合には再試験を行う。なお、追・再試験の評価についても、IRT 値 359 以上をもって合格とする。
- 第 4 OSCE 本試験の評価については、すべてのステーションで 60 点以上を取得することをもって合格とし、60 点未満のステーションがあった場合には、当該ステーションについて再試験を行う。なお、追・再試験の評価についても、60 点以上を合格とする。
- 第 5 共用試験の本試験及び追・再試験において、病気、忌引、その他特段の事情なく欠席又は遅刻した者は不合格とする。
- 2 前項の規定により、本試験を不合格となった者は追・再試験の対象としない。

附 則

この申合せは、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 23 年 11 月 16 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 27 年 8 月 5 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 28 年 1 月 6 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 29 年 11 月 22 日から施行する。

# 医学部カリキュラムの概要 (1年次生)

(平成30年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p>医と社会I</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>生体分子系 人体構造系I 発生・組織系 内臓機能・体液系I</p>	<p>医と社会II</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>分子遺伝系 人体構造系II 神経・感覚器系 動物性機能系 内臓機能・体液系II</p> <p><b>疾患総論</b></p> <p>感染系 免疫系 腫瘍系 放射線基礎医学</p>	<p>医と社会III</p> <p><b>疾患総論</b></p> <p>病理総論系 基礎医学TBL 薬理系</p> <p><b>疾患各論</b></p> <p>血液・リンパ系 循環器系 呼吸器系 感染症系 腎泌尿器系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系 消化器系 運動系 生殖系</p>	<p>医と社会IV</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>人体構造系III</p> <p><b>疾患各論</b></p> <p>精神系 免疫・アレルギー系 脳・神経系 皮膚系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系</p> <p><b>医学・医療と社会</b></p> <p>衛生学・分子疫学 公衆衛生学 地域医療学</p>	<p>臨床実習</p> <p>臨床実習 高次臨床実習I</p>	<p>臨床実習</p> <p>臨床実習 高次臨床実習II</p>	<p>卒業試験</p>					
<p>学部モジュール</p> <p>医科生物学入門 医学統計学 医学史・原爆医学と長崎 Communication Skill in English</p>											
<p>診療の基本</p> <p>放射線医学 臨床検査医学 リサーチセミナー (発表会は4年次)</p>											
<p>診療の基本</p> <p>診断学 外科治療学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL</p>											
<p>臨床実習</p> <p>臨床実習 臨床実習</p>											
<p>医学総合セミナー 医学英語</p>											
<p>教養教育</p>											

# 医学部カリキュラムの概要 (2～3年次生)

(平成28年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p>医と社会I</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>生体分子系 人体構造系I 発生・組織系 内臓機能・体液系I</p>	<p>医と社会II</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>分子遺伝系 人体構造系II 神経・感覚器系 動物性機能系 内臓機能・体液系II</p> <p><b>疾患総論</b></p> <p>感染系 免疫系 腫瘍系 環境因子系</p>	<p>医と社会III</p> <p><b>疾患総論</b></p> <p>病理総論系 基礎医学TBL 薬理系</p> <p><b>疾患各論</b></p> <p>血液・リンパ系 循環器系 呼吸器系 感染症系 腎泌尿器系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系 消化器系 運動系 生殖系</p>	<p>医と社会IV</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>人体構造系III</p> <p><b>疾患各論</b></p> <p>精神系 免疫・アレルギー系 脳・神経系 皮膚系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系</p>	<p>衛生学・分子疫学 公衆衛生学 地域医療学</p> <p><b>医学・医療と社会</b></p> <p>法医学系</p>	<p>放射線医学</p> <p><b>診療の基本</b></p> <p>臨床検査医学</p> <p><b>基礎研究実習</b></p> <p>リサーチセミナー (発表会は4年次)</p>	<p><b>診療の基本</b></p> <p>診断学 外科治療学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL</p> <p><b>臨床実習</b></p> <p>臨床実習 高次臨床実習I</p>	<p>高次臨床実習II</p> <p><b>臨床実習</b></p> <p>臨床実習 高次臨床実習I</p>	<p>卒業試験</p>			
<p>学部モジュール</p> <p>医科生物学入門 医学統計学 医学史・原爆医学と長崎 Communication Skill in English</p>		<p>教養教育</p>									
<p>医学総合セミナー 医学英語</p>											

# 医学部カリキュラムの概要 (4年次生)

(平成27年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医と社会I		医と社会II		医と社会III		医と社会IV					
人間生物学	入門科目	人体構造系II 発生・組織系II 動物性機能系 内臓機能・体液系II	正常構造と機能 神経・感覚器系II	環境因子系 薬理系I 病理各論系I	疾患総論 薬理系II 病理各論系II	人体構造系III 正常構造と機能 疾患総論	臨床実習 臨床実習II 高次臨床実習I	治療の基本 臨床総括講義			
生体分子系	正常構造と機能 人体構造系I 分子遺伝系 神経・感覚器系I 発生・組織系I 内臓機能・体液系I	疾患総論 感染系 免疫系 病理総論系 腫瘍系 基礎医学TBL	循環器系 呼吸器系 消化器系 感染症系	疾患各論 血液・リンパ系 内分泌・代謝・栄養系 免疫・アレルギー―疾患系	薬理系III 病理各論系III 精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系	臨床実習 臨床実習II 高次臨床実習I					
学部モジュール		臨床医学TBL I	診療の基本 放射線医学 臨床医学TBL II	臨床医学TBL I	診療の基本 衛生学・分子疫学 公衆衛生学	医学・医療と社会 衛生学・分子疫学 法医学系					卒業試験
細胞生物学		基礎研究実習 リサーチセミナー (発表会は4年次)		外科治療学 臨床医学TBL III	診療の基本 診断学 臨床検査医学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL 臨床実習 I						
医学史・原爆医学と長崎											
医学統計学											
医学総合セミナー 医学英語											

# 医学部カリキュラムの概要 (5年次生)

(平成26年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p>医と社会I</p> <p>人間生物学</p> <p style="text-align: center;"><b>入門科目</b></p> <p>正常構造と機能</p> <p>人体分子系</p> <p>人体構造系I</p> <p>分子遺伝系</p> <p>神経・感覚器系I</p> <p>発生・組織系I</p> <p>内臓機能・体液系I</p>	<p>医と社会II</p> <p style="text-align: center;"><b>正常構造と機能</b></p> <p>人体構造系II</p> <p>発生・組織系II</p> <p>動物性機能系</p> <p>内臓機能・体液系II</p> <p style="text-align: center;"><b>疾患総論</b></p> <p>感染系</p> <p>免疫系</p> <p>病理総論系</p> <p>腫瘍系</p> <p>基礎医学TBL</p>	<p>医と社会III</p> <p style="text-align: center;"><b>疾患総論</b></p> <p>環境因子系</p> <p>薬理系I</p> <p>病理各論系I</p> <p style="text-align: center;"><b>疾患各論</b></p> <p>循環器系</p> <p>呼吸器系</p> <p>消化器系</p> <p>感染症系</p> <p>血液・リンパ系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系</p> <p>免疫・アレルギー―疾患系</p> <p>腎泌尿器系</p> <p>生殖系</p> <p>小児系</p> <p style="text-align: center;"><b>診療の基本</b></p> <p>臨床医学TBL I</p> <p>放射線医学</p> <p>臨床医学TBL II</p>	<p>医と社会IV</p> <p style="text-align: center;"><b>正常構造と機能</b></p> <p>人体構造系III</p> <p>薬理系II</p> <p>病理各論系II</p> <p style="text-align: center;"><b>疾患総論</b></p> <p>血液・リンパ系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系</p> <p>免疫・アレルギー―疾患系</p> <p>腎泌尿器系</p> <p>生殖系</p> <p>小児系</p> <p style="text-align: center;"><b>診療の基本</b></p> <p>衛生学・分子疫学</p> <p>公衆衛生学</p> <p>臨床医学TBL III</p> <p>放射線医学</p> <p>臨床医学TBL II</p> <p style="text-align: center;"><b>基礎研究実習</b></p> <p>リサーチセミナー (発表会は4年次)</p>	<p>医と社会IV</p> <p style="text-align: center;"><b>正常構造と機能</b></p> <p>人体構造系III</p> <p>薬理系III</p> <p>病理各論系III</p> <p style="text-align: center;"><b>疾患各論</b></p> <p>精神系</p> <p>脳・神経系</p> <p>皮膚系</p> <p>運動系</p> <p>視覚系</p> <p>耳鼻咽喉口腔系</p> <p style="text-align: center;"><b>医学・医療と社会</b></p> <p>衛生学・分子疫学</p> <p>法医学系</p> <p>臨床医学TBL III</p> <p>放射線医学</p> <p>臨床医学TBL II</p> <p style="text-align: center;"><b>診療の基本</b></p> <p>外科治療学</p> <p>臨床検査医学</p> <p>臨床疫学・医療情報学</p> <p>臨床薬理学</p> <p>東洋医学</p> <p>総合病理学</p> <p>臨床推論PBL</p> <p style="text-align: center;"><b>臨床実習</b></p> <p>臨床実習 I</p>	<p>臨床実習</p> <p>臨床実習 II</p> <p>高次臨床実習I</p>	<p>診療の基本</p> <p>臨床総括講義</p> <p>臨床実習</p> <p>高次臨床実習II</p>	<p>卒業試験</p>				
<p>細胞生物学</p> <p>医学は長崎から</p> <p>原爆医学概論</p> <p style="text-align: center;"><b>学部モジュール</b></p> <p>医学統計学</p>		<p style="text-align: center;"><b>教養教育</b></p> <p style="text-align: center;">医学総合セミナー</p> <p style="text-align: center;">医学英語</p>									

# 医学部カリキュラムの概要 (6年次生)

(平成24年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医と社会I		医と社会II		医と社会III		医と社会IV					
人間生物学	入門科目	人体構造系II 発生・組織系II 動物性機能系 内臓機能・体液系II	正常構造と機能 神経・感覚器系II	環境因子系 薬理系I 病理各論系I	疾患総論 薬理系II 病理各論系II	人体構造系III 正常構造と機能 薬理系III 病理各論系III 疾患総論	臨床実習 臨床実習II 高次臨床実習I	治療の基本 臨床総括講義 臨床実習 高次臨床実習II			
生体分子系	正常構造と機能 人体構造系I 分子遺伝系 神経・感覚器系I 発生・組織系I 内臓機能・体液系I	疾患総論 感染系 免疫系 病理総論系 腫瘍系 基礎医学TBL	循環器系 呼吸器系 消化器系 感染症系	血液・リンパ系 内分泌・代謝・栄養系 免疫・アレルギー―疾患系 腎泌尿器系 生殖系 小児系	精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系	医学・医療と社会 衛生学・分子疫学 公衆衛生学					
学部モジュール		放射線医学 臨床医学TBL I 臨床医学TBL II	診療の基本	診療の基本 基礎研究実習 リサーチセミナー	診療の基本 診断学 臨床検査医学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL 臨床実習 臨床実習I						卒業試験
人間生物学		医学統計学									
細胞生物学											
医学は長崎から											
原爆医学概論											
医学総合セミナー 医学英語											

# 医学部カリキュラムの概要(学士2年前期編入学)

(平成29年度以降2年次編入学学生適用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		<p>医と社会II</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>生体分子系 人体構造系I 発生・組織系</p> <p>人体構造系II 神経・感覚器系 動物性機能系 内臓機能・体液系II</p> <p><b>疾患総論</b></p> <p>感染系 免疫系 腫瘍系 環境因子系</p>	<p>医と社会III</p> <p><b>疾患総論</b></p> <p>病理総論系 基礎医学TBL 薬理系</p> <p><b>疾患各論</b></p> <p>血液・リンパ系 循環器系 呼吸器系 感染症系 腎泌尿器系</p> <p><b>診療の基本</b></p> <p>放射線医学 臨床検査医学</p> <p><b>基礎研究実習</b></p> <p>リサーチセミナー (発表会は4年次)</p>	<p>医と社会IV</p> <p><b>正常構造と機能</b></p> <p>人体構造系III 精神系 免疫・アレルギー系 脳・神経系 皮膚系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系</p> <p><b>疾患各論</b></p> <p><b>医学・医療と社会</b></p> <p>衛生学・分子疫学 公衆衛生学 地域医療学</p> <p><b>診療の基本</b></p> <p>診断学 外科治療学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL</p> <p><b>臨床実習</b></p> <p>臨床実習</p>	<p>臨床実習 臨床実習 高次臨床実習I</p>	<p>高次臨床実習II</p>	<p>卒業試験</p>				
<p>医学総合セミナー 医学英語</p>											

# 医学部カリキュラムの概要（学士2年前期編入学）

（平成25年度以降2年次編入学学生適用）

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	<p>医と社会I</p> <p>人間生物学</p> <p>入門科目</p> <p>正常構造と機能</p> <p>生体分子系</p> <p>人体構造系II</p> <p>発生・組織系II</p> <p>動物性機能系</p> <p>内臓機能・体液系II</p> <p>疾患総論</p> <p>感染系</p> <p>免疫系</p> <p>病理総論系</p> <p>腫瘍系</p> <p>基礎医学TBL</p>	<p>医と社会II</p> <p>分子遺伝系</p> <p>神経・感覚器系I</p> <p>内臓機能・体液系I</p> <p>神経・感覚器系II</p> <p>疾患総論</p> <p>感染系</p> <p>免疫系</p> <p>病理総論系</p> <p>腫瘍系</p> <p>基礎医学TBL</p>	<p>環境因子系</p> <p>疾患総論</p> <p>薬理系</p> <p>病理各論系</p> <p>疾患各論</p> <p>血液・リンパ系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系</p> <p>免疫・アレルギー疾患系</p> <p>腎泌尿器系</p> <p>生殖系</p> <p>小児系</p> <p>放射線医学</p> <p>臨床医学TBL I</p> <p>基礎研究実習</p> <p>リサーチセミナー</p>	<p>医と社会III</p> <p>疾患総論</p> <p>薬理系</p> <p>病理各論系</p> <p>疾患各論</p> <p>血液・リンパ系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系</p> <p>免疫・アレルギー疾患系</p> <p>腎泌尿器系</p> <p>生殖系</p> <p>小児系</p> <p>診療の基本</p> <p>放線線医学</p> <p>臨床医学TBL II</p> <p>基礎研究実習</p> <p>リサーチセミナー</p>	<p>医と社会IV</p> <p>正常構造と機能</p> <p>疾患総論</p> <p>薬理系</p> <p>病理各論系</p> <p>疾患各論</p> <p>精神系</p> <p>脳・神経系</p> <p>皮膚系</p> <p>運動系</p> <p>視覚系</p> <p>耳鼻咽喉口腔系</p> <p>医学・医療と社会</p> <p>法医学系</p> <p>衛生学・分子疫学</p> <p>公衆衛生学</p> <p>診療の基本</p> <p>診断学</p> <p>臨床検査医学</p> <p>臨床疫学・医療情報学</p> <p>臨床薬理学</p> <p>東洋医学</p> <p>総合病理学</p> <p>臨床推論PBL</p> <p>臨床実習</p> <p>臨床実習 I</p>	<p>人体構造系III</p> <p>疾患総論</p> <p>薬理系</p> <p>病理各論系</p> <p>疾患各論</p> <p>精神系</p> <p>脳・神経系</p> <p>皮膚系</p> <p>運動系</p> <p>視覚系</p> <p>耳鼻咽喉口腔系</p> <p>医学・医療と社会</p> <p>法医学系</p> <p>衛生学・分子疫学</p> <p>公衆衛生学</p> <p>診療の基本</p> <p>診断学</p> <p>臨床検査医学</p> <p>臨床疫学・医療情報学</p> <p>臨床薬理学</p> <p>東洋医学</p> <p>総合病理学</p> <p>臨床推論PBL</p> <p>臨床実習</p> <p>臨床実習 I</p>	<p>臨床実習 II</p> <p>臨床実習 II</p> <p>高次臨床実習I</p>	<p>診療の基本</p> <p>臨床総括講義</p> <p>臨床実習 II</p> <p>高次臨床実習II</p>			卒業試験
医学ゼミ											
医学英語											

# 医学部カリキュラムの概要(学士2年後期編入学)

(平成24年度以降2年次後期編入学学生適用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次					
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
		医と社会		医と社会		医と社会		医と社会							
		正常構造と機能 人体構造系 生体分子系 分子遺伝系 神経・感覚器系 発生・組織系 動物性機能系 内臓機能・体液系		正常構造と機能 人体構造系 疾患総論 感染系 免疫系 環境因子系 病理総論系 病理各論系 分子病態系 腫瘍系 薬理系		医と社会 疾患各論 脳・神経系 運動系 消化器系 腎泌尿器系 生殖系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 免疫・アレルギー ギー疾患系 皮膚系 精神系 小児系 感染症系(含熱帯医学)		疾患各論 皮膚系 精神系 小児系 感染症系(含熱帯医学)		診療の基本 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 臨床総括講義 (PBLチュートリアル) 臨床実習 臨床実習		診療の基本 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 臨床総括講義 (PBLチュートリアル) 臨床実習 臨床実習		診療の基本 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 臨床総括講義 (PBLチュートリアル) 臨床実習 臨床実習	
		医学ゼミ		リサーチセミナー		医学ゼミ		医学ゼミ		医学ゼミ					
		医学英語		医学英語		医学英語		医学英語		医学英語					

学年・学期別の試験科目一覧（一般学生用）

学 年	前 期 末 試 験 期 間	後 期 末 試 験 期 間
1 年次		生体分子系 人体構造系 I 発生・組織系 内臓機能・体液系 I
2 年次	神経・感覚器系 人体構造系 II 動物性機能系	分子遺伝系 感染系 免疫系 腫瘍系 環境因子系
3 年次	病理総論系 放射線医学 循環器系 血液・リンパ系 腎泌尿器系 感染症系（含熱帯医学） 呼吸器系 薬理系	生殖系 運動系 臨床検査医学 内分泌・代謝・栄養系 消化器系
4 年次	人体構造系 III 薬理系 III 病理各論系 III 精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 衛生学・分子疫学 公衆衛生学 外科治療学	法医学系 診断学 臨床検査医学 東洋医学
5 年次		
6 年次	卒業試験	

学年・学期別の試験科目一覧（学士編入学者用）

学年	前期末試験期間	後期末試験期間
2年次	神経・感覚器系 人体構造系Ⅱ 動物性機能系	生体分子系 分子遺伝系 内臓機能・体液系Ⅰ 発生・組織系 内臓機能・体液系Ⅱ 感染系 免疫系 腫瘍系 環境因子系
3年次	病理総論系 放射線医学 循環器系 血液・リンパ系 腎泌尿器系 感染症系（含熱帯医学） 呼吸器系 薬理系	生殖系 運動系 臨床検査医学 内分泌・代謝・栄養系 消化器系
4年次	人体構造系Ⅲ 薬理系Ⅲ 病理各論系Ⅲ 精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 衛生学・分子疫学 公衆衛生学 外科治療学	法医学系 診断学 臨床検査医学 東洋医学
5年次		
6年次	卒業試験	

# 平成23年度以前入学者の科目の読替え表

平成23(2011)年度以前入学者カリキュラム科目				
開講年次	科目区分	科目	受講学期	旧カリ 単位数
1年	医と社会	医と社会	1前	7.5
2年	医と社会	医と社会	2後	
3年	医と社会	医と社会	3前・後	
4年	医と社会	医と社会	4前	
1年	入門科目	人間生物学	1前・後	4.0
1年	入門科目	細胞生物学	1前	1.0
1年	入門科目	原爆医学概論	1前	0.5
1年	入門科目	医学は長崎から	1前	0.5
1年	入門科目	医学統計学	1後	1.0
1年	入門科目	生物化学	1後	1.0
1年	入門科目	生物・化学実習	1後	2.0
1年	正常構造と機能	人体構造系	1後	6.5
2年	正常構造と機能	人体構造系	2前	
2年	正常構造と機能	生体分子系	2前	2.5
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2前	2.0
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2後	2.0
2年	正常構造と機能	発生・組織系	2後	3.0
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2後	2.5
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系 (生理学実習)	2前・後	3.5
2年	正常構造と機能	(生理学実習)	2前	
3年	疾患総論	感染症系	3前	3.5
3年	疾患総論	免疫系	3前	2.0
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)	3前	2.5
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.5
3年	疾患総論	病理各論系	3前・後	4.0
3年	疾患総論	分子病態系	3前	1.0
3年	疾患総論	腫瘍系	3前	1.0
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3後	2.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3後	2.0
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後	9.0
4年	疾患各論	免疫・アレルギー-疾患系	4前	1.0
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5
4年	疾患各論	消化器系	4前	2.5
4年	疾患各論	腎泌尿器系	4前	1.5
4年	疾患各論	生殖系	4前	2.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5
4年	疾患各論	皮膚系	4後	1.5
4年	疾患各論	精神系	4後	1.5
4年	疾患各論	小児系	4後	1.5
4年	疾患各論	感染症系	4後	2.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5
4年	医学・医療と社会	社会医学系	4前・後	5.0
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0
4年	診療の基本	放射線医学	4後	1.0
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0
4年	診療の基本	外科治療学	4後	2.0
5年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床薬理学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床総括講義	5前・後	8.5

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者カリキュラム				
開講年次	科目区分	科目	受講学期	新カリ 単位数
1年	医と社会	医と社会I	1前	2.5
2年	医と社会	医と社会II	2後	2.0
3年	医と社会	医と社会III	3前・後	2.5
4年	医と社会	医と社会IV	4前	0.5
1年	入門科目	人間生物学	1前	2.0
1年	学部モジュール科目	細胞生物学	1前	2.0
1年	学部モジュール科目	原爆医学概論	1前	2.0
1年	学部モジュール科目	医学は長崎から	1前	2.0
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0
1年				読替え科目なし
1年				読替え科目なし
1年	正常構造と機能	人体構造系I	1後	2.0
2年	正常構造と機能	人体構造系II	2前	3.5
4年	正常構造と機能	人体構造系III	4前	1.0
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前	3.0
1年	正常構造と機能	分子遺伝系	1後	2.0
1年	正常構造と機能	神経・感覚器系I	1後	1.5
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系II	2後	0.5
1年	正常構造と機能	発生・組織系I	1後	0.5
2年	正常構造と機能	発生・組織系II	2前	2.5
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	2.5
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	1.0
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	2.5
2年	正常構造と機能	(生理学実習)	2前	
2年	疾患総論	感染症系	2後	3.5
2年	疾患総論	免疫系	2後	2.0
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む) I	3前	2.5
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む) II	3後	
4年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む) III	4前	
2年	疾患総論	病理総論系	2後	1.5
3年	疾患総論	病理各論系 I	3前	4.0
3年	疾患総論	病理各論系 II	3後	
4年	疾患総論	病理各論系 III	4前	
2年	疾患総論	基礎医学TBL	2後	1.0
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3前	2.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	2.0
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後	11.5
3年	疾患各論	免疫・アレルギー-疾患系	3後	1.0
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5
3年	疾患各論	消化器系	3前	2.5
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3後	1.5
3年	疾患各論	生殖系	3後	2.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.5
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.5
4年	疾患各論	精神系	4前	1.5
3年	疾患各論	小児系	3後	1.5
3年	疾患各論	感染症系	3前	2.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0
3年	診療の基本	放射線医学	3後	1.0
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0
4年	診療の基本	外科治療学	4前	2.0
4年	診療の基本	* 臨床疫学・医療情報学	4後	0.5
4年	診療の基本	* 臨床薬理学	4後	0.5
3年	診療の基本	* 臨床医学TBL I	3前	2.0
3年	診療の基本	* 臨床医学TBL II	3後	1.0
4年	診療の基本	* 臨床医学TBL III	4前	1.0
4年	診療の基本	* 東洋医学	4後	0.5
4年	診療の基本	* 総合病理学	4後	1.0
4年	診療の基本	* 臨床推論PBL	4後	3.0
4年	臨床実習	* 臨床実習	4後	

※H27年度までに下記の3科目を未履修でかつ3, 4年次に「*」の科目を履修する機会がなかった者のみ適用する科目				
5年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床薬理学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床総括講義	5前・後	8.5
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	42.0
6年	診療の基本	臨床総括講義(卒前集中講義)	6前	
6年	臨床実習	高次臨床実習	6前	18.0
5年	臨床実習	高次臨床実習I	5後	7.5
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	55.0
6年	診療の基本	臨床総括講義	6前	3.0
6年	臨床実習	高次臨床実習II	6前	20.0

※      の開講年次が変更になった科目については、新カリの開講年次において履修し、進級要件は、旧カリの開講年次の要件に含める。  
 ※      の開講年次が変更になった科目については、新カリの開講年次において履修するが、進級要件には含めない。

# 平成24～27年度入学者の科目の読替え表 (平成28年度以降入学者カリキュラム1～2年次開講科目)

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者 カリキュラム					平成28(2016)年度以降入学者 カリキュラム					
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前	2.5	1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0	
2年	医と社会	医と社会II	2後	2.0	2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0	
1年	入門科目	人間生物学(※)	1前	2.0	1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	細胞生物学	1前	2.0	1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	原爆医学概論	1前	2.0	1年	学部モジュール科目	医学史・原爆医学と長崎	1前	2.0	各2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学は長崎から	1前	2.0						
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1後	2.0	1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1前・後	2.0	
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前	3.0	1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5	3単位に読替え
1年	正常構造と機能	分子遺伝系(※)	1後	2.0	2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0	
1年	正常構造と機能	神経・感覚器系I(※)	1後	1.5	2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	1.5	1科目履修で2科目に読替え
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系II	2後	0.5						
1年	正常構造と機能	発生・組織系I	1後	0.5	1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0	1科目履修で2科目に読替え
2年	正常構造と機能	発生・組織系II	2前	2.5						
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	2.5	2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5	2.5単位に読替え
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	1.0	1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	3.5	
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II(※)	2前	2.5	2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	0.5	
2年	疾患総論	感染系	2後	3.5	2年	疾患総論	感染系	2後	2.5	3.5単位に読替え
2年	疾患総論	免疫系	2後	2.0	2年	疾患総論	免疫系	2後	1.5	2単位に読替え
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0	2年	疾患総論	環境因子系	2後	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0	2年	疾患総論	腫瘍系	2後	0.5	1単位に読替え

## 平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者

- ※   の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成24(2012)～平成27(2015)年度カリの開講年次の要件に含める。
- ※   の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成28(2016)年度カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。
- ※ 内臓機能・体液系II の未修得学生は平成28(2016)年度以降カリの内臓機能・体液系Iも再履修すること。

## 平成28(2016)年度編入学生

- ※ 朱書きの科目 については、平成28(2016)年度に別途補講・試験等を行う。

# 平成24～27年度入学者の科目の読替え表

## (平成28年度以降入学者カリキュラム3～6年次開講科目)

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者 カリキュラム				
開講年次	科目区分	科目	受講学期	単位数
3年	医と社会	医と社会Ⅲ	3前・後	2.5
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	0.5
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	1.0
2年	疾患総論	病理総論系	2後	1.5
2年	疾患総論	基礎医学TBL	2後	1.0
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅰ	3前	2.5
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅱ	3後	
4年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅲ	4前	4.0
3年	疾患総論	病理各論系Ⅰ	3前	
3年	疾患総論	病理各論系Ⅱ	3後	
4年	疾患総論	病理各論系Ⅲ	4前	1.5
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	
3年	疾患各論	循環器系	3前	2.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	2.0
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	疾患各論	消化器系	3前	2.5
3年	疾患各論	感染症系	3前	2.0
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3後	1.5
3年	疾患各論	生殖系	3後	2.5
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5
3年	疾患各論	小児系	3後	1.5
3年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	3後	1.0
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.5
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.5
4年	疾患各論	精神系	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5
3年	診療の基本	放射線医学	3後	1.0
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0
4年	診療の基本	外科治療学	4前	2.0
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4後	0.5
4年	診療の基本	臨床薬理学	4後	0.5
4年	診療の基本	東洋医学	4後	0.5
4年	診療の基本	総合病理学	4後	1.0
3年	診療の基本	臨床医学TBLⅠ	3前	2.0
3年	診療の基本	臨床医学TBLⅡ	3後	1.0
4年	診療の基本	臨床医学TBLⅢ	4前	1.0
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	3.0
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	55.0
5年	臨床実習	高次臨床実習Ⅰ	5後	7.5
6年	診療の基本	臨床総括講義	6前	3.0
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	20.0

平成28(2016)年度以降入学者 カリキュラム					
開講年次	科目区分	科目	受講学期	単位数	
3年	医と社会	医と社会Ⅲ	3前・後	2.0	2.5単位に読替え
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	1.0	0.5単位に読替え
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	0.5	1単位に読替え
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.0	1.5単位に読替え
3年	疾患総論	基礎医学TBL	3前	1.5	1単位に読替え
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)	3前	1.0	すべて履修することで 2.5単位に読替え
3年	疾患各論	(各科目の薬理系部分を履修)	3前・後		
4年	疾患各論	(各科目の薬理系部分を履修)	4前		すべて履修することで 4単位に読替え
3年	疾患各論	(各科目の病理各論系部分を履修)	3前・後		
4年	疾患各論	(各科目の病理各論系部分を履修)	4前		
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3前	1.5	
3年	疾患各論	循環器系	3前	4.5	2.5単位に読替え
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	1.5	2単位に読替え
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5	
3年	疾患各論	消化器系	3後	3.0	2.5単位に読替え
3年	疾患各論	感染症系	3前	1.5	2単位に読替え
3年	疾患各論	運動系	3後	2.5	1.5単位に読替え
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3前	1.5	
3年	疾患各論	生殖系	3後	3.5	2.5単位に読替え
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5	
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5	1単位に読替え
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0	2.5単位に読替え
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0	1.5単位に読替え
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5	
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5	2科目履修することで
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5	1科目に読替え
3年	診療の基本	放射線医学	3前	0.5	すべて履修することで 1科目に読替え
3年	疾患各論	(各科目の放射線医学部分を履修)	3前・後		
4年	疾患各論	(各科目の放射線医学部分を履修)	4前		
3年	診療の基本	臨床検査医学	3後	0.5	1単位に読替え
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5	3単位に読替え
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5	2単位に読替え
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5	
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5	1単位に読替え
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0	1科目履修で4科目に 読替え
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0	55単位に読替え
5年	臨床実習	高次臨床実習Ⅰ	5後	12.5	7.5単位に読替え
6年	診療の基本	卒業試験	6前・後		3単位に読替え
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	25.0	20単位に読替え

### 平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者

※      の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成24(2012)～平成27(2015)年度カリの開講年次の要件に含める。

※      の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成28(2016)年度カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。

# 長崎大学ナンバリング・システムについて

長崎大学ナンバリング・システムとは、長崎大学で開講されているすべての授業科目（教養教育科目・学部専門科目・大学院専門科目等。旧カリキュラム科目は除く）に対し、授業内容・レベル等に応じて特定の記号や数字やナンバーを付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより、体系的な教育プログラムの実現を目指す方法のことです。

## 1 長崎大学ナンバリング・システムの統一フォーマット

長崎大学の全授業科目には、以下のような統一した形式でナンバーが付されています：

AB	CD	1	234	5
学部等 コード	領域/プログ ラムコード	水準 コード	識別 コード	使用言語 コード

通常表示部分

表示例

専門教育科目 医と社会 GEFY 11111

【学部等コード】科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。医学科は「ME」で統一されています。

【領域/プログラムコード】科目を提供する学部等のカリキュラム体系上の大きな区分を表す2文字の英文字です。医学科は「ME」で統一されています。

【水準コード】科目の授業のレベルを示す1桁の数字です。数字と学年は必ずしも一致するものではありません。識別コードの詳細については表2を参照ください。

【識別コード】「領域/プログラムコード」で大きく区分された科目群を更に識別するための3桁の数字です。学部・研究科ごとに独自の規則で識別コードが付与されています。

【使用言語コード】その科目の授業中に使用される言語を表す1桁の数字です。表3を参照ください。

## 2 長崎大学ナンバリング・システムの特徴

### 識別コード

識別コードによって、授業科目の履修体系上でのおおよその位置づけが一目で識別できます。

## 3 ナンバリング・システムの活用方法

記号や数字の意味することを理解した上で、便覧等に示された学部や研究科ごとの科目ナンバー付与規則を理解してください。慣れてくると、科目ナンバーを見るだけで、カリキュラム体系上どのような位置づけの科目であるか分かるようになります。

識別コードは、体系的に設計してありますので、科目選択や履修順序を判断する際に利用してください。

シラバスに履修の前提とする科目が科目ナンバーで記載されている場合があります。そのときは、NU-Webの検索機能でどのような科目であるか調べてください（平成27年10月以降使用可）。

専門的な学習を行うようになったら、科目ナンバーの学問分類からその科目の学問上の位置づけを把握することで、履修科目の体系に関する理解が更に深まります。

表 2

0 : 卒業要件外科目 (大学入学前に修得する内容の科目, リメディアル科目, 卒業要件外授業科目)	
1 : 学部専門科目 (入門的内容の科目), 教養教育科目 (語学上級科目, 高年次対象科目を除く)	学部科目
2 : 学部専門科目 (基礎的内容の科目), 教養教育科目 (語学上級, 高年次対象科目)	
3 : 学部専門科目 (発展的内容の科目), 教養教育科目 (高年次対象科目)	
4 : 学部専門科目 (卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬5~6年科目)	

表 3

1 : 日本語で行う授業	6 : ドイツ語で行う授業
2 : 英語で行う授業	7 : フランス語で行う授業
3 : 日本語と英語のバイリンガル授業	8 : オランダ語で行う授業
4 : 中国語で行う授業	9 : 日本語と英語以外の外国語のバイリンガル授業
5 : 韓国語で行う授業	0 : (予備)

授業科目区分	科目名	ナンバリング	授業科目区分	科目名	ナンバリング	
医と社会	医と社会 I	MEME21011	診療の基本	診断学	MEME37011	
	医と社会 II	MEME21021		放射線医学	MEME37021	
	医と社会 III	MEME31031		臨床検査医学	MEME37031	
	医と社会 IV	MEME31041		外科治療学	MEME37041	
入門科目	人間生物学	MEME12011		臨床疫学・医療情報学	MEME37051	
	人体構造系 I	MEME23011		臨床薬理学	MEME37061	
正常構造と機能	人体構造系 II	MEME23021		臨床総括講義	MEME47071	
	生体分子系	MEME23031		臨床医学TBL I	MEME37081	
	分子遺伝系	MEME23041		臨床医学TBL II	MEME37091	
	動物性機能系	MEME23071		臨床推論PBL	MEME37131	
	人体構造系 III	MEME33101	臨床実習	臨床実習	MEME48011	
	神経・感覚器系 I	MEME23111		高次臨床実習 I	MEME48311	
	発生・組織系 I	MEME23121		高次臨床実習 II	MEME48321	
	疾患総論	内臓機能・体液系 I	MEME23131	基礎研究実習	リサーチセミナー	MEME39011
		神経・感覚器系 II	MEME23141		プレリサーチセミナー I	MEME29041
		発生・組織系 II	MEME23151		プレリサーチセミナー II	MEME29051
内臓機能・体液系 II		MEME23161	プレリサーチセミナー III		MEME39061	
感染系		MEME24011	アドバンストリサーチセミナー I		MEME39071	
免疫系		MEME24021	アドバンストリサーチセミナー II		MEME39081	
環境因子系		MEME34031	アドバンストリサーチセミナー III		MEME49091	
薬理系		MEME34041	アドバンストリサーチセミナー IV		MEME49101	
病理総論系		MEME24051	アドバンストリサーチセミナー V		MEME49111	
疾患各論		病理各論系	MEME34081		医学総合セミナー	医学ゼミ I
	腫瘍系	MEME24101	医学ゼミ II	MEME20021		
	基礎医学TBL	MEME24111	医学ゼミ III	MEME30031		
	血液・リンパ系	MEME35011	地域医療ゼミ	MEME20091		
	循環器系	MEME35021	熱帯医学ゼミ	MEME20251		
	呼吸器系	MEME35031	医学英語	国際医療英語 I	MEME20172	
	内分泌・代謝・栄養系	MEME35041		国際医療英語 II	MEME20182	
	免疫・アレルギー疾患系	MEME35051		医学英語 I	MEME21512	
	脳・神経系	MEME35061		医学英語 II	MEME21522	
	皮膚系	MEME35071		医学英語 III	MEME21532	
運動系	MEME35081	医学英語 IV		MEME21542		
医学・医療と社会	消化器系	MEME35091	学部モジュール	人間生物学	MEME16011	
	腎泌尿器系	MEME35101		細胞生物学	MEME16021	
	生殖系	MEME35111		医学統計学	MEME16031	
	視覚系	MEME35121		原爆医学概論	MEME16041	
	耳鼻咽喉口腔系	MEME35131		医学は長崎から	MEME16051	
	精神系	MEME35141		医学史・原爆医学と長崎	MEME16061	
	小児系	MEME35151		Communication Skill in English	MEME16073	
	感染症系	MEME35161				
	法医学系	MEME36011				
	社会医学系	MEME36021				
衛生学・分子疫学	MEME36031					
公衆衛生学	MEME36041					
公衆衛生学	MEME36051					

## 医学部医学科のディプロマポリシーにおける領域ごとの達成レベル

レベル(達成度)	卒業教育	Advanced	Applied	Basic			
<b>I. 倫理観とプロフェッショナリズム</b>	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部学生は卒業時に							
自らの健康管理にも努め、生涯にわたる学習意欲を有し、生命倫理・医療倫理を重んじ、豊かな人間性と社会的使命感に基づいた行動ができる。	診療の現場で医師としての態度・価値観・行動を実践できる	診療の現場で医師としての態度・価値観・行動をせしめず	医師としての態度・価値観をシミュレーションできる	技能・態度を示すことができる	知識を獲得している	経験する機会はあるが、単位認定には関係ない	経験する機会がない
<b>II. 医学・医療に関する知識(ver.2.1)</b>	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部学生は卒業時に							
医学・医療の基本的知識を有し、総合的理解に基づいて課題を探求し、適切に問題解決できる。	実践の場で課題を探求し、適切に問題解決できる	実践の場で課題を探求し、解決への応用ができる	課題解決のための知識を示すことができる	課題解決の道筋を設定できる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	修得する機会がない
<b>III. 医療の実践(ver.3.1)</b>	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部学生は卒業時に							
医師としての業務を遂行する専門職として必要な基本的診療能力(統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的能力)を有し、適切な診療計画を立てることができる。	診療の場で実践することができる	診療の一部として実践することができる	模擬診療を実施できる	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない
<b>IV. コミュニケーション技能(ver.2.0)</b>	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部生は卒業時に							
人間理解に立った高い協調性のもとに医療の場において関わる全ての人のと良好な人間関係を構築できる。	診療の場で実践することができる	診療の一部として実践することができる	模擬診療を実施できる	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない
<b>V. 地域医療・社会医学(ver.3.0)</b>	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部生は卒業時に							
医療行政・福祉・保健・医療経済への配慮の下、チームの一員として多職種と協働し、地域社会や国際社会へ貢献するための能力を身につけている。	地域医療のチームの一員として診療を実践できる	地域医療のチーム一員として診療の一部を実践できる	地域における課題の発見と計画立案ができる	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない
<b>VI. 科学的探究</b>	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部生は卒業時に							
医学研究の必要性を理解し、研究に参加すると共に、科学性及び医学的創造性に基づいた論理的思考や独創的発想ができる。	計画に沿って、自主的に研究に参加し、常に科学性および医学的創造性に基づいた論理的思考ができる	計画に沿って、一部自主的に参加できる	研究計画の立案、研究の見学、参加する	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない

平成30年度 授業時間割 1年前期

月	日	月								日	火								日	水					日	木					日	金																																						
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5																																		
		8:50 9:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40		8:50 9:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40		8:50 10:20	10:30	12:00	14:20	16:00	17:40		8:50 10:20	10:30	12:00	14:20	16:00	17:40		8:50 10:20	10:30	12:00	14:20	16:00	17:40																															
4	2									3	入学式								4	医学部オリエンテーション					5						6																																							
	9	医学英語A	医学英語B	医と社会I	人体構造系骨学	骨学実習				10	医と社会I (共修)								11	※教養教育					12	(学部モジュール) 医科生物学入門					13	(学部モジュール) 医科生物学入門																																						
	16								17																18																																													
	23								24																25																																													
	30	振替休日								1															2						3	憲法記念日					4	みどりの日																																
5	7	英語A	英語B	医と社会I	骨学	骨学実習				8	医と社会I								9	※教養教育					10	(学部モジュール) 医科生物学入門					11	(学部モジュール) 医科生物学入門																																						
	14	人体構造系分子系							15																16																																													
	21	人体構造系防学							22	英語A	英語B	発生組織系・上皮組織	支持組織												23																																													
	28	英語A	英語B						29	英語A	英語B	発生組織系・支持組織	筋組織												30																																													
6	4								5	医と社会I								6	※教養教育					7	※教養教育					8	※教養教育																																							
	11	人体構造系防学							12																																		13																											
	18								19																																		20																											
	25	医学英語A	医学英語B	医と社会I	生体分子系				26																																		27																											
7	2								3											4							5																																											
	9								10	英語A	英語B	英語C								11							12																																											
	16	海の日								17										18							19																																											
	23	試験期間								24	試験期間								25	試験期間					26	試験期間					27	試験期間																																						
	30																																							31											1							2												
8	6	夏季休業								7	夏季休業								8	夏季休業					9	夏季休業					10	夏季休業																																						
	13																																							14											15							16												
	20																																							21											22							23												
	27																																							28											29							30												
9	3	試験期間								4	試験期間								5	試験期間					6	試験期間					7	試験期間																																						
	10																																							11											12							13												
	17	敬老の日								18	試験期間								19	試験期間					20	試験期間					21	試験期間																																						

平成30年度 授業時間割 1年後期

月	日	月							日	火								日	水					日	木					日	金																																							
		1	2	3	4	5	6	7		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5																																			
		8:50 9:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30		8:50 9:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40		8:50 10:20	10:30	12:00	14:20	16:00	17:40		8:50 10:20	10:30	12:00	14:20	16:00	17:40		8:50 10:20	10:30	12:00	14:20	16:00	17:40																																
9	24	振替休日								25	人体構造系			内臓機能体液系	細胞生理・自律						26						27																																											
	1	人体構造系							2				発生組織系	脈管・リンパ						3	※教養教育					4	※教養教育					5	※教養教育																																					
	8	体育の日								9								10																					11																															
	15	人体構造系脈管							16											17																																																		
	22								23				内臓機能体液系	循環器						24																																																		
	29								30				発生組織系	消化器						31																																																		
11	5								6				発生組織系	口腔・消化器						7	※教養教育					8	※教養教育					9	※教養教育																																					
	12								13										14																																																			
	19	人体構造系内臓							20				発生組織系・呼吸器						21																																																			
	26								27				発生組織系・泌尿器						28																																																			
	3								4				発生組織系・男性生殖器						5																																																			
	10								11				発生組織系・女性生殖器						12																																																			
	17								18				生化学実習						19																																																			
	24	振替休日								25	冬季休業								26	冬季休業					27	冬季休業					28	冬季休業																																						
	31	冬季休業								1	元日								2	冬季休業					3	冬季休業					4	冬季休業																																						
1	7	人体構造系							8				生化学実習						9	教養教育					10	教養教育					11	教養教育																																						
	14	成人の日								15								16																																																				
	21	人体構造系							22				発生組織系	内分泌					23																																																			
	28								29										30																																																			
	4	人体構造系	医と社会						5				発生組織系						6																																																			
2	11	建国記念の日								12	退職教授記念講演会								13	退職教授記念講演会					14	試験期間					15	試験期間																																						
	18	試験期間								19	試験期間								20	試験期間					21	試験期間					22	試験期間																																						
	25																																							26											27							28												
3	4	春季休業								5	春季休業								6	春季休業					7	春季休業					8	春季休業																																						
	11																																							12											13																			
	18																																							19											20																			
	25																																							26											27																			
																				28																																																		

# 医と社会 I

責任者	氏名 (教室)	安武 亨 (先端医育センター)		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medicine and Society 1		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

医学生として、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、チーム医療および医療に必要な患者とのコミュニケーションスキルを学ぶ。また、病院やリハビリテーション施設での体験実習を通して、医師の立場や病める人の立場から見た医療・リハビリテーション・介護について実感する。さらに地域包括ケアシステムを理解し、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。その他にも、情報収集法の会得などの学び方を学び、医学書にはない“大切なこと”を学ぶ。

## 2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
5. チーム医療の重要性を理解し、関連専門職との連携を図ることができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

### 1) 実習

- (1) 学内演習 (保健学科と共修)
- (2) 病院見学 長崎大学病院医局
- (3) 学外施設見学 リハビリテーション施設 (保健学科と共修)

### 2) 医学テーマ

- (1) チーム医療・ワークショップ (保健学科と共修)
- (2) 実習の心得：病院オリエンテーション (保健学科と共修)
- (3) プロフェッショナリズム
- (4) 地域包括ケアシステム
- (5) 地域医療
- (6) 臓器移植・再生医療
- (7) 熱帯医学
- (8) 対人関係
- (9) プライマリヘルスケア
- (10) グローバルヘルス
- (11) 臨床倫理
- (12) 図書館の利用法

## 4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻(打刻可能な講義室の場合)、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

## 7. 教員名

安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子、北山 素（先端医育センター）  
永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、  
前田 隆浩、小屋松 淳（地域医療学）、  
江藤 宏美、松浦 江美、森藤 香奈子、坂本 淳哉、岩永 竜一郎、  
澤井 照光、井口 茂（保健学科）、  
増崎 英明（病院長）、貞方 三枝子（看護部長）、石井 瞬（リハビリテーション部）、  
柳原 克紀（臨床検査医学）、宮本 俊之（外傷センター）、阿比留 教生（第一内科）、  
平山 謙二（熱帯医学研究所）、江口 晋（第二外科）、  
荒木 利卓（福西会病院）、八坂 貴宏（長崎県上五島病院）、永田 耕司（活水女子大学）

## 8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行い、実施要項に従う。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

医と社会 I

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	9	月	3	ようこそ先輩		臨床検査医学 柳原 克紀	1 講
4	10	火	1~3	保健学科共修	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割	地域包括ケア教育センター 保健学科	2 講
4	16	月	3	未定			1 講
4	17	火	1~3	保健学科共修	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割 病院見学実習に向けた接遇とコミュニケーション	地域医療学 地域包括ケア教育センター 保健学科	2 講
4	23	月	3	プロフェッショナリズム	臨床倫理	福西会病院 荒木 利卓	1 講
4	24	火	1	ようこそ先輩	骨を診るコツ	外傷センター 宮本 俊之	2 講
4	24	火	2	ようこそ先輩	発生学と進化論	長崎大学病院長 増崎 英明	2 講
4	24	火	3	基本的資質・能力	対人関係	活水女子大学 永田 耕司	2 講
5	1	火	1	未定			4 講
5	1	火	2	未定			4 講
5	1	火	3	未定			4 講
5	7	月	3	国際医療	熱帯医学	熱帯医学研究所 平山 謙二	1 講
5	8	火	1	未定			1 講
5	8	火	2	医学知識と問題対応能力	PBLとは何か?	先端医育センター 田中 邦彦	1 講
5	8	火	3	人の行動と心理	心理学入門	保健・医療推進センター 小川 さやか	1 講
5	15	火	1	未定			2 講
5	15	火	2~3	生涯学習	図書館ガイダンス		2 講
5	29	火	1	基本的資質・能力	病院見学オリエンテーション 「大学病院の歩き方」	医育センター 安武 享	4 講
5	29	火	2	基本的資質・能力	医師のキャリアパスとプロフェッショナリズム	医療教育開発センター 小畑 陽子	4 講
6	5	火	1~3	保健学科共修	学外施設実習のオリエンテーション	地域包括ケア教育センター 保健学科	2 講
6	5	火	4	ようこそ先輩	代謝(タイシャ)学って、面白い!?	第一内科 阿比留 教生	2 講
6	5	火	5~6	国際医療	熱帯医学とグローバルヘルス	熱帯医学研究所 有吉 紅也	2 講
6	12	火	1~6	実習	学外施設見学/大学病院医局見学	先端医育センター 地域包括ケア教育センター 保健学科	学外実習
6	19	火	1~6	実習	大学病院医局見学/学外施設見学	先端医育センター 地域包括ケア教育センター 保健学科	学外実習
6	26	火	1~3	保健学科共修	望ましいチーム医療とは何か	保健学科	4 講
6	26	火	4	未定			4 講
6	26	火	5	社会と医学・医療	プライマリヘルスケア	長崎県上五島病院 八坂 貴宏	4 講
6	26	火	6	先進医学	臓器移植・再生医療	移植・消化器外科 江口 晋	4 講
7	3	火	1	未定			2 講
7	3	火	2	未定			2 講
7	3	火	3	未定			2 講
7	9	月	3	ようこそ先輩		5年生	1 講
12	3	月	3	ようこそ先輩		5年生	1 講
2	4	月	3	未定			1 講

# 人体構造系 I

責任者	氏名 (教室)	弦本 敏行 (肉眼解剖学 (解剖学第二))		
	電話番号	095-819-7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 17:00~18:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human Body Structure 1		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を体系的に習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つ一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、骨学実習は骨の構造を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

## 2. 授業到達目標

人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学, 末梢神経学の講義および骨学実習を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

★グレイ解剖学 (第3版) 塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン

★ネッター解剖学アトラス 相磯貞和 訳 南江堂

骨学実習の手びき 寺田春水、藤田恒夫 南山堂

分担解剖学1 (総説・骨学・筋学) 小川鼎三、森 於菟他 金原出版

分担解剖学2 (脈管学・神経系) 平沢興 他 金原出版

分担解剖学3 (感覚器学・内臓学) 小川鼎三 他 金原出版

## 5. 成績評価の方法・基準等

骨学、筋学、脈管学、内臓学についての筆答試験および骨学についての実習試験を行い、総合的に評価する

・受験資格 講義：2/3以上出席、実習：原則として皆出席

・分野と配点

骨学実習—50点、骨学—50点、筋学—50点、脈管学—50点 内臓学—100点

・試験と評価

○本試験：分野毎に合否を評価

○再試験：本試験の不合格分野のみを受験

再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する

※ 本試験、再試験とも無届欠席は失格とする

## 6. 事前・事後学修の内容

骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておく

## 7. 教員名

弦本 敏行、岡本 圭史、佐伯 和信、高村 敬子 (肉眼解剖分野)、  
真鍋 義孝、小山田 常一、西 啓太 (歯学部)

## 8. 備考

- ・毎時間、教科書（グレイ解剖学）を必ず持参すること。
- ・骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておくこと。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

# 人体構造系 I

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	9	月	4	骨学 1	骨学総論	肉眼解剖・弦本	1 講
4	9	月	5~6	骨学実習 1	全身骨格の概観	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	実 1
4	16	月	4	骨学 2	頭蓋①	歯学部・真鍋	1 講
4	16	月	5~6	骨学実習 2	頭蓋の観察① (歯学部1年生との共修)	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 歯学部・真鍋、小山田、西	実 1
4	23	月	4	骨学 3	頭蓋②	歯学部・真鍋	1 講
4	23	月	5~6	骨学実習 3	頭蓋の観察② (歯学部1年生との共修)	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 歯学部・真鍋、小山田、西	実 1
5	7	月	4	骨学 4	上肢の骨・脊椎	肉眼解剖・弦本	1 講
5	7	月	5~6	骨学実習 4	上肢の骨・脊椎の観察 (歯学部1年生との共修)	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 歯学部・真鍋、小山田、西	実 1
5	14	月	4	骨学 5	下肢の骨・胸郭	肉眼解剖・弦本	1 講
5	14	月	5~6	骨学実習 5	下肢の骨・胸郭の観察 (歯学部1年生との共修)	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 歯学部・真鍋、小山田、西	実 1
5	21	月	1	筋学 1	筋学総論	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
5	21	月	2	筋学 2	頭頸部の筋	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
6	4	月	1	筋学 3	胸腹部の筋	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
6	4	月	2	筋学 4	背部の筋	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
6	11	月	1	筋学 5	上肢の筋①	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
6	11	月	2	筋学 6	上肢の筋②	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
6	18	火	1	筋学 7	下肢の筋①	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
6	18	火	2	筋学 8	下肢の筋②	肉眼解剖・弦本、佐伯	1 講
9	25	火	1	脈管学 1	脈管学総論、心臓①	肉眼解剖・弦本	1 講
9	25	火	2	脈管学 2	心臓②	肉眼解剖・弦本	1 講
10	1	月	1	脈管学 3	心臓③	肉眼解剖・弦本	1 講
10	1	月	2	脈管学 4	動脈系①	肉眼解剖・弦本	1 講
10	15	月	1	脈管学 5	動脈系②	肉眼解剖・岡本	1 講
10	15	月	2	脈管学 6	動脈系③	肉眼解剖・弦本	1 講
10	22	月	1	脈管学 7	静脈系	肉眼解剖・弦本	1 講
10	22	月	2	脈管学 8	胎児循環、リンパ系	肉眼解剖・弦本	1 講
10	29	月	1	内臓学 1	内臓学総論、消化器系①	肉眼解剖・弦本	1 講
10	29	月	2	内臓学 2	消化器系②	肉眼解剖・弦本	1 講
11	5	月	1	内臓学 3	消化器系③	肉眼解剖・岡本	1 講
11	5	月	2	内臓学 4	消化器系④	肉眼解剖・弦本	1 講
11	12	月	1	内臓学 5	消化器系⑤	肉眼解剖・弦本	1 講
11	12	月	2	内臓学 6	消化器系⑥	肉眼解剖・弦本	1 講
11	19	月	1	内臓学 7	呼吸器系①	肉眼解剖・佐伯	1 講
11	19	月	2	内臓学 8	呼吸器系②	肉眼解剖・佐伯	1 講

# 人体構造系 I

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	26	月	1	内臓学 9	呼吸器系③	肉眼解剖・佐伯	1 講
11	26	月	2	内臓学 1 0	呼吸器系④	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	3	月	1	内臓学 1 1	泌尿器系①	肉眼解剖・岡本	1 講
12	3	月	2	内臓学 1 2	泌尿器系②	肉眼解剖・岡本	1 講
12	10	月	1	内臓学 1 3	男性生殖器系①	肉眼解剖・弦本	1 講
12	10	月	2	内臓学 1 4	男性生殖器系②	肉眼解剖・弦本	1 講
12	17	月	1	内臓学 1 5	女性生殖器系①	肉眼解剖・岡本	1 講
12	17	月	2	内臓学 1 6	女性生殖器系②	肉眼解剖・岡本	1 講
1	7	月	1	内臓学 1 7	会陰	肉眼解剖・岡本	1 講
1	7	月	2	内臓学 1 8	腹膜	肉眼解剖・岡本	1 講
1	21	月	1	内臓学 1 9	内分泌器系	肉眼解剖・弦本	1 講
1	21	月	2	内臓学 2 0	感覚器	肉眼解剖・弦本	1 講
1	28	月	1	末梢神経系 1	末梢神経総論	肉眼解剖・弦本	1 講
2	4	月	1	末梢神経系 2	脊髄神経①	肉眼解剖・岡本	1 講
2	4	月	2	末梢神経系 3	脊髄神経②	肉眼解剖・岡本	1 講

# 生体分子系

責任者	氏名 (教室)	伊藤 敬 (生化学)		
	電話番号	095-819-7073	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 13:00~17:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Biochemistry		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。さらに講義の内容の一部は実習により再確認する。実験・学習に際しての心構え・態度を養い、また実験結果のまとめ方を学ぶ。実習には予習が不可欠であり、各項目の内容等については、予め各担当教官からの説明があるが、実習の手引を熟読して内容を理解した上で実験を行うこと。

## 2. 授業到達目標

生化学の基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。関連した自習に関して実験項目は各担当教官が設定した目標に従い、計画されているが、学生個々がこの項目の実験を行うことにより、何を学び、何を修得するのか、目標を定め実験することを目標とする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

次の項目について講義を行う。

(1)生命に必要な元素 (2)有機化合物 (3)化学反応論 (4)有機電子論 (5)不飽和炭化水素 (6)医薬品の化学 (7)生体分子(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸) (8)酵素の構造と機能 (9)代謝総論 (10)糖質の代謝 (11)脂質の代謝 (12)ヌクレオチドの代謝 (13)アミノ酸の代謝 (14)ポルフィリンの代謝 (15)臓器に特有な生化学

## 4. 教科書・教材・参考書

ヴォート生化学上下(3版) 村松正實 訳 東京化学同人  
又は ヴォート基礎生化学(3版) 村松正實 訳 東京化学同人

## 5. 成績評価の方法・基準等

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とし成績評価とする。実習に関してはレポート、実習状況、出欠状況等を総合して評価する。生化学実習は生化学試験受験のための必修課題である。

## 6. 事前・事後学修の内容

資料による予習復習、関連する項目を教科書により復習すること

## 7. 教員名

伊藤 敬、中川 武弥、米田 光宏(医学部生化学)、  
奥田 晶彦(埼玉医科大学)、井上 聡(東京都健康長寿医療センター研究所)、  
宮西 隆幸(環境科学部)、山田 耕史、齋藤 義紀(薬学部 薬科学科)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

# 生体分子系

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	14	月	2	生命に必要な元素とその振舞い	原子の電子配置、化学結合と混成起動	薬学部・山田 耕史	1講
5	14	月	3	有機化合物の多様性	立体構造の表示と異性体の分類、命名	薬学部・山田 耕史	1講
5	21	月	5	有機化合物の振舞い	電気陰性度、酸性度、共鳴、芳香族性	薬学部・山田 耕史	1講
5	21	月	6	化学反応論	結合エネルギーと遷移状態、速度支配と熱力学支配、反応中間体	薬学部・山田 耕史	1講
5	28	月	5	有機電子論	電子の流れ図の書き方と考え方、反応の種類、極性反応、ラジカル反応	薬学部・山田 耕史	1講
5	28	月	6	不飽和炭化水素の化学	アルケン、アルキン、芳香族化合物	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	4	月	5	含酸素有機化合物の化学	アルコール、エーテル、カルボニル化合物	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	4	月	6	含窒素有機化合物の化学	アミン、複素環化合物	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	11	月	5	生体エネルギー学の基礎(1)	エネルギー学と熱力学	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	11	月	6	生体エネルギー学の基礎(2)	生物学的酸化還元反応	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	18	月	5	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	1講
6	18	月	6	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	1講
6	25	月	5	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	1講
6	25	月	6	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	1講
7	2	月	4	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	1講
7	2	月	5	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	1講
7	2	月	6	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	1講
7	9	月	4	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成グリコーゲンの代謝	生化学・伊藤	1講
7	9	月	5	ゲノム医学	未分化幹細胞維持の機構	埼玉医大・奥田	1講
7	9	月	6	ゲノム医学	エストロゲン受容体と癌化	埼玉医大・井上	1講
10	2	火	1	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	1講
10	2	火	2	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	1講
10	9	火	1	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤	1講
10	9	火	2	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	1講
10	16	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤	1講
10	16	火	2	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	1講
10	23	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤	1講
10	23	火	2	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	1講
10	30	火	1	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤	1講

# 生体分子系

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	30	火	2	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	1講
11	6	火	1	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	1講
11	6	火	2	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成分解と再利用	生化学・伊藤	1講
11	13	火	1	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤	1講
11	13	火	2	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	1講
11	20	火	1	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	1講
11	20	火	2	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	1講
12	18	火	4~6	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実1
1	8	火	4~6	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実1
1	15	火	4~6	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実1

# 発生・組織系

責任者	氏名 (教室)	小路 武彦 (組織発生解剖学 (解剖学第三))		
	電話番号	095-819-7027	e-mail	tkoji@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30~18:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human development and Histology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

医師となるために必要とされる正常人体組織学と発生学の基礎知識を修得する。それらの知識と組織標本観察力は、病理組織学を始め後に続いて修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学および組織学の知識のエッセンスを伝えたい。

## 2. 授業到達目標

本講義により顕微鏡像から組織・器官を特定でき、その形態的特徴を適切な用語を用いて説明できることを到達目標とする。また、各器官の発生学についても説明できることとする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

発生学および組織学総論・各論の講義を行う。講義と平行して組織学の実習を行い、実習内容を必要に応じてチェックする。講義は第一講義室で行い、実習は第二実習室で行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

<教科書>

カラー機能組織学 (原著第2版) J. B. Kerr 医歯薬出版 10,800円

標準組織学 総論 (5版)

原著: 藤田 尚男、藤田 恒夫 改訂: 岩永 敏彦 医学書院 8,856円

標準組織学 各論 (5版)

原著: 藤田 尚男、藤田 恒夫 改訂: 岩永 敏彦、石村 和敬 医学書院 12,960円

<参考書>

The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (10版)

K. L. Moore & T. V. N. Persuad Saunders 14,072円

標準細胞生物学 (2版) 石川春律、近藤尚武、柴田洋三郎 編 医学書院 5,832円

ラングマン人体発生学 (11版) T. W. Sadler 医歯薬出版 9,072円

ムーア人体発生学 (8版) K. L. Moore 医歯薬出版 12,960円

永遠の不死: 精子形成細胞の生物学 小路武彦 編 サイエンス社 2,376円

## 5. 成績評価の方法・基準等

成績の評価は、学期末に行うカラスライドを用いたペーパーテストに実習参加態度を加味し、最終合否判定を行う。また、LACSに掲げる小テストの達成状況を成績評価に加味する。なお、期末試験の受験には講義及び実習時間数の2/3以上の出席が必要でありこれに満たない場合は失格となる。

ペーパーテストは発生学分野30点、組織学講義分野30点、組織学実習分野40点の100点満点とし、合計点が60点以上で、3分野中2分野の得点が60%以上、1分野の得点が45%以上である場合を合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

## 6. 事前・事後学修の内容

講義・実習の資料および小テストを順次LACSへアップロードする。自主学習の指定した時間帯は実習室を開放するので各自で予習・復習に活用すること。また、LACSへ掲げる小テストに関しては全問正解するまで完遂すること。小テストの達成状況は試験の成績評価に加味する。

## 7. 教員名

小路 武彦、柴田 恭明（解剖学第三）、  
真鍋 義孝（口腔解剖第一）、  
西野 友哉、北村 峰昭（第二内科）、  
江島 邦彰（福岡青洲会病院）、進 正志（崇城大学）、菱川 善隆（宮崎大学）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

# 発生・組織系

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	24	火	5	1. 生殖形成	A. 体細胞分裂と成熟分裂	解剖3・小路	1講
4	24	火	6	1. 生殖形成	B. 成熟過程における形態学的変化	解剖3・小路	1講
5	1	火	5	2. 体腔と漿膜	A. 体腔の形成	解剖3・小路	1講
5	1	火	6	3. 排卵から着床まで		解剖3・柴田	1講
5	8	火	5	4. 2層性胚盤	A. 三胚葉誘導 B. 2か月中の外形	解剖3・柴田	1講
5	8	火	6	5. 3層性胚盤		解剖3・柴田	1講
5	15	火	5	6. 胚子期		非常勤・江島	1講
5	15	火	6	7. 胎児期	A. 胎児の発生	非常勤・江島	1講
5	22	火	3	細胞・組織の概念 上皮組織	・分類・上皮細胞間の特殊分化 ・腺（唾液腺）	解剖3・小路	1講
5	22	火	4	支持組織	・結合組織・軟骨	解剖3・小路	1講
5	22	火	5	筋組織	・平滑筋・骨格筋・心筋	解剖3・小路	1講
5	22	火	6	実習説明	諸注意、顕微鏡引き渡し	解剖3・小路、柴田	実2
5	29	火	3	上皮組織、支持組織、 筋組織	実習	解剖3・小路、柴田	実2
5	29	火	4	上皮組織、支持組織、 筋組織	実習	解剖3・小路、柴田	実2
5	29	火	5	上皮組織、支持組織、 筋組織	実習	解剖3・小路、柴田	実2
5	29	火	6	上皮組織、支持組織、 筋組織	実習	解剖3・小路、柴田	実2
10	2	火	3	脈管系	・心臓脈管の発生・血液 ・毛細血管・動脈・静脈・心臓	解剖3・柴田	1講
10	2	火	4~6	脈管系	実習	解剖3・小路、柴田	実2
10	9	火	3	リンパ性器官	・リンパ性器官の発生・リンパ ・リンパ節・脾臓・胸腺	非常勤・進	1講
10	9	火	4~6	リンパ性器官	実習	解剖3・小路、柴田 非常勤・進	実2
10	30	火	3	消化器系（口腔）	・口腔・歯・唾液腺	口腔解剖I・真鍋	1講
10	30	火	4~6	消化器系（口腔）	実習	解剖3・小路、柴田	実2
11	6	火	3	消化器系（I）	・消化管の発生・咽頭 ・食道・胃・小腸・大腸	非常勤・菱川	1講
11	6	火	4~6	消化器系（I）	実習	解剖3・小路、柴田 非常勤・菱川	実2
11	13	火	3	消化器系（II）	・肝臓・胆嚢の発生・肝臓と胆嚢 ・膵臓の発生・膵臓	解剖3・小路	1講
11	13	火	4~6	消化器系（II）	実習	解剖3・小路、柴田	実2
11	20	火	3	呼吸器系	・呼吸器系の発生 ・鼻腔・喉頭・気管・肺	解剖3・柴田	1講
11	20	火	4~6	呼吸器系	実習	解剖3・小路、柴田	実2
11	27	火	3	泌尿器系	・泌尿器系の発生 ・腎臓・尿管・膀胱・尿道	内科2・西野／北村	1講
11	27	火	4~6	泌尿器系	実習	解剖3・小路、柴田	実2
12	4	火	3	男性生殖器系	・男性生殖器系の発生 ・精巣・精路とその付属腺	解剖3・小路	1講
12	4	火	4~6	男性生殖器系	実習	解剖3・小路、柴田	実2
12	11	火	3	女性生殖器系	・女性生殖器の発生・卵巣・卵管 ・子宮・膣・外陰部・胎盤・乳腺	非常勤・江島	1講

## 発生・組織系

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	11	火	4～6	女性生殖器系	実習	解剖3・小路、柴田 非常勤・江島	実2
1	22	火	3	内分泌系（Ⅰ）	・下垂体・上皮小体・甲状腺	解剖3・柴田	1講
1	22	火	4～6	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・小路、柴田	実2
1	29	火	3	内分泌系（Ⅱ）	・松果体・副腎・消化管の内分泌 ・パラガングリオン	解剖3・小路	1講
1	29	火	4～6	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・小路、柴田	実2
2	5	火	4～6	特殊染色実習	チューター制による組織標本染色実習	解剖3・小路、柴田	実2

# 内臓機能・体液系 I

責任者	氏名 (教室)	蒔田 直昌 (分子生理学 (生理学第一))		
	電話番号	095-819-7031	e-mail	nagasakimp@gmail.com
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～ (ただし試験前1週間を除く)		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。

## 2. 授業到達目標

個々の内臓機能を学ぶ臓器の生理学を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

- |           |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|
| 1) 細胞生理学  | 2) 自律神経系 | 3) 循環器   | 4) 消化器   |
| 5) 呼吸器    | 6) 腎・排泄  | 7) 酸塩基平衡 | 8) 血液・体液 |
| 9) 内分泌・代謝 | 10) 体温調節 |          |          |

## 4. 教科書・教材・参考書

標準生理学 第8版 福田 康一郎 他 医学書院 12,960円

ギャノン生理学 25版 岡田泰伸 他 丸善 10,000円

ガイトン生理学 原著第11版 御手洗 玄洋 他 エルゼビア 21,600円

ボロン プールペーパー 生理学 泉井 亮 他 西村書店 10,260円

人体の正常構造と機能 第2版 坂井 建雄 他 日本医事新報 19,440円

なお、講義は指定した教科書の図を中心にパワーポイントで説明を交えて行う。講義用スライド・資料は各自以下のHPからダウンロードすること。紙の資料は配布しない。

- ・ 分子生理学HP <http://cvmp.med.nagasaki-u.ac.jp/>
- ・ 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は前半に1回 (細胞生理、自律、循環器、消化器、呼吸：講義数24)、期末に1回 (腎・排泄、酸塩基平衡、血液・体液、内分泌・代謝、体温調節：講義数24) を行う。前半および期末試験は講義のコマ数に準じた出題範囲と配点にする。前期試験50% 期末試験50%で最終成績を評価する。再試験は行わない。

旧カリキュラム (内臓機能体液系IまたはII) の再履修者は、旧カリキュラムでの履修済の範囲に関係なく、新カリキュラム内臓機能体液系Iの両試験を受験する。試験の受験資格、追試験に関しては医学部規定の通り。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書を参照し、予習復習を行うこと。

## 7. 教員名

蒔田 直昌、辻 幸臣、石川 泰輔 (分子生理学)、  
樽見 航 (神経生理学)、  
山下 俊一、光武 範吏 (原研医療)、  
前村 浩二 (循環器内科)、  
上田 陽一 (産業医大)、児島 将康 (久留米大)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

# 内臓機能・体液系 I

(1年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	25	火	4	細胞生理	細胞生理学	分子生理・蒔田	1 講
9	25	火	5	循環器1	心臓の構造・心筋の構造・イオンチャネル	分子生理・蒔田	1 講
9	25	火	6	循環器2	心臓の自動性・膜電位・活動電位	分子生理・蒔田	1 講
10	1	月	4	循環器3	心筋の興奮伝導と収縮の連関	分子生理・蒔田	1 講
10	1	月	5	循環器4	ポンプとしての心臓	分子生理・蒔田	1 講
10	1	月	6	循環器5	心電図 (1)	分子生理・蒔田	1 講
10	15	月	4	循環器6	心電図 (2)	分子生理・蒔田	1 講
10	15	月	5	循環器7	血管の機能・構造	分子生理・蒔田	1 講
10	15	月	6	循環器8	静脈・リンパ系、微小循環、局所循環	分子生理・蒔田	1 講
10	22	月	3	循環器9	心臓中枢、血管中枢、循環反射	分子生理・蒔田	1 講
10	22	月	4	循環器10 (特別講義)	循環生理と臨床医学の接点	循環器内科・前村	1 講
10	22	月	5	自律1	自律神経求心性神経と内臓-内臓反射	産業医大・上田	1 講
10	22	月	6	自律2	自律神経系とストレス反応	産業医大・上田	1 講
10	29	月	4	消化器1	消化器総論	原研医療・光武	1 講
10	29	月	5	消化器2	上部消化管	原研医療・光武	1 講
10	29	月	6	消化器3	下部消化管	原研医療・光武	1 講
11	5	月	4	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	分子生理・石川	1 講
11	12	月	3	消化器4	肝胆膵	原研医療・光武	1 講
11	12	月	4	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗	分子生理・石川	1 講
11	12	月	5	呼吸3	閉塞性と拘束性疾患	分子生理・石川	1 講
11	12	月	6	呼吸4	ガス交換 (酸素の運搬)、ヘモグロビンと酸素飽和度	分子生理・石川	1 講
11	19	月	4	呼吸5	ガス交換 (炭酸ガスの運搬)、換気血流比	分子生理・石川	1 講
11	19	月	5	呼吸6	肺循環 (肺血流、肺血管抵抗、肺内圧)	分子生理・石川	1 講
11	19	月	6	呼吸7	呼吸調節、呼吸中枢	分子生理・石川	1 講
11	26	月	3	酸・塩基平衡1	血液ガス、pH、酸塩基平衡調節	分子生理・石川	1 講
11	26	月	4	酸・塩基平衡2	呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	分子生理・石川	1 講
11	26	月	5	腎・排泄1	体液と浸透圧	分子生理・辻	1 講
11	26	月	6	腎・排泄2	腎臓の構造と機能	分子生理・辻	1 講
12	3	月	4	腎・排泄3	糸球体、傍糸球体装置	分子生理・辻	1 講
12	3	月	5	腎・排泄4	尿細管の機能、再吸収	分子生理・辻	1 講
12	3	月	6	腎・排泄5	尿の濃縮、クリアランス、排尿反射	分子生理・辻	1 講
12	10	月	4	腎・排泄6	動脈圧制御に関わる腎臓・体液システム	分子生理・辻	1 講
12	10	月	5	腎・排泄7	酸塩基平衡の腎の代償	分子生理・辻	1 講
12	10	月	6	血液1	赤血球・ヘモグロビン	分子生理・辻	1 講
12	17	月	4	血液2	白血球による生体防御機構	分子生理・辻	1 講
12	17	月	5	血液3	リンパ球による生体防御機構	分子生理・辻	1 講

# 内臓機能・体液系 I

(1年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
1	7	月	4	血液4	血小板	分子生理・辻	1 講
1	7	月	5	血液5	血液凝固と線溶 1	分子生理・辻	1 講
1	7	月	6	血液6	血液凝固と線溶 2	分子生理・辻	1 講
1	21	月	4	内分泌・代謝1	内分泌総論	原研医療・山下	1 講
1	21	月	5	内分泌・代謝2	副腎（視床下部一下垂体一副腎）	神経生理・樽見	1 講
1	21	月	6	内分泌・代謝3	性腺（視床下部一下垂体一性腺）	神経生理・樽見	1 講
1	28	月	3	内分泌・代謝4	甲状腺（視床下部一下垂体一甲状腺）	原研医療・光武	1 講
1	28	月	4	内分泌・代謝5	骨代謝・副甲状腺	分子生理・石川	1 講
1	28	月	5	体温調節1	基礎代謝と体温調節	分子生理・石川	1 講
1	28	月	6	体温調節2	高体温（発熱とうつ熱）と低体温の病態生理	分子生理・石川	1 講
2	4	月	4	内分泌・代謝6	特別講義	久留米大・児島	1 講
2	4	月	5	内分泌・代謝7	同化と異化	分子生理・辻	1 講
2	4	月	6	内分泌・代謝8	心血管内分泌	分子生理・蒔田	1 講

# プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次 通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（グローバルヘルス研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

1年次前期：各教室による研究内容等の紹介セミナーを受講する。

1年次後期、2年次、3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

1年次前期：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。

1年次後期～3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

## 7. 備考

配属教室は、1年次前期終了時に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

平成30年度 1年生 プレリサーチセミナー 日程表  
火曜日・7校時(16:30～17:30) 第1講義室

日程		
回数	日程	内容等
1	4月10日	オリエンテーション (教務委員長)
2	4月17日	研究内容等の紹介 1(肉眼解剖、組織解剖)
3	4月24日	研究内容等の紹介 2(分子生理、神経機能)
4	5月1日	研究内容等の紹介 3(病理学、病理診断科)
5	5月8日	研究内容等の紹介 4(薬理学、公衆衛生学)
6	5月15日	研究内容等の紹介 5(免疫学、原研医療)
7	5月22日	研究内容等の紹介 6(原研遺伝、原研分子)
8	5月29日	研究内容等の紹介 7(原研幹細胞、原研病理)
9	6月5日	研究内容等の紹介 8(生化学、腫瘍医学)
10	6月12日	研究内容等の紹介 9(原研放射、国際保健)
11	6月19日	研究内容等の紹介 10(感染分子)
12	6月26日	研究内容等の紹介 11(法医学)
13	7月3日	研究内容等の紹介 12(熱帯医学)
14	7月10日	振り返り・配属決め (教務委員長)
15	7月17日	予備日

# 地域医療ゼミ（しまで学ぶ地域医療）

責任者	氏名（教室）	前田 隆浩（地域医療学分野）		
	電話番号	095-819-7578	e-mail	tmaeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年次・前期・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（地域医療枠・地域医療特別枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Comprehensive community medicine in remote islands		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

離島・へき地の現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。

## 2. 授業到達目標

- ・上記の理解をもとに、地域が抱える課題に対するアセスメントや問題解決に向けた学習につなげる。
- ・地域住民の方との交流を通じ、地域社会とのコミュニケーション能力を養う。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

坂本キャンパスで実施される地域医療研究会および事前学習会で地域医療と地域包括ケアの知識と理解を深める。そのうえで五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問など現場の地域医療を体験してより理解を深める。

## 4. 教科書・教材・参考書

地域医療テキスト 自治医科大学（監修） 医学書院 ISBN978-4-260-00805-1  
（購入は必須ではありません。当講座で貸し出しします。）

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席・態度・発表を加味して評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

事前資料や事前学習会に加え、自分自身で新聞やニュース、地域の情報誌などから広い視野を持った主体的な学習を望みます。

## 7. 教員名

前田 隆浩、川尻 真也、近藤 英明、福井 翔一（地域医療学分野）、  
延末 謙一、小屋松 淳（離島・へき地医療学講座）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）

## 8. 備考

地域医療研究会(坂本キャンパス・日時未定・2か月に1回開催予定)  
長崎地域医療セミナー in GOTO 8月17日(金)～8月19日(日)

地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域医療について事前に学習し、自分の意見を持ってからゼミに臨むことが望まれます。ゼミは、基本的に長崎大学医学部と長崎純心大学現代福祉学科との共同で開催します。交通手段は、事前に学務係よりフェリーチケットが配布されます。宿泊費の負担はありませんが、地域医療セミナー期間中の食費については5,000円/人(実費)を予定しています。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

# 地域医療ゼミ（へき地・離島医療入門）

責任者	氏名（教室）	調 漸（へき地病院再生支援・教育機構）		
	電話番号	095-819-7774	e-mail	shirabe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	10:00～16:00		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（地域医療枠・地域医療特別枠）	単位数	1
科目英語名	Comprehensive community medicine in remote area		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

長崎県で展開されているへき地や離島医療の現状を学ぶ。

## 2. 授業到達目標

- ・上記の理解をもとに、地域が抱える課題に対するアセスメントや問題解決に向けた学習につなげる。
- ・地域住民の方との交流を通じ、地域社会とのコミュニケーション能力を養う。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

平戸市の平戸市民病院内のへき地病院再生支援・教育機構、地域臨床教育拠点において合宿形式で保健・医療・福祉が連携した地域包括医療・ケアを実習と講義を通して学習する。地域の最前線での経験を基に来るべき未来に求められる医療について考える。坂本キャンパスで、地域医療の最前線で活躍している医療者による講義を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

特に指定しないが、インターネット検索サイトや書籍などを利用して地域医療について調べておくことが望ましい。

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席、合宿参加、レポート提出

## 6. 教員名

調 漸、中桶 了太（へき地病院再生支援・教育機構）

## 7. 備考

夏期休暇中に2泊3日程度の集中講義と、坂本キャンパスでの講義（金曜日6時限目18:00～19:30）を行う。講義は指定した日に受講する（平成' \$年6月&&日を予定している）。臨床教育拠点への移動は公共交通機関の利用が望ましい。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

# 熱帯医学ゼミ

責任者	氏名 (教室)	有吉 紅也 (熱帯医学研究所 臨床感染症学)		
	電話番号	095-819-7840	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 12:00~12:30		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (熱帯医学プログラム)	単位数	1
科目英語名	Introduction of Tropical Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

授業のねらいは、将来熱帯医学研究医を目指す学生に、熱帯医学における医学研究の重要性を理解させ、熱帯医学に関連する幅広い視野を持たせることにある。その方法として、本学において進行中の医学研究活動を紹介し、本学の取り組みに興味を抱かせる。

## 2. 授業到達目標

自分の興味をもった熱帯医学研究について、英語で説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

熱帯医学に関係する医学研究を実施している本学医学系教室及び熱帯医学研究所教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。

## 4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、レポート (英文) 提出等を考慮して評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

事前は特になし 事後はレポート提出

## 7. 教員名

有吉紅也 (熱研臨床医学分野)、橋爪真弘 (熱研小児感染症学分野)、皆川昇 (熱研病害動物学分野)、森田公一 (熱研ウイルス学分野)、未定 (医学部病態分子疫学)、森田公一 (熱研ウイルス学分野)、北潔 (熱帯医学・グローバルヘルス研究科)、柳原克紀 (医学部病態解析・診断学分野)、山本太郎 (熱研国際保健学分野)、由井克之 (医学部免疫学)、金子修 (熱研原虫学分野)、濱野真二郎 (熱研寄生虫分野)、安田二郎 (熱研新興感染症学分野)、Laothavorn Juntra (熱研臨床開発学)、平山謙二 (熱研免疫遺伝学分野)

## 8. 備考

開講時間・場所 火曜日 7校時 (16:30-17:30) ・熱帯医学研究所 1階小会議室

## 9. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	D

# 国際医療ゼミ

責任者	氏名 (教室)	高村 昇 (原研国際)		
	電話番号	7170	e-mail	takamura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修 (国際保健プログラム)	単位数	1
科目英語名	Global Health Seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特にグローバルヘルス分野における活動を紹介する。

## 2. 授業到達目標

原研における活動、特にグローバルヘルス分野における活動や、現在のグローバルヘルスの潮流について理解する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

グローバルヘルス関連の英語教科書を輪読する。

## 4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

事前に世界保健機関 (WHO) や JICA の活動について、HP 等で確認しておく

## 7. 備考

原研棟4階研修室にて実施。

## 9. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	B

# 医学ゼミ

責任者	氏名 (教室)	柳原 克紀 (臨床検査医学 (病態解析・診断学) )		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次 前期・後期、3～4年次 後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1単位
科目英語名	Small group medical seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。A0学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

## 2. 授業到達目標

各担当教員による。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

各担当教員による。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

## 6. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する (第3希望まで)。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。

3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

## 7. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

## English Foundation Course for First Year Medical Students

**Instructors:** Luc Loosveldt  
Jim Briganti

**Class Time:** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)  
[jbriganti@nagasaki-u.ac.jp](mailto:jbriganti@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

Course Objectives	
The aim of the course is to develop students' English and critical thinking skills in a cooperative and supportive environment. Students will be asked to actively engage in English. The language skills learned in this course will serve as a foundation for future Medical English courses and for the types of language skills needed in medical students future roles as healthcare professionals.	
Required Textbooks	
<i>Readings to be assigned in class.</i>	
Syllabus*	
1	Introduction and overview of the course – self-introductions, study goals, first reading assignment
2	Medical Vocabulary + first main reading
3	Medical language Main Ideas and Supporting Ideas - finding the main idea, skimming and scanning
4	Main Ideas and Supporting Ideas - using outlines
5	Main Ideas and Supporting Ideas - Paragraphs and the Topic Sentence
6	Organizational Structure - second main reading
7	Organizational Structure - Organizing information, recognizing and understanding relationships within a text
8	Organizational Structure - Organizing information, recognizing reference
9	Coherence and Cohesion - connectors and transition words, speech markers
10	Coherence and Cohesion - Cohesion and coherence in the paragraph
11	Summarizing - third main reading
12	Summarizing - preparing narrative summaries
13	Non-verbal communication and Inference
14	Final group presentations and assessment
15	Final group presentations and assessment
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of class participation, assignments, vocabulary quizzes, group presentations and final group reports.	
<i>*The above syllabus is a general guide, not a definite time table, and is subject to change..</i>	

# ●医科生物学入門

責任者	氏名（教室）	永山 雄二（原研分子）		
	電話番号	095-819-7173	e-mail	nagayama@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	7:30～8:50		

対象年次・学期	1年次・第1クォータ	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Introductory Course to Medical Biology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

生物学や生命科学、ひいては医学の基礎となる生物学を高校の教科書である「生物基礎」と「生物」を使って学ぶ。同時に医学英語に親しみ、英語専門用語も身に付ける。

## 2. 授業到達目標

「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」について説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

全て講義

## 4. 教科書・教材・参考書

生物基礎、生物（数研出版）

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席2/3以上が必要。

4/27の試験60点以上で合格。本試のみ。

## 6. 事前・事後学修の内容

カリキュラムに沿って、教科書を使った予習をすること。

## 7. 教員名

永山 雄二（原研分子）、吉浦 孝一郎（原研遺伝）、李 桃生（原研幹細胞）、小路 武彦（組織解剖学）、篠原 一之（神経生理学）、由井 克之（免疫学）、森 望（神経形態学）、蒔田 直昌（分子生理学）、未定（先端医育センター）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	C

# ●医科生物学入門

(1年次・第1クォータ)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	木	1	基礎生物、生物	生物の多様性と共通性、生体の構成—個体、細胞、分子	原研分子、永山	教養棟G-38
4	5	木	2	基礎生物、生物	タンパク質の構造と性質、酵素のはたらき	原研分子、永山	教養棟G-38
4	6	金	1	基礎生物、生物	細胞の構造とはたらき、細胞の活動とタンパク質	原研分子、永山	教養棟A-21
4	6	金	2	基礎生物、生物	エネルギーと代謝、光合成と呼吸、代謝とエネルギー、呼吸と発酵	医育センター、未定	教養棟A-21
4	12	木	1	基礎生物、生物	遺伝子情報とDNA、遺伝子情報の発現、DNAの構造と複製、遺伝情報の発現	原研遺伝、吉浦	教養棟G-38
4	12	木	2	基礎生物、生物	遺伝子の発現調節、バイオテクノロジー	原研遺伝、吉浦	教養棟G-38
4	13	金	1	基礎生物、生物	遺伝情報の分配、遺伝子の染色体、減数分裂と遺伝情報の分配、遺伝子の多様な組み合わせ	原研幹細胞、李	教養棟A-21
4	13	金	2	基礎生物、生物	刺激の受容、情報の統合	神経形態学、森	教養棟A-21
4	19	木	1	基礎生物、生物	免疫とタンパク質	免疫学、由井	教養棟G-38
4	19	木	2	基礎生物、生物	体液という体内環境、腎臓と肝臓	分子生理学、蒔田	教養棟G-38
4	20	金	1	基礎生物、生物	神経とホルモンによる調節	神経生理学、篠原	教養棟A-21
4	20	金	2	基礎生物、生物	ニューロンとその興奮、刺激への反応	神経生理学、篠原	教養棟A-21
4	26	木	1	基礎生物、生物	動物の配偶子形成と受精	組織解剖学、小路	教養棟G-38
4	26	木	2	基礎生物、生物	初期胚の課程、細胞の分化と形態形成	組織解剖学、小路	教養棟G-38
4	27	金	1	基礎生物、生物	試験	原研分子、永山	教養棟A-21
4	27	金	2	基礎生物、生物	試験	原研分子、永山	教養棟A-21

# ●Communication Skill in English

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1年次・第1クォータ	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Communication Skill in English		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

本科目は、WritingとReadingに係る講義を中心として、医学英語・科学英語に親しみ、本学科における英語及び医学学習への円滑な導入を目的とする。

授業の最後には班ごとのポスタープレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを推進する。

また、グループワークを通じ、学習における自主性・協調性・英語スキルを養い、今後医学英語を学ぶことの足がかりとする。

## 2. 授業到達目標

医学に関連する英語表現について学び、英語によるコミュニケーションの基礎を体験する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

医学に関連する英語表現についての講義と、演習により構成する。

## 4. 教科書・教材・参考書

資料は適宜配付する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

第7回・第8回講義のプレゼンテーションに対して、学生相互及び担当教員による評価を行い、その結果を総合して最終評価とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

各回で学習する医学に関する英単語等について復習すること。

Medical interviewの前には、各疾患について事前に調べておくこと。

## 7. 教員名

柳原 克紀（教務委員長）、田中 邦彦（先端医育センター）、桑原 宏永（医学部IR室）、Loosveldt Luc Florent Eugene、Briganti James Joseph（先端医育センター）、隈上 麻衣（言語教育センター）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

## ●Communication Skill in English

(1年次・第1クォータ)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	10	木	1	講義	イントロダクション	教務委員長 柳原	2講
5	11	金	1	講義	特別講義	非常勤 青木	3講
5	17	木	1	講義	English Communication	Loosveldt Luc Briganti James	2講
5	18	金	1	講義	English Communication	Loosveldt Luc Briganti James	3講
5	24	木	1	演習	Medical interview	全担当教員	1講・セミナー・視聴覚
5	25	金	1	演習	Medical interview	全担当教員	1講・セミナー・視聴覚
5	31	木	1	演習	プレゼンテーション	全担当教員	4講
6	1	金	1	演習	プレゼンテーション	全担当教員	4講

## ●医学史・原爆医学と長崎

責任者	氏名（教室）	高村 昇（原研国際）		
	電話番号	095-819-7170	e-mail	takamura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1年次・第2クォータ	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Medical History, Atomic Bomb Disease and Nagasaki		

### 1. 授業の概要及び位置づけ

本授業のねらいは、長崎における西洋医学教育の歴史について、さらには放射線被ばくによる健康影響の実態を学び、長崎大学医学部で学ぶことの意義を再認識し、原爆被爆者、さらには世界のヒバクシャについての最新の知見に触れることにあります。そのために、まずは西洋医学伝来と放射線、放射線被ばくについての基礎知識を整理し、原爆の実相、そして放射線被ばくによる急性影響と晩発性影響（後障害）を、血液疾患や悪性腫瘍などを中心に学んだうえで、被爆者の健康管理についても学びます。さらには、現在の世界における核兵器廃絶に向けた潮流について学ぶほか、2011年の福島第一原子力発電所事故への対応から復興に向けた取り組み、さらには事故を受けた原子力防災についても細心の知見を講義する予定です。

### 2. 授業到達目標

1. 長崎における西洋医学の歴史について概説できる。
2. 放射線についての基礎的事項について、概説することができる。
3. 放射線被ばくの健康影響について概説することができる。

### 3. 授業内容（講義・実習項目）

各教員による講義を中心に進めていくが、講義の終わりには随時質問を受け付けるので、積極的に質問すること。また、最終講義時にはまとめと質疑の時間を別途設けるものとする。

### 4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。

### 5. 成績評価の方法・基準等

テーマに従い、レポートを提出することによって評価を行う。

### 6. 事前・事後学修の内容

事前に原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、永井隆記念館などを訪問して自己学習をしておくこと。

### 7. 教員名

高村 昇、宮崎 泰司、中島 正洋、横田 賢一（原爆後障害医療研究所）、  
 広瀬 訓、中村 桂子（核兵器廃絶研究センター）、宇佐 俊郎（病院）、  
 山下 俊一（学長特別補佐）、海老名 英治（厚生労働省）、相川 忠臣（長崎原爆病院）、  
 ヴォルフガング・ミヒェル（九州大学）

### 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

●医学史・原爆医学と長崎

(1年次・第2クォータ)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	8	金	1	オリエンテーション	医学史とは？原爆医療とは？	原研国際・高村	教養棟 A-21
6	8	金	2	原爆被爆者医療(1)	被爆者医療行政の実際	厚生労働省・海老名	教養棟 A-21
6	15	金	1	医学史と長崎(1)	南蛮医学と紅毛医学	長崎原爆病院・相川	教養棟 A-21
6	15	金	2	医学史と長崎(2)	ツェンペリー、シーボルトとモーニッケの医学と博物学	長崎原爆病院・相川	教養棟 A-21
6	22	金	1	医学史と長崎(3)	養生所と日本の近代医学	長崎原爆病院・相川	教養棟 A-21
6	22	金	2	放射線事故対策(1)	原子力災害からの地域復興	原研国際・高村	教養棟 A-21
6	29	金	1	原爆被爆者医療(2)	原爆の造血に対する影響	原研内科・宮崎	教養棟 A-21
6	29	金	2	原爆被爆者医療(3)	被爆者腫瘍の病理疫学	原研病理・中島	教養棟 A-21
7	6	金	1	原爆被爆者医療(4)	被爆者の健康管理	原研情報室・横田	教養棟 A-21
7	6	金	2	核兵器の非人道性(1)	国際人道法と核兵器	RECNA・広瀬	教養棟 A-21
7	13	金	1	核兵器の非人道性(2)	核兵器の非人道性をめぐる国際的な動向	RECNA・中村	教養棟 A-21
7	13	金	2	放射線事故対策(2)	福島第一原子力発電所事故対応	福島県立医科大学・大津留	教養棟 A-21
7	20	金	1	医学史と長崎(4)	永井隆はじめ原爆医療の先駆者	学長特別補佐・山下	教養棟 A-21
7	20	金	2	放射線事故対策(3)	原子力災害医療	国際ヒバクシャ医療センター・宇佐	教養棟 A-21
7	27	金	1	まとめ	講義まとめ、質疑応答	原研国際・高村	教養棟 A-21

# ●医学統計学

責任者	氏名 (教室)	本多 正幸 (医療情報学)		
	電話番号	095-819-7536	e-mail	m-honda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 16:30~17:30		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Medical Statistics		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

医学統計特有の手法も存在するが、まず統計学の基本を理解することが肝要である。確率などの数学的な素養があることを前提とするが、1年次であることを考え基本的な概念、考え方を理解することを目標とし、高次学年や将来における医学研究の基礎力となる統計学の知識の習得を目指す。また、IT化の時代であり、コンピュータ演習を通して統計学およびデータ分析の基礎を学習する。

## 2. 授業到達目標

以下の2点を到達目標とする。

- 1) 科学的方法における統計学の位置付けを理解し、記述統計学、確率分布の概念と代表的分布、母集団と標本における推測統計学などを中心に学習し、基礎的事項を説明できる。
- 2) 医学データ、臨床データ等を用いた演習を通して、基礎的事項の理解を深め、データ見る目を養うとともに基本的なデータ解析ができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

統計学の基礎的事項を講義、演習を通して理解させる。講義は、原則プレゼンソフトにより行うが、参考書等に掲載されている医学論文掲載データ等を実例として紹介する。また、演習は各自PCを用いて、表計算ソフト、統計解析ソフトなどの実習を通して統計解析手法を体験する。

講義形式と演習形式 (医学部C B T室)

担当:

医療情報学: 本多正幸 (1回目、フロンティア生命科学: 岩永正子 (1回目)

原研情報: 三根真理子 (6, 7回目, 13~15回目)

臨床研究センター: 佐藤俊太郎、宮本潤哉 (2回目~5回目、8回目~12回目)

※なお、講義順、担当は変更する場合あり

## 4. 教科書・教材・参考書

教科書は特にしてしない。教材、資料等は授業中に配布する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査60%、授業中の課題に対する取り組み状況20%、レポート20%

(この情報は予定であり、配分を変更する場合あり)

## 6. 事前・事後学修の内容

各回の講義資料等は、できるだけ事前にLACS上に配布する予定であるので、講義前にダウンロードし、事前学習をしておくこと。また、講義字配布の配布資料では細かい資料は見難くなる可能性があるため、各自のPCでも原本を確認できるようにしてほしい。

## 7. 教員名

本多 正幸 (医療情報学)、三根 真理子 (原研情報)、岩永 正子 (生命フロンティア)、佐藤 俊太郎、宮本 潤哉 (臨床研究センター)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	1	月	5	オリエンテーション	目的・概要の説明および講義、演習における注意	医療情報学；本多正幸、フロンティア生命科学；岩永正子	1 講
10	15	月	5	データの尺度と要約	連続変数、カテゴリカル変数	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
10	22	月	5	データの要約と分布	平均値、中央値、ばらつき、頻度、割合、正規分布	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
10	29	月	5	二変数の関係Ⅰ	散布図、相関	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
11	5	月	5	二変数の関係Ⅱ	箱ひげ図、分割表	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
11	12	月	5	演習Ⅰ	コンピュータによる演習 (JMP)	原研情報；三根真理子	CBT室
11	19	月	5	演習Ⅱ	コンピュータによる演習 (JMP)	原研情報；三根真理子	CBT室
11	26	月	5	母集団と標本	前半のまとめと推測統計	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
12	3	月	5	検定Ⅰ	仮説検定、信頼区間、P値	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
12	10	月	5	検定Ⅱ	連続変数の2群間比較、複数群間の比較	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
12	17	月	5	検定Ⅲ	カテゴリカル変数の2群間比較	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
1	7	月	5	回帰	単回帰分析、多変量解析	臨床研究センター；佐藤俊太郎、宮本潤哉	1 講
1	21	月	5	演習Ⅲ	コンピュータによる演習 (JMP)	原研情報；三根真理子	CBT室
1	28	月	5	演習Ⅳ	コンピュータによる演習 (JMP)	原研情報；三根真理子	CBT室
2	4	月	5	まとめ	コンピュータによる演習 (JMP)	原研情報；三根真理子	CBT室



平成30年度 授 業 時 間 割 学 士 2 年 前 期

月	日	月							火							水							木							金											
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
		8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40
		9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40
4	2									3	入学式							4								5								6							
	9									10								11	人体構造系 末梢神経							12								13							
	16									17	医と社会 I (共修)							18							19								20								
	23									24								25							26								27								
	30									1								2							3								4								
5	7									8								9							10								11								
	14									15	医と社会 I							16							17								18								
	21									22								23							24								25								
	28									29								30							31								1								
6	4									5								6							7								8								
	11									12								13							14								15								
	18									19	医と社会 I							20							21								22								
	25									26								27							28								29								
7	2									3								4							5								6								
	9									10								11							12								13								
	16									17								18							19								20								
	23									24								25							26								27								
	30									31								1							2								3								
8	6									7								8							9								10								
	13									14								15							16								17								
	20									21								22							23								24								
	27									28								29							30								31								
9	3									4								5							6								7								
	10									11								12							13								14								
	17									18								19							20								21								

※学生編入者の「医学英語」開講時間については、別途担当教員(Luc助教)と調整すること。

平成30年度 授 業 時 間 割 学 士 2 年 後 期

月	日	月							火							水							木							金										
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
		8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40
		9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	18.00	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40
9	24								25	人体構造系							26							27								28								
	1								2								3							4								5								
	8								9								10							11								12								
10	15								16								17							18								19								
	22								23								24							25								26								
	29								30								31							1								2								
11	5								6								7							8								9								
	12								13								14							15								16								
	19								20								21							22								23								
	26								27								28							29								30								
12	3								4								5							6								7								
	10								11								12							13								14								
	17								18								19							20								21								
	24								25								26							27								28								
1	31								1								2							3								4								
	7								8								9							10								11								
	14								15								16							17								18								
	21								22								23							24								25								
	28								29								30							31								1								
2	4								5								6							7								8								
	11								12								13							14								15								
	18								19								20							21								22								
	25								26								27							28								29								
3	4								5								6							7								8								
	11								12								13							14								15								
	18								19																															

# 医と社会Ⅱ

責任者	氏名 (教室)	安武 亨 (先端医育センター)		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	2年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Medicine and Society 2		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

病める人と良好なコミュニケーションが行え、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しうる医師となる。病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭や社会への復帰と社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯にめざす医師となる。

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、老健施設などの体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。リハビリテーションについて学ぶ。また、高齢者と接する際の医学生としての基本的マナーや心構えおよび対応の仕方などを学ぶ。前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深め、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。長崎純心大学、保健学科との共修を通して医療・福祉・介護の多方面からの視点を理解し尊重する。

## 2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
4. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
5. チーム医療の重要性を理解し、関連専門職との連携を図ることができる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握することができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

### A 医療と人間 (保健学科と共修)

人の心の発達、性と生、高齢期を生きる、医療人と患者及び家庭との関係の4区分で講義を行う。

1. 人の心の発達：乳幼児と親の心、子供と社会 児童虐待の現状から、子供の心の発達、学童期、思春期
2. 性と生：人間の性 概論、ドメスティックバイオレンス
3. 高齢期を生きる：高齢期介護の実際、認知症高齢者を家族と地域で支える、地域における高齢者の生活を考える

### B Early Exposure (医学科)

老健施設などの体験実習に参加し、体験に基づいたレポートを作成する。

### C 診療の心得 (診療マナー、バイタルサインの取り方、超音波や心電計等の基本操作)

### D 事例検討 (長崎純心大学、保健学科と共修)

### E ようこそ先輩

### F リハビリテーション

## 4. 教科書・教材・参考書

必要に応じて各講義の最初の時間に紹介する。

講義「乳児と親の心」 参考図書「重い障害児に導かれて」 著者：福田雅文

## 5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

## 7. 教員名

安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子、北山 素（先端医育センター）、  
平野 裕子（保健学科）、井口 茂（保健学科）、中尾 理恵子（保健学科）、  
高島 英昭（リハビリテーション部）、北島 百合子（産婦人科）、  
永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、前田 隆浩（地域医療学）、  
田山 淳（保健医療推進センター）、辻野 彰（脳神経内科）、馬場 史郎（脳神経外科）、  
古賀 智裕（第一内科）、山口 博之（第二内科）、有吉 紅也（熱研内科）、  
川原 ゆかり（長崎短期大学副学長）、小柳 憲司（長崎県立こども医療福祉センター）、  
福田 雅文（みさかえの園むつみの家）、中田 慶子（DV防止ながさき）、  
陣野 紀代美（長崎市医師会保健福祉センター）、菅崎 弘之（すがさきクリニック）、  
石松 隆和（地方創生推進本部）、宮野 澄男（長崎純心大学）

## 8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	E

医と社会Ⅱ

(2年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	19	木	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	脳神経内科 辻野 彰	1 講
6	1	金	2	ようこそ先輩	ようこそ先輩	脳神経外科 馬場 史郎	2 講
9	26	水	4～5	性と生1	オリエンテーション 人間の性 (保健学科と共修)	産婦人科 北島百合子	4 講
9	26	水	5～6	人の心の発達1	乳児と親の心 (保健学科と共修)	非常勤 福田雅文	4 講
10	3	水	4～5	人の心の発達2	子供と社会 児童虐待の現状から (保健学科と共修)	非常勤 川原ゆかり	4 講
10	3	水	5～6	高齢期を生きる1	高齢者介護の実際 (保健学科と共修)	非常勤 陣野紀代美	4 講
10	4	木	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩	第一内科 古賀智裕	1 講
10	10	水	4～5	人の心の発達3	子供の心の発達、学童期、思春期 (保健学科と共修)	非常勤 小柳憲司	4 講
10	10	水	5～6	性と生2	ドメスティックバイオレンス (保健学科と共修)	非常勤 中田慶子	4 講
10	11	木	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩	熱研内科 有吉 紅也	1 講
10	12	金	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩	第二内科 山口博之	1 講
10	17	水	4～6	地域包括	共修事前授業	地域包括ケア教育センター	1 講・2 講・ 記念講堂・GH
10	24	水	3	地域医療	認知行動療法の適用とその効果	保健医療推進センター 田山 淳	1 講
10	24	水	4～6	地域包括	純心・保健学科・医学科共修	地域包括ケア教育センター	専齋・ボンベ ・GH・セミナー
10	31	水	3	地域医療	地域コミュニティにおける保健医療専門職の 役割と活動	保健学科 中尾 理恵子	1 講
10	31	水	4～6	地域包括	純心・保健学科・医学科共修	地域包括ケア教育センター	記念講堂・専齋 ・ボンベ・GH・セミナー
11	7	水	4～5	高齢期を生きる2	認知症高齢者を家族と地域で支える (保健学科と共修)	非常勤・菅崎弘之	4 講
11	7	水	5～6	高齢期を生きる3	地域における高齢者の生活を考える (保健学科と共修)	非常勤・石松隆和	4 講
11	14	水	4～6	地域包括	実習オリエンテーション	地域包括ケア教育センター	2 講
11	21	水	1～6	Early Exposure	A.高齢者診療施設(老健施設) /B.診療の心得	地域包括ケア教育センター	専齋・1 講 ・セミナー
11	28	水	1～6	Early Exposure	B.高齢者診療施設(老健施設) /A.診療の心得	地域包括ケア教育センター	専齋・1 講 ・セミナー
12	5	水	1～3	地域包括	実習の振り返り	地域包括ケア教育センター	1 講・セミナー ・視聴覚
1	16	水	1～3	リハビリテーション	リハビリテーション概論(1)～(3)	リハビリテーション部 高島 英昭	1 講
1	23	水	1～3	未定	未定	未定	1 講

# 神経・感覚器系

責任者	氏名 (教室)	森 望 (神経形態学 (解剖学第一))		
	電話番号	095-819-7017	e-mail	morinosm@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 16:00~18:00		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Neuroanatomy of the human brain		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

神経解剖学の教育目標は、ヒトの脳神経系の形態的な成り立ちとその由来を学び、高度に発達したヒトの脳と神経系の構造を理解することにある。この学問はもともと肉眼解剖学の延長線上にあったが、前世紀初頭におけるニューロン説の確立と神経組織学の発展を経て、神経回路（ネットワーク）の学問として発展してきた。最近では分子神経生物学やシステム脳科学の発達とともに、現代神経科学の基礎学問として重要な位置を占める。ここでは臨床現場での各種脳神経疾患への対処に通ずる基礎学問として、脊髄、脳、感覚器系の構造と解剖学用語を学ぶ。また、実際のヒト脳の解剖実習を通して、人間の脳の複雑な構成について、立体的に理解することをめざす。

## 2. 授業到達目標

中枢神経系と末梢神経系の区分を理解した上で、脳と脊髄の内部構造、神経核の名称と神経どうしのつながり、神経回路の名称等を理解する。神経解剖学用語については、日本語と英語で覚える。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

系統的な講義（総論と各論）と実習で構成する。アトラスは必携とし、その図を理解することが重要。また、神経解剖学用語についても正確な理解に努め講義は教科書（アトラス）に準じつつプリントを併用。実習は4人でグループとし、各グループで協力してご遺体の脳による系統的な脳解剖実習を行う。実習では現場での観察と記録を重視する。神経解剖学用語（日英）についても改めて理解を深める。

## 4. 教科書・教材・参考書

### ★神経解剖カラーテキスト（第2版）

A. R. Crossman, C. Neary (著)、野村、水野 (訳) 医学書院 5,600円 カラー図解 神経解剖学講義ノート 寺島俊雄 (著) 金芳堂 4,600円

解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器 (第6版) W. Kahle (著)、平田 (訳) 文光堂 5,600円

プロメテウス解剖学アトラス (頭部/神経解剖)

坂井、河田 (監訳) 医学書院 11,000円

人体の正常構造と機能 (神経系 1、2) 河田、稲瀬他 日本医事新報社 各6,200円

神経科学-脳の探究- Mark F. Bear他 (著)、加藤他 (訳) 西村書店 7,600円

カンデル神経科学 E. R. Kandel他 (著) 金澤、宮下 (監修) MEDSi 14,000円

脳単 原島 (著) NTS 2,730円

★神経解剖実習書 神経形態学 (解剖学第一) 教室篇 (非売品)

(★は教科書、必携)

## 5. 成績評価の方法・基準等

レポート、小テスト等20%、実習レポート20%、期末試験60%程度とするが、講義・実習への参加態度も含めて総合評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書、参考書のアトラスなどを参照しつつ、予習、復習を心がけること。

## 7. 教員名

森 望、松本 弦、村井 清人（神経形態（第一解剖））、  
中澤 徹（東北大学医学部眼科）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

# 神経・感覚器系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	木	1	講義1	概論(1) 神経解剖学の歴史、ニューロンとグリア	森	1 講
4	5	木	2	講義2	概論(2) 神経発生と脳の進化	森	1 講
4	12	木	1	講義3	脊髄(1) 基本構造	森	1 講
4	12	木	2	講義4	脊髄(2) 上行路、下行路	森	1 講
4	19	木	1	講義5	脳幹と脳神経(1) 脳神経、脳神経核	森	1 講
4	19	木	2	講義6	脳幹と脳神経(2) 延髄	森	1 講
4	26	木	1	講義7	脳幹と脳神経(3) 橋	森	1 講
4	26	木	2	講義8	脳幹と脳神経(4) 中脳	森	1 講
5	10	木	1	講義9	小脳(1) 構造、小脳脚と小脳核	森	1 講
5	10	木	2	講義10	小脳(2) 小脳皮質の神経回路、伝導路	森	1 講
5	17	木	1	講義11	間脳(1) 視床	森	1 講
5	17	木	2	講義12	間脳(2) 背側視床	森	1 講
5	24	木	1	講義13	間脳(3) 視床上部と腹側視床	森	2 講
5	24	木	2	講義14	間脳(4) 視床下部と下垂体	森	2 講
5	31	木	1	講義15	終脳(1) 概要	森	1 講
5	31	木	2	講義16	終脳(2) 古皮質(嗅皮質と扁桃体)	森	1 講
6	7	木	1	講義17	終脳(3) 旧皮質(海馬と大脳辺縁系)	森	2 講
6	7	木	2	講義18	終脳(4) 線条体と大脳基底核	森	2 講
6	14	木	1	講義19	終脳(5) 新皮質と脳領野	森	1 講
6	14	木	2	講義20	終脳(6) 線維路と左右脳	森	1 講
6	21	木	1	講義21	脳血管系	森	1 講
6	21	木	2	講義22	脳脊髄液系	森	1 講
6	28	木	1	講義23	末梢神経系 (1) 自律神経系(交感神経/副交感神経) (2) 体性神経系(知覚神経・運動神経)	森	1 講
6	28	木	2	講義24	特別講義:TBA	中澤徹(東北大)	1 講
7	5	木	1	講義25	機能系(1) 機能的神経回路 (上行系/下行系/投射系)	森	1 講
7	5	木	2	講義26	機能系(2) 化学的神経回路 (神経伝達物質/シナプスの微細構造)	森	1 講
7	11	水	4	実習1	脳解剖実習(第1回)	森・松本・村井	解剖実習室
7	11	水	5	実習2	脳の概観、脳膜、脳底、血管系の観察	森・松本・村井	解剖実習室
7	11	水	6	実習3	大脳皮質外側面(回と溝)の観察	森・松本・村井	解剖実習室
7	12	木	1	講義27	感覚器(1) 視覚系	森	1 講
7	12	木	2	講義28	感覚器(2) 聴覚・平衡覚系	森	1 講
7	12	木	4	実習4	脳解剖実習(第2回)	森・松本・村井	解剖実習室
7	12	木	5	実習5	小脳・脳幹の離断、小脳の解剖	森・松本・村井	解剖実習室
7	12	木	6	実習6	脳幹の解剖、脳神経の観察	森・松本・村井	解剖実習室
7	13	金	2	講義29	脳組織学: 神経系の細胞染色と脳組織染色	森	1 講
7	13	金	4	実習7	脳解剖実習(第3回)	森・松本・村井	解剖実習室

# 神経・感覚器系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	13	金	5	実習8	脳組織染色（小脳活樹、小脳皮質、小脳核）	森・松本・村井	解剖実習室
7	13	金	6	実習9	脳組織染色（延髄、橋、中脳）	森・松本・村井	解剖実習室
7	18	水	4	実習10	脳解剖実習（第4回）	森・松本・村井	解剖実習室
7	18	水	5	実習11	大脳半球正中断、内側面の観察、海馬、帯状束、脳弓の剖出	森・松本・村井	解剖実習室
7	18	水	6	実習12	島、連合線維、レンズ核、放線冠の剖出	森・松本・村井	解剖実習室
7	19	木	1	講義30	感覚器（3）味覚系	森	1 講
7	19	木	2	講義31	感覚器（4）嗅覚系	森	1 講
7	19	木	4	実習13	脳解剖実習（第5回）	森・松本・村井	解剖実習室
7	19	木	5	実習14	大脳半球／前頭断面の観察	森・松本・村井	解剖実習室
7	19	木	6	実習15	大脳半球／水平断面の観察	森・松本・村井	解剖実習室
7	20	金	2	講義32	脳画像と分子イメージング	森	1 講
7	20	金	4	実習16	脳解剖実習（第6回）	森・松本・村井	解剖実習室
7	20	金	5	実習17	脳組織染色（海馬、扁桃核、大脳辺縁系）	森・松本・村井	解剖実習室
7	20	金	6	実習18	脳組織染色（大脳基底核、大脳新皮質）	森・松本・村井	解剖実習室

# 人体構造系Ⅱ

責任者	氏名 (教室)	弦本 敏行 (肉眼解剖学 (解剖学第二))		
	電話番号	095-819-7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00~19:00		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Human Body Structure 2		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

解剖学実習は御遺体を自らの手で解剖するという特殊な実習でもあるので、知的修得ばかりでなく「心の学習」の場でもあることを自覚、認識して臨まなくてはならない。人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、解剖学実習は剖検した構造物を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

## 2. 授業到達目標

人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について、適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

解剖学実習を決められた手技に則って行う。末梢神経学については講義を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

- ★グラント解剖学実習 新井良八 監訳 西村書店 4,800 円
  - ★ネッター解剖学アトラス 相磯貞和 訳 南江堂 10,000 円
  - ★グレイ解剖学 (for students) 塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン 10,000 円
  - 分担解剖学1 (総説・骨学・筋学) 小川鼎三、森 於菟 他 金原出版 9,300 円
  - 分担解剖学2 (脈管学・神経系) 平沢興 他 金原出版 10,600 円
  - 分担解剖学3 (感覚器学・内臓学) 小川鼎三 他 金原出版 8,600 円
- (★は教科書、必携)

## 5. 成績評価の方法・基準等

解剖学実習については口答試験と筆答試験を、末梢神経学については筆答試験を行う。

(1) 受験資格 解剖学実習は原則として皆出席、末梢神経学は2/3以上出席。

(2) 試験と評価

- 実習中に口答ないし筆答試験を行う
  - 本試験 (解剖学実習、末梢神経学)
  - 再試験 (解剖学実習、末梢神経学)
- 再試験後、実習の口答試験結果、課題レポート等も併せて、総合的に評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

解剖学実習をプログラム通りに進行させるためには解剖内容の正確な理解が必要であり、十分な予習を必要とする

1) 配布するプリントの一般的解剖手技を十分学習し、各構造物の剖出の仕方を実践できるようにしておく

- 2) 実習プログラムに沿って予習しておく
- ①解剖の大きな流れは3～4回先まで把握する
  - ②頁ごとの手順を理解し、剖出すべき構造物について予習ノートを作成する
  - ③実習日での事前学習は困難であるので、休日等を利用してできるだけ先へ進めておく

## 7. 教員名

弦本 敏行、岡本 圭史、佐伯 和信、高村 敬子（肉眼解剖分野）、  
 分部 哲秋（非常勤講師）

## 8. 備考

- (1) 実習中は各班にiPadを貸与するが、教科書は必ず購入すること
- (2) 事前に配布される諸注意に沿って、実習に必要な物を注文・購入しておくこと
- (3) 10月25日に催される解剖体慰霊祭には、ご遺族が出席されます。節度ある身なり・服装・態度をもって必ず出席してください。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

# 人体構造系Ⅱ

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	4	水	1～2	末梢神経4, 5	脊髄神経②	肉眼解剖・弦本	1 講
4	4	水	4～6	解剖学実習 1	実習オリエンテーション (解剖学実習総論)	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	1 講
4	5	木	4～6	解剖学実習 2	解剖体安置、洗滌 背部の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	6	金	4～6	解剖学実習 3	背部の皮下	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	11	水	1～2	末梢神経6, 7	脳神経①	肉眼解剖・弦本	1 講
4	11	水	4～6	解剖学実習 4	背部浅層	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
4	12	木	4～6	解剖学実習 5	頸部の皮剥と皮下、浅層① 胸部・腹部の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	13	金	4～6	解剖学実習 6	頸部浅層② 浅胸筋	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	18	水	1～2	末梢神経8, 9	脳神経②、自律神経	肉眼解剖・弦本	1 講
4	18	水	4～6	解剖学実習 7	頸部深層、胸鎖関節開放 腋窩	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
4	19	木	4～6	解剖学実習 8	側腹筋 頸部深層②、腋窩②	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	20	金	4～6	解剖学実習 9	腹直筋 上肢の離断	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	25	水	4～6	解剖学実習 1 0	上肢の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
4	26	木	4～6	解剖学実習 1 1	肩部、上腕伸側	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
4	27	金	4～6	解剖学実習 1 2	上腕屈側	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
5	2	水	4～6	解剖学実習 1 3	背部深層	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
5	9	水	4～6	解剖学実習 1 4	胸腔・腹腔の開放 胸膜、腹膜、自然位の胸腹部内臓	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
5	10	木	4～6	解剖学実習 1 5	前腕伸側、手背①	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
5	16	水	4～6	解剖学実習 1 6	胸膜、肺、縦隔・心臓① 前腕伸側、手背②	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
5	17	木	4～6	解剖学実習 1 7	縦隔・心臓② 前腕屈側と手掌①	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
5	23	水	4～6	解剖学実習 1 8	小腸・大腸① 前腕屈側と手掌②	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
5	24	木	4～6	解剖学実習 1 9	小腸・大腸② 上腹部内臓①	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
5	30	水	4～6	解剖学実習 2 0	上腹部内臓、小腸・大腸の摘出 後腹膜臓器、後腹壁、横隔膜	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
5	31	木	4～6	解剖学実習 2 1	骨盤部・殿部・会陰の皮剥と皮下 外生殖器と会陰 顔面の皮剥と皮下(浅層①)	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
6	6	水	4～6	解剖学実習 2 2	腰部離断・骨盤折半・骨盤内臓 頭部離断・環椎後頭関節開放 硬膜・内頭蓋底	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村 非常勤講師・分部	解剖実習室
6	7	木	4～6	解剖学実習 2 3	顔面の皮剥と皮下(浅層②) 下肢の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室
6	13	水	4～6	解剖学実習 2 4	咽頭・喉頭、顔面浅層③ 大腿伸側・内側	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村	解剖実習室

## 人体構造系Ⅱ

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	14	木	4～6	解剖学実習 2 5	顔面深層①、骨盤の血管・神経、 殿部、大腿屈側①	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	20	水	4～6	解剖学実習 2 6	顔面深層② 殿部、大腿屈側②	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	21	木	4～6	解剖学実習 2 7	鼻腔 下腿屈側、足底①	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	27	水	4～6	解剖学実習 2 8	口蓋、口腔 下腿屈側、足底②	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	28	木	4～6	解剖学実習 2 9	眼窩、外耳・中耳・内耳 下腿外側・伸側・足背	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
7	4	水	4～6	解剖学実習 3 0	上肢の関節、下肢の関節	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
7	5	木	4～6	解剖学実習 3 1	納棺、実習室清掃	肉眼解剖・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室

# 動物性機能系

責任者	氏名 (教室)	篠原 一之 (生理学第二 (神経機能学))		
	電話番号	095-819-7033	e-mail	kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Neurobiology and Behavior		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

動物性機能生理学では脳および神経の機能について学習する。最近急速に発展した脳・神経機能を学ぶためには、神経細胞レベルからヒトの認知・行動レベルまで、トータルに学ばねばならない。そこで、授業では、脳・神経科学を、1) 体の内外からの情報を受けて解釈する感覚系、2) 情報に基づいて判断を行う統合系、3) 行動を組織して実行する運動系、に分けて、それぞれ分子レベルから現象レベルまで統合的に理解し、脳・神経学問領域における思考力を養う。

最近、脳・神経科学領域の進歩は目まぐるしい。膨大な情報の中から、将来医師となった時に知っておくべき、基礎的知識から最先端医療に応用可能な知識を授業で学ぶ。具体的には、神経細胞の情報伝達機構、神経再生、脳の統合機能（記憶、情動、本能）、感覚受容・知覚等のテーマについて、統合的システムとして理解できるようになり、脳・神経科学関連疾患の病態、病因、治療についての考察ができることも目標とする。

## 2. 授業到達目標

講義：神経科学に含まれる事象について、細胞レベル、運動系の末梢から中枢まで、感覚系、統合的脳機能へと、そのメカニズムと全体における位置付けを重要視しながら、発展的に進めていく。項目によっては各専門家を呼び、高度な最新の内容をわかりやすく講義してもらう。

実習：人体を用いた神経、筋の興奮現象の測定を体験し、観察される現象の機構を説明できるようにする。感覚系および中枢を介した反応についていくつかの課題を実行し、背景となる神経機構についての基本的性質を考察し理解する。

講義用スライド・資料等は、「長崎大学LACS」にアップロードするので、各自以下のURLからダウンロードすること。原則として、講義の際に資料の配布はしない。

- ・ 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

## 3. 教科書・教材・参考書

第3版カールソン 神経科学テキスト Neil. R. Carlson (泰羅雅登・中村克樹 訳)  
丸善 18,900 円

Principles of Neural Science Eric. R. Kandel McGraw-Hill Companies 10,699 円  
メカ屋のための脳科学入門-脳をリバースエンジニアリングする  
日刊工業新聞社 2,376 円

## 4. 成績評価の方法・基準等

原則として筆答試験による。(実習も考慮する。)

## 5. 事前・事後学修の内容

事前にLACS上に講義資料をアップし、学生が講義内容を予習できるようにする。

## 6. 教員名

篠原 一之、土居 裕和、樽見 航 (第二生理学)、北岡 隆 (眼科)、  
原 稔 (耳鼻咽喉科)、石井 浩二 (麻醉科)、  
内匠 透 (理化学研究所)、中村 孝博 (明治大学)

## 7. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	F

# 動物性機能系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	25	水	1	動物性機能性	神経科学の基礎と歴史	篠原一之	2講
4	25	水	2	動物性機能性	神経系を構成する諸要素 (形態・機能・分子)	樽見航	2講
5	2	水	1	動物性機能性	静止状態のニューロンと膜電位	土居裕和	2講
5	2	水	2	動物性機能性	ニューロンの興奮とその伝導	土居裕和	2講
5	9	水	1	動物性機能性	シナプス伝達	篠原一之	2講
5	9	水	2	動物性機能性	神経伝達物質の放出と受容体	篠原一之	2講
5	11	金	1	動物性機能性	骨格筋の構造・機能	土居裕和	2講
5	11	金	2	動物性機能性	運動系システムの階層性	土居裕和	2講
5	16	水	1	動物性機能性	神経細胞の死	篠原一之	2講
5	16	水	2	動物性機能性	神経細胞の再生	篠原一之	2講
5	18	金	1	動物性機能性	脊髄反射	土居裕和	2講
5	18	金	2	動物性機能性	小脳	土居裕和	2講
5	18	金	4	生理学実習 (説明)	オリエンテーション	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
5	23	水	1	動物性機能性	平衡感覚	樽見航	2講
5	23	水	2	動物性機能性	大脳基底核	土居裕和	2講
5	25	金	1	動物性機能性	体性感覚	土居裕和	2講
5	25	金	2	動物性機能性	味覚	土居裕和	2講
5	25	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
5	25	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
5	25	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
5	30	水	1	動物性機能性	高次感覚機能	樽見航	2講
5	30	水	2	動物性機能性	嗅覚	篠原一之	2講
6	1	金	1	動物性機能性	本能行動 (視床下部)	樽見航	2講
6	1	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	1	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	1	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	6	水	1	動物性機能性	聴覚	原稔	2講
6	6	水	2	動物性機能性	学習と記憶 (脳内メカニズム)	土居裕和	2講
6	8	金	1	動物性機能性	痛覚	石井浩二	2講
6	8	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	8	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	8	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	13	水	1	動物性機能性	視覚	北岡隆	2講
6	13	水	2	動物性機能性	生体リズム	中村孝博	2講
6	15	金	1	動物性機能性	学習と記憶 (シナプスの可塑性)	樽見航	2講
6	15	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2

# 動物性機能系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	15	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	15	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	20	水	1	動物性機能性	睡眠と脳波	篠原一之	2講
6	20	水	2	動物性機能性	脳機能の分子的基盤	内匠透	2講
6	22	金	1	動物性機能性	意識と注意	土居裕和	2講
6	22	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	22	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	22	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測等	篠原一之、土居裕和、樽見航	実1・2
6	27	水	1	動物性機能性	発達に伴う脳の可塑性	土居裕和	2講
6	27	水	2	動物性機能性	情動（大脳辺縁系）	篠原一之	2講
6	29	金	1	動物性機能性	大脳連合野①	樽見航	2講
7	4	水	1	動物性機能性	運動と感覚の連関	土居裕和	2講
7	6	金	1	動物性機能性	高次認知機能①	土居裕和	2講
7	13	金	1	動物性機能性	高次認知機能②	土居裕和	2講

# 内臓機能・体液系Ⅱ

責任者	氏名（教室）	蒔田 直昌（分子生理学（生理学第一））		
	電話番号	095-819-7031	e-mail	nagasakimp@gmail.com
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～（ただし試験前1週間を除く）		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid 2		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。

## 2. 授業到達目標

循環、呼吸、血糖調節機能の実習を体験することにより基本的な知識の応用力と臨床生理学的知識を獲得する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

1) 心電図・肺機能      2) 心音・血圧・心エコー      3) 循環反射・消化器      4) 血糖調節

## 4. 教科書・教材・参考書

標準生理学 第8版 福田 康一郎 他 医学書院 12,960円  
 ギャノン生理学 25版 岡田泰伸 他 丸善 10,000円  
 ガイトン生理学 原著第11版 御手洗 玄洋 他 エルゼビア 21,600円  
 ボロン プールペーパー 生理学 泉井 亮 他 西村書店 10,260円  
 人体の正常構造と機能 第2版 坂井 建雄 他 日本医事新報 19,440円  
 図解心電図テキスト 第6版 Dale Dubin 文光堂 4,860円

## 5. 成績評価の方法・基準等

実習は全て履修し、レポートを提出する（手書きのこと。PC入力、コピーは認めない）。出席、実習レポートで成績を評価する。

旧カリキュラム（内臓機能体液系Ⅱ）の再履修者は、旧カリキュラムでの履修済の範囲に関係なく、新カリキュラムの内臓機能体液系Ⅰの2回の試験を受ける（再試験はない）。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書を参照し、予習復習を行うこと。

## 7. 教員名

蒔田 直昌、辻 幸臣、石川 泰輔（分子生理学）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

内臓機能・体液系Ⅱ

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	18	金	4	実習説明		分子生理・石川	実1・2
5	25	金	4	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
5	25	金	5	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
5	25	金	6	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	1	金	4	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	1	金	5	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	1	金	6	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	8	金	4	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	8	金	5	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	8	金	6	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	15	金	4	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	15	金	5	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	15	金	6	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	22	金	4	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	22	金	5	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2
6	22	金	6	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、 超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1・2

# 分子遺伝系

責任者	氏名 (教室)	吉浦 孝一郎 (原研遺伝 (人類遺伝学))		
	電話番号	095-819-7118	e-mail	kyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火～木曜日 16:00～17:00		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Molecular Genetics		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

分子遺伝学の基本事項である遺伝現象、多様性の理解から始め、それらを表出する分子機構を系統講義する。人の病気を DNA 分子から理解しようと試みる過程を習得する。覚える知識は最小に、応用力は最大に。

## 2. 授業到達目標

病気の成り立ちを理解するために重要な分子遺伝学の基礎知識を講義する。遺伝学は多様性 (variation) と遺伝 (inheritance) を解析する学問である。ヒトの遺伝・多様性について基本的な暗記事項から幅広い応用力を養成し、思考力を養うことを目標とする。病気の成立に関して、DNA・タンパク・細胞から考える考え方を習得する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

分子遺伝学の基本事項である遺伝現象、多様性の理解から始め、それらを表出する分子機構を系統講義する。DNA、染色体・ゲノムの構造と機能、疾患発症に関わる分子病理を講義する。それらの基礎知識の応用として、臨床遺伝学、遺伝子治療、医学に関する生命倫理までを講義する。単一遺伝子病から多因子病までを DNA を通して統一的に理解し、将来の臨床の場に役に立てられるような幅広い知識と応用力を習得して欲しい。

## 4. 教科書・教材・参考書

遺伝医学への招待 第5版 新川詔夫・太田 亨 南江堂 1,944 円  
遺伝医学やさしい系統講義 福嶋義光 監修 メディカルサイエンス・インターナショナル 4,860 円  
トップ・トップ遺伝医学 第7版 福嶋義光 監訳 メディカルサイエンス・インターナショナル 10,800 円  
ゲノム医学 菅野純夫・福嶋義光 (監訳) メディカルサイエンス・インターナショナル 9,288 円

## 5. 成績評価の方法・基準等

期末試験：授業内容にそった筆答試験 (100点満点) において60点以上を合格とする。  
試験および出席等で不正が発覚した場合には、その指示者、実行者ともに当該年度の分子遺伝系の受験資格を与えない。

## 6. 事前・事後学修の内容

上記教科書による復習を勧める。

## 7. 教員名

吉浦 孝一郎、木下 晃 (原研人類遺伝学)、永山 雄二 (原研分子医学)、  
光武 範吏 (原研放射線災害医療学)、木住野 達也 (先導生命科学研究支援センター)、  
塚元 和弘 (薬学部薬物治療学)、三浦 清徳 (産婦人科学)、  
平山 謙二 (熱研免疫遺伝学)、松本 直通 (横浜市立大学大学院環境分子医科学)、  
原田 直樹 (京都大学iPS細胞研究所)、近藤 達郎 (みさかえの園むつみの家)

## 8. 備考

期末試験の再試験は行なわないので注意すること。体調不良、事故等の突発的な事情による試験欠席については、追試験を考慮する。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	S

# 分子遺伝系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	28	金	1	遺伝医学総論I	ヒトの形式遺伝と特性I	原遺・吉浦	1 講
9	28	金	2	遺伝医学総論II	ヒトの形式遺伝と特性II	原遺・吉浦	1 講
10	5	金	1	細胞遺伝学I	染色体の構造と解析法	非常勤・原田	1 講
10	5	金	2	細胞遺伝学II	臨床細胞遺伝学・染色体異常症	非常勤・原田	1 講
10	5	金	5	遺伝医学総論III	ヒトの形式遺伝と特性III	原遺・吉浦	1 講
10	5	金	6	遺伝子の構造I	核酸の生化学	原遺・吉浦	1 講
10	19	金	1	遺伝子の構造II	DNA複製と修復機構	原遺・木下	1 講
10	19	金	2	遺伝子の構造III	ヒトゲノムの構成, 遺伝子の構造と機能I	原遺・木下	1 講
10	26	金	1	転写と翻訳I	転写・翻訳の機構	原遺・木下	1 講
10	26	金	2	転写と翻訳II	ヒト遺伝子の発現と発現制御	原遺・木下	1 講
11	9	金	1	分子病理I	疾患発症機構I	原遺・吉浦	1 講
11	9	金	2	分子病理II	疾患発症機構II	原遺・吉浦	1 講
11	16	金	1	分子病理III	疾患発症機構III	原遺・吉浦	1 講
11	16	金	2	分子病理IV	疾患発症機構IV	原遺・吉浦	1 講
11	30	金	1	分子病理V	分子遺伝学研究で使われる技術	原遺・吉浦	2 講
11	30	金	2	免疫遺伝学	免疫関連遺伝子と遺伝学	非常勤・平山	2 講
12	7	金	1	分子病理VI	エピジェネティックス機構	先導生科セ・木住野	1 講
12	7	金	2	分子病理VII	エピジェネティックスと疾患	先導生科セ・木住野	1 講
12	14	金	1	ゲノム医学研究I	最先端ゲノム医学研究I	非常勤・松本	1 講
12	14	金	2	ゲノム医学研究II	最先端ゲノム医学研究II	非常勤・松本	1 講
12	21	金	1	腫瘍遺伝学I	腫瘍遺伝学I	原研細胞・光武	1 講
12	21	金	2	腫瘍遺伝学II	腫瘍遺伝学II	原研細胞・光武	1 講
1	4	金	1	臨床遺伝学I	遺伝性疾患の臨床I	非常勤・近藤	1 講
1	4	金	2	臨床遺伝学II	遺伝性疾患の臨床II	非常勤・近藤	1 講
1	11	金	1	多因子遺伝基礎	集団遺伝学、遺伝子多型、遺伝的浮動	原遺・吉浦	1 講
1	11	金	2	多因子遺伝基礎	多因子疾患と関連解析の基礎	原遺・吉浦	1 講
1	18	金	1	テーラーメイド医療	薬理遺伝学I	薬物治療学・塚元	1 講
1	18	金	2	テーラーメイド医療	薬理遺伝学II	薬物治療学・塚元	1 講
1	25	金	1	分子病理VI	ミトコンドリアDNAと遺伝病	原遺・木下	1 講
1	25	金	2	出生前診断	遺伝性疾患と出生前診断	産婦人科・三浦	1 講
2	1	金	1	遺伝子治療	遺伝子治療の原理と応用	原研分子・永山	1 講
2	1	金	2	遺伝カウンセリング	遺伝カウンセリングI	非常勤・近藤	1 講

# 環境因子系

責任者	氏名（教室）	工藤 崇（原研放射（アイソトープ診断治療学））		
	電話番号	095-819-7101	e-mail	tkudo123@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Environmental Science		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

生活環境には電離放射線が存在し、医療や研究に利用されている。これらの放射線の性質・作用および医療における利用法を学び、放射線に関する基礎知識を身につける。

## 2. 授業到達目標

放射線の物理的特性や生物影響などを理解するとともに、放射線の健康影響を自分で調査・評価できる技術を習得する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

放射線の性質・作用・健康リスクを分子レベルから組織レベル、個体レベルにいたる多方面から幅広く解説する。また、福島原発事故の話題も交えながら放射線防護、疫学、およびリスクコミュニケーションについて解説する。

実習では、放射線の測定および被ばくによる健康リスク評価を体験し、技術を習得する。

## 4. 教科書・教材・参考書

【参考書】放射線基礎医学 青山 喬 編纂 金芳堂 5,900 円  
この他に、各自で授業に関連した興味深い本を探してください。

## 5. 成績評価の方法・基準等

期末試験+Webテスト : 70% 義・実習への取り組み : 30%  
必要に応じてレポートの提出を課す。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSに講義資料を掲示するので予習しておくこと。

## 7. 教員名

工藤 崇、西 弘大（原研放射）、松田 尚樹、山内 基弘（アイソトープ施設）、  
鈴木 啓司（原研医療）、折田 真紀子（原研国際）、  
粟井 和夫（広島大学）、長谷川 有史（福島県立医科大学）

## 8. 備考

講義中に行う小テストの提出をもって出席とする。  
欠席しなければならない場合は、あらかじめ届けるか、連絡すること。  
講義資料はLACSにアップロードし、紙媒体での配布は行わない。  
質問はLACSでも随時受け付ける。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

環境因子系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	12	水	1~2	放射線物理学	放射能・放射線の基礎物理学	西	1 講
12	12	水	3	放射線生物学(1)	DNA損傷修復と放射線分子細胞応答	鈴木	1 講
12	12	水	4~5	放射線生物学(2)	放射線による細胞死誘導と組織反応	鈴木	1 講
12	12	水	6	放射線生物学(3)	放射性物質による内部被ばくと医療	工藤	1 講
12	19	水	1	放射線生物学(4)	集団レベルの放射線影響	山内	1 講
12	19	水	2~3	外部講師 講義	原子力災害医療	福島県立医科大学 長谷川	1 講
12	19	水	4	放射線リスク学(1)	放射線健康リスクとリスクコミュニケーション	折田	1 講
12	19	水	5~6	外部講師 講義	医療被ばく	広島大学 栗井	1 講
1	9	水	1~2	放射線リスク学(2)	太陽紫外線と放射線の違いからリスクを理解する (物理的性質、健康リスク、規制科学、リスク認知)	松田	1 講
1	9	水	3	放射線計測学	放射線測定の実験と基礎	西	1 講
1	9	水	4~6	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	(1) 西 (2) 山内 (3) 松田 (4) -	1 講 アイソトープ実験施設 良順会館
1	16	水	4~6	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	(1) 西 (2) 山内 (3) 松田 (4) -	1 講 アイソトープ実験施設 良順会館
1	23	水	4~6	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	(1) 西 (2) 山内 (3) 松田 (4) -	1 講 アイソトープ実験施設 良順会館
1	30	水	4~6	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	(1) 西 (2) 山内 (3) 松田 (4) -	1 講 アイソトープ実験施設 良順会館

# 感染系

責任者	氏名 (教室)	西田 教行 (感染分子解析学)		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30~18:30		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical Microbiology and Parasitology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

感染系ではヒトに感染し、病気を起こす微生物（ウイルス・細菌・真菌・原虫・ぜん虫）の生物学的特性と生活環について学び理解する。さらに病気を起こすメカニズムを学び、この授業の終了後には、主要な病原体のもつ生物学的特徴と、感染の結果どのようなメカニズムで発症するのか説明できる。また病原体の地理的分布や、発生頻度、流行状況についての基本的な疫学事項を述べるができる。さらに、これらの治療やワクチンその他による予防法についても説明できる。講義と実習を通しての知識の習得にとどまらず、ケーススタディを通して自ら疑問をもち、問題を発見し問題解決力を養うことを目指している。

## 2. 授業到達目標

各種病原微生物の特徴を述べるができる。ウイルスの感染・増殖メカニズムを説明できる。細菌・真菌の増殖メカニズムを説明できる。病原性を説明できる。原虫・蠕虫の生活環と感染様式を説明できる。各種病原体の感染経路を説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

授業はウイルス学・細菌学（真菌を含む）・寄生虫学（原虫を含む）に大別して行い、学内外の専門家による分担講義とする。各論的内容はグループ学習と発表を中心に行い、講義で内容を補いかつ最先端の研究に触れる。実習の目的は、実際の病原体に触れることにより、現実の「もの」をみる感覚を養い、危険な病原体の取り扱い方法について学び、さらに鑑別診断のロジックを体得することにある。時間は限られているので各論で取り上げていない病原体については自己学習とする。

## 4. 教科書・教材・参考書

微生物学 基礎から臨床へのアプローチ (2012)  
神谷茂、河野茂 監訳 メディカルサイエンスインターナショナル 8,300円  
ブラック微生物学 2版 (2007) 林英生ら監訳 丸善 7,900円  
標準微生物学 10版 (2009) 平松啓一・中込治 医学書院 7,350円  
戸田新細菌学 33版 (2007) 吉田真一・柳雄介 南山堂 15,000円  
図説人体寄生虫学 7版 (2006) 吉田幸雄・有菌直樹 南山堂 9,450円

## 5. 成績評価の方法・基準等

学習態度および到達目標への達成度を課題レポート（3割）、実習レポート（3割）、発表（1割）、定期考査（3割）により総合評価し、60点以上の得点をもって合格とする。科目責任者の責任で、再試験を行うことがある。

## 6. 事前・事後学修の内容

授業で用いる予告された論文の通読。  
授業で扱った内容の関連箇所を複数の参考書を用いて復習し、知識を整理。

## 7. 教員名

西田 教行、石橋 大輔、田口 謙、中垣 岳大、ゴーチャン・プニータ（感染分子）、  
内藤 真理子（歯学部細菌学）、柳原 克紀、森永 芳智、賀来 敬仁（検査部）、  
渡邊 健、久保 嘉直（リーディング大学院）、泉川 公一（臨床感染症学）、  
佐藤 克也（保健学科）、北 潔、上村 春樹（グローバルヘルス）  
金子 修、矢幡 一英、森田 公一、濱野 真二郎、平山 謙二、山本 太郎、安田 二郎、  
早坂 大輔（熱帯医学研究所）、  
山城 哲（琉球大学）、宮崎 義継（国立感染研究所）

## 8. 備考

教員の都合により、講義の入れ替えを行うことがある。実習への出席は白衣着用を条件とする。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	S

感染系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	27	木	1	ガイダンス 1	微生物学入門	西田 教行 (感染分子)	1 講
9	27	木	2	ガイダンス 2	感染症とは	西田 教行 (感染分子)	1 講
9	28	金	5	細菌学	細菌の構造	内藤 真理子 (歯学部)	1 講
9	28	金	6	細菌学	細菌の代謝	内藤 真理子 (歯学部)	1 講
10	4	木	1	細菌学	滅菌と消毒	柳原 克紀 (検査部)	1 講
10	4	木	2	細菌学	化学療法	柳原 克紀 (検査部)	1 講
10	11	木	1	細菌学	腸内細菌	非常勤 山城 哲 (琉球大学)	1 講
10	11	木	2	細菌学	下痢を起こす細菌感染	非常勤 山城 哲 (琉球大学)	1 講
10	12	金	1	細菌学	口腔細菌	内藤 真理子 (歯学部)	1 講
10	12	金	2	細菌学	緑膿菌	柳原 克紀 (検査部)	1 講
10	12	金	5	細菌学	細菌性毒素	森永 芳智 (検査部)	1 講
10	12	金	6	細菌学	嫌気性菌	森永 芳智 (検査部)	1 講
10	18	木	1	総合演習	Case Study 1	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	18	木	2	総合演習	Case Study 1	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	19	金	5	真菌学	真菌 (1)	非常勤 宮崎 義継 (感染研)	1 講
10	19	金	6	真菌学	真菌 (2)	非常勤 宮崎 義継 (感染研)	1 講
10	25	木	1	総合演習	Case Study 2	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	25	木	2	総合演習	Case Study 2	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	26	金	5	細菌学	クラミジア	賀来 敬仁 (検査部)	1 講
10	26	金	6	細菌学	マイコプラズマ	賀来 敬仁 (検査部)	1 講
11	1	木	1	ウイルス学	ウイルスの複製機構	石橋 大輔 (感染分子)	1 講
11	1	木	2	ウイルス学	ウイルス感染と宿主免疫応答	石橋 大輔 (感染分子)	1 講
11	2	金	5	細菌学	抗酸菌	泉川 公一 (臨床感染症学)	1 講
11	2	金	6	細菌学	非定型抗酸菌	泉川 公一 (臨床感染症学)	1 講
11	8	木	1	ウイルス学	腫瘍ウイルス 1 (EBVなど)	石橋 大輔 (感染分子)	1 講
11	8	木	2	ウイルス学	腫瘍ウイルス 2 (HPVなど)	中垣 岳大 (感染分子)	1 講
11	9	金	5	総合演習	Case Study 3	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	9	金	6	総合演習	Case Study 3	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	15	木	1	ウイルス学	レトロウイルス 1 HIV	久保 嘉直 (リーディング)	1 講
11	15	木	2	ウイルス学	レトロウイルス 2 HTLV-1	久保 嘉直 (リーディング)	1 講
11	16	金	5	総合演習	Case Study 4	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	16	金	6	総合演習	Case Study 4	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	22	木	1	ウイルス学	肝炎ウイルス (1)	佐藤 克也 (保健学リハ)	1 講
11	22	木	2	ウイルス学	肝炎ウイルス (2)	佐藤 克也 (保健学リハ)	1 講
11	29	木	4	ウイルス学	出血熱ウイルス (エボラなど)	安田 二郎 (熱研)	1 講
11	29	木	5	ウイルス学	ダニ媒介性ウイルス感染症	早坂 大輔 (熱研)	1 講
11	29	木	6	総合演習	Case Study 5	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	30	金	5	ウイルス学	蚊媒介性ウイルス感染症	森田 公一 (熱研)	記念講堂
11	30	金	6	総合演習	Case Study 5	西田 教行 (感染分子)	記念講堂
12	6	木	4	ウイルス学	神経系に感染するウイルス 1 (ポリオ、ヘルペス)	田口 謙 (感染分子)	1 講
12	6	木	5	ウイルス学	神経系に感染するウイルス 2 (JC、狂犬病)	田口 謙 (感染分子)	1 講
12	6	木	6	ウイルス学	下痢嘔吐ウイルス	ゴーチャン・プニータ (感染分子)	1 講
12	7	金	5	総合演習	Case Study 6	西田 教行 (感染分子)	1 講
12	7	金	6	総合演習	Case Study 6	西田 教行 (感染分子)	1 講
12	13	木	4	ウイルス学	インフルエンザウイルス	渡辺 健 (リーディング)	1 講

感染系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	13	木	5	ウイルス学	呼吸器感染ウイルス	渡辺 健 (リーディング)	1 講
12	13	木	6	ウイルス学	麻疹と風疹	中垣岳大 (感染分子)	1 講
12	14	金	5	総合演習	Case Study 7	西田 教行 (感染分子)	1 講
12	14	金	6	総合演習	Case Study 7	西田 教行 (感染分子)	1 講
12	20	木	5	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1・2
12	20	木	6	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1・2
12	21	金	5	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1・2
12	21	金	6	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1・2
1	4	金	5	総合演習	Case Study 8	西田 教行 (感染分子)	1 講
1	4	金	6	総合演習	Case Study 8	西田 教行 (感染分子)	1 講
1	10	木	5	特別講義	Neglected Tropical diseases	平山 謙二 (熱研)	1 講
1	10	木	6	原虫学	原虫学総論	金子 修 (熱研)	1 講
1	11	金	5	原虫学	トリパノソーマ	上村 春樹 (熱研)	1 講
1	11	金	6	原虫学	マラリア	矢幡 一英 (熱研)	1 講
1	17	木	4	原虫学	腸管寄生原虫	金子 修 (熱研)	1 講
1	17	木	5	原虫学	原虫学実習	金子 修 (熱研)	実1・2
1	17	木	6	原虫学	原虫学実習	金子 修 (熱研)	実1・2
1	18	金	5	寄生虫学	寄生虫学総論	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	18	金	6	寄生虫学	線虫学	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	24	木	4	寄生虫学	吸虫学	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	24	木	5	寄生虫学	条虫学	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	24	木	6	特別講義	抗原虫薬研究開発	北 潔 (TMGH)	1 講
1	25	金	5	寄生虫学	寄生虫学実習 虫卵など	濱野 真二郎 (熱研)	実1・2
1	25	金	6	寄生虫学	寄生虫学実習	濱野 真二郎 (熱研)	実1・2
1	31	木	4	特別講義	感染症学の基礎	山本 太郎 (熱研)	1 講
1	31	木	5	特別講義	国際保健	山本 太郎 (熱研)	1 講
1	31	木	6	総合演習	Case Study 9	西田 教行 (感染分子)	1 講
2	1	金	5	総合演習	Case Study 9	西田 教行 (感染分子)	1 講
2	1	金	6	ウイルス学	プリオンと葉害ヤコブ病	西田 教行 (感染分子)	1 講

# 免疫系

責任者	氏名 (教室)	由井 克之 (免疫学)		
	電話番号	095-819-7070	e-mail	katsu@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	12:30~13:00		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Immunology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

免疫系は、ウイルス・細菌・寄生虫など外界の生物や異物の侵入に対して、個体の恒常性維持のために発達した生体系であり、この系を構成する様々な細胞・分子群は、複雑な相互作用を営みながら秩序正しく行動している。この免疫系の成り立ちの基本原則とその破綻の結果生ずる病態の基礎を理解し知識を身につけることが第一目標である。免疫学は実験医学であり個々の原理は実験によって裏付けられている。これらの実験の基本を理解し、医科学の科学的検証法を学ぶことが第二の目標である。さらに、学生諸君が自ら「なぜ？」との疑問を發し、医科学における真理の探究とその応用に思いを馳せることを期待する。講義および実習においては、単に事実の羅列や記憶ではなく、その基礎にある科学的思想と実験的検証に対する理解を深め、問題解決能力の養成を重視する。

## 2. 授業到達目標

ヒト免疫系の基本的な仕組みと、免疫系に関連して生ずる様々な病態について説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

免疫細胞の認識・分化・活性化・エフェクター機能・制御機構を中心に免疫系の基本原則について講義・実習を行う。さらに、外的内的恒常性の変化に対して免疫系がどのように機能するか、またその制御機構の破綻とその病態について講義する。

## 4. 教科書・教材・参考書

Janeway's Immunobiology, 9th ed. Kenneth Murphy Garland Science 9,088円  
 免疫生物学 原著第7版 笹月健彦 (翻訳) 南江堂 8,964円  
 Cellular and Molecular Immunology, 9th ed. A.K.Abbas他 Saunders 8,976円  
 分子細胞免疫学 原著第7版 松島綱治他 (翻訳) エルゼビアジャパン 10,584円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験 (中間試験10%、本試験90%)。但し、出席・実習レポートも考慮する。60点以上を合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書等の該当する部分を読むこと。

## 7. 教員名

由井 克之、都田 真奈 (免疫学)、川上 純 (第一内科)、森内 浩幸 (小児科)、日高 匡章 (移植・消化器外科)、竹中 基 (皮膚科・アレルギー科)、鵜殿 平一郎 (岡山大学)、木村 大輔 (神戸女子大学)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

# 免疫系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	27	木	5	免疫学入門	免疫系の特徴・免疫学の歴史	免疫・由井	1 講
9	27	木	6	免疫学入門	免疫細胞と組織	免疫・由井	1 講
10	4	木	5	自然免疫	パターン認識受容体	免疫・由井	1 講
10	4	木	6	自然免疫	自然免疫応答、サイトカイン	免疫・由井	1 講
10	11	木	5	自然免疫	補体	免疫・由井	1 講
10	11	木	6	抗原認識	抗体の構造と機能	免疫・由井	1 講
10	18	木	5	抗原認識	T細胞の抗原認識	免疫・由井	1 講
10	18	木	6	抗原認識	抗原受容体遺伝子	免疫・由井	1 講
11	1	木	5	免疫応答	MHC	免疫・由井	1 講
11	1	木	6	免疫応答	T細胞活性化	免疫・由井	1 講
11	8	木	4~6	免疫学実習	抗原抗体反応	非常勤・木村	実2
11	15	木	4~6	免疫学実習	リンパ球の同定と分離	免疫・都田	実2
11	22	木	4~6	免疫学実習	抗体産生細胞の同定・フローサイトメトリー	免疫・都田	実1
11	29	木	1	免疫応答	T細胞の分化と選択(1)	免疫・由井	1 講
11	29	木	2	免疫応答	T細胞の分化と選択(2)	免疫・由井	1 講
12	6	木	1	免疫応答	細胞性免疫応答(1)	免疫・由井	1 講
12	6	木	2	免疫応答	細胞性免疫応答(2)	免疫・都田	1 講
12	13	木	1	免疫応答	液性免疫応答(1)	免疫・由井	1 講
12	13	木	2	免疫応答	液性免疫応答(2)	免疫・由井	1 講
12	13	木	3	免疫応答	免疫寛容と制御(1)	免疫・由井	1 講
12	20	木	1	免疫応答	免疫寛容と制御(2)	免疫・由井	1 講
12	20	木	2		中間テスト	免疫・由井	1 講
12	20	木	3		中間テスト解説	免疫・由井	1 講
1	10	木	1	免疫と病気	移植免疫	外科学二・日高	1 講
1	10	木	2	免疫と病気	腫瘍免疫の最前線	非常勤・鶴殿	1 講
1	10	木	3	免疫と病気	腫瘍免疫の最前線	非常勤・鶴殿	1 講
1	17	木	1	免疫応答	免疫系の細胞動態	免疫・由井	1 講
1	17	木	2	免疫応答	免疫記憶	免疫・由井	1 講
1	17	木	3	免疫と病気	免疫不全	小児・森内	1 講
1	24	木	1	免疫と病気	粘膜免疫・自然免疫リンパ球	免疫・由井	1 講
1	24	木	2	免疫と病気	感染免疫	免疫・由井	1 講
1	24	木	3	免疫と病気	アレルギー	皮膚・竹中	1 講
1	31	木	1	免疫と病気	自己免疫疾患(1)	内科学一・川上	1 講
1	31	木	2	免疫と病気	自己免疫疾患(2)	内科学一・川上	1 講
1	31	木	3		まとめ	免疫・由井	1 講

# 腫瘍系

責任者	氏名 (教室)	池田 裕明 (腫瘍医学)		
	電話番号	095-819-7079	e-mail	hikeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00~18:00		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	The Biology of Cancer		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

本講座は昭和61年、我が国最初の腫瘍医学講座として発足した。医学教育では腫瘍に関する基礎科学から臨床腫瘍学までを集中的かつ系統的に担当する。とりわけ、近年急速に発展した癌の発生、進展の機構の分子生物学的知見、診断と治療の技術革新の展開に関する内容を大幅に取り入れ、今日的な腫瘍に対する見方を探り、新たなる発展の礎となる教育を目指している。

## 2. 授業到達目標

具体的には発がんからがんの進展、浸潤、転移に関するがんの分子生物学、がんと生体の相互作用、がんの個別性、分子標的薬、免疫機能を利用した治療法や遺伝子治療等の新しい治療法、基礎研究を基に臨床応用を行うトランスレーショナル研究、臨床腫瘍学の入門と、幅広い学習を目指す。また、本課目の学習を通じて、科学的・論理的な思考法、仮説と検証に基づく考え方、柔軟で独創的な考え方のトレーニングを目指す。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義

## 4. 教科書・教材・参考書

【参考書】

- ・がんの生物学 R.A. ワインバーグ 南江堂 12,000円
- ・Essential 細胞生物学 中村桂子・松原謙一 監訳 南江堂 8,000円

【その他】

PUB Med (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/books>) に無料で公開されている以下の4つの参考書を自由に参照できるようにすること。

- ・Molecular Cell Biology (4th ed.)
- ・Retroviruses
- ・Molecular Biology of the Cell (4th ed.)
- ・Cancer Medicine (6th ed.)

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験およびレポート (小テスト含む)。レポート又は小テストは毎回の授業の最後に実施し、提出を出席とみなす。出席が2/3に満たなかったものは評価の対象としない。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACS資料を基に、予習並びに復習を行い、次回の講義にて確認作業を行う。

## 7. 教員名

池田 裕明 (腫瘍医学)、浦野 健 (島根大学)、藤田 雅俊 (九州大学)、林 日出喜 (MEDURA)、佐々木 均 (病院薬剤部)、今泉 芳孝 (原研内科)、益谷 美都子 (フロンティア生命科学)、芦澤 和人 (臨床腫瘍学)

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	S

## 腫瘍系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	26	水	1	腫瘍概論	がんの生物学概論Ⅰ	腫瘍医学 池田	1 講
9	26	水	2	腫瘍概論	がんの生物学概論Ⅱ	腫瘍医学 池田	1 講
9	26	水	3	腫瘍概論	がんの生物学概論Ⅲ	腫瘍医学 池田	1 講
10	3	水	1	腫瘍の発生	がん発生の分子生物学	島根大学 浦野	1 講
10	3	水	2	腫瘍の発生	がん遺伝子・がん抑制遺伝子	島根大学 浦野	1 講
10	10	水	1	腫瘍の発生	細胞周期と細胞増殖シグナル	九州大学 藤田	1 講
10	10	水	2	腫瘍の発生	DNA修復異常と発がん	九州大学 藤田	1 講
10	17	水	1	腫瘍の発生	多段階発がん	MEDURA 林	1 講
10	17	水	2	腫瘍の発生	化学発がん	薬剤部 佐々木	1 講
10	17	水	3	腫瘍の発生	染色体異常	原研内科 今泉	1 講
10	24	水	1	腫瘍の進展	がんとアポトーシス	フロンティア 益谷	1 講
10	24	水	2	腫瘍の進展	がんと血管新生	MEDURA 林	1 講
10	31	水	1	腫瘍の進展	転移・浸潤・EMT	腫瘍医学 池田	1 講
10	31	水	2	腫瘍の進展	がんと炎症	腫瘍医学 池田	1 講
11	14	水	1	腫瘍の進展	がんと免疫	腫瘍医学 池田	1 講
11	14	水	2	腫瘍の診断/治療	がん免疫療法	腫瘍医学 池田	1 講
12	5	水	5	腫瘍の診断/治療	化学療法/個別化がん治療/ トランスレーショナル・リサーチ	腫瘍医学 池田	1 講
12	5	水	6	腫瘍の診断/治療	臨床腫瘍学入門	臨床腫瘍学 芦澤	1 講

# プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次 通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（研究医枠及び熱帯医学研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

1年次：論文研究（ゼミ形式）と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。

2年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

## 7. 備考

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

# English for International Medicine

**Instructors:** Luc Loosveldt/Jim Briganti

**Class Time :** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. A range of materials will be introduced to discuss global health issues. Students will be asked to research and introduce their own materials in class to show their understanding.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of materials will be used to introduce global health issues for discussion.</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i></p>	

# 医学ゼミ

責任者	氏名 (教室)	柳原 克紀 (臨床検査医学 (病態解析・診断学) )		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次 前期・後期、3～4年次 後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1単位
科目英語名	Small group medical seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。A0学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

## 2. 授業到達目標

各担当教員による。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

各担当教員による。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

## 6. 備考

授業科目の選択方法

- A. 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- B. 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する (第3希望まで)。
- C. 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。

3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

## 7. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

平成30年度 医学ゼミ 開講テーマ一覧(2年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
神経形態学(第一解剖)	森 望	Neuroanatomy of the Mind:心の神経解剖学	神経解剖学、神経生理学の知識をベースに「認知」「意識」「認識」「感性」「行動」「意欲」等の脳内原理を理解する。その上で、「こころがどう生まれ、成長し、内熟するのか、あるいは、ゆらぎ、揺れるのか、自分の頭で考える。脳神経科学、精神医学への橋渡しとする。自らの頭で考え、自らの言葉で語り、自らのスタイルで発表できるようにする。	脳には形があるが、心には形がない。しかし、心は脳内に生まれる。では、脳心はどのように形成されるのか?現代の神経科学、脳科学の知識をベースに、心の形成のナゾへ挑む。	金曜日3校時	視聴覚セミナー室3	出席、発表内容、質疑応答、レポート	
肉眼解剖学(第二解剖)	坂本 敏行	臨床解剖学への招待	様々な疾患の病態・治療を解剖学的側面から理解することにより、それら疾患への理解を深めること	さまざまな臓器に生じる各種の疾患を提示し、それらの発症メカニズムの肉眼的背景について考察する。ゼミは抄読会形式で進行する。解剖学に関連した臨床分野の英語論文を自ら調べた上で読んで理解し、プレゼンテーションをする。さらに、全体で討論する。	金曜日3校時	視聴覚セミナー室1	出席、発表の評価、質疑応答	
組織解剖(第三解剖)	小路 武彦	ビデオで学ぶ組織発生	発生学・組織実習で得た知識を深めることを目的とする。	日本語の動画教材を用い、発生学から疾患への理解を深める。各回組織発生に関するDVDを鑑賞の後、グループ討論を行う。	金曜日3校時	小会議室	出席、レポートを総合的に評価。	
神経生理(第二生理)	藤原 一之	心の個人差の脳科学	英語論文、原著輪読を通して心の個人差の脳科学について理解を深めるとともに、英語読解・プレゼンテーション能力を養う。	近年、性格をはじめとした心の個人差、及び、社会的コミュニケーション能力障害を呈する発達障害と、脳機能・形態、遺伝子多型、内分秘機能との関わりが明らかになりつつある。そこで、これら心の個人差・発達障害の生物学的基盤に関する最新の研究論文を読み、その内容に関するプレゼンと議論を行う。これらの活動を通して、心の科学に関する理解を深めるとともに、臨床・研究活動に必須の英語読解・プレゼン能力を身につける。	金曜日3限	第二生理学教室・会議室	レポート、出席、発表内容等を加味して総合的に評価する。	
病理診断科学	福岡順也/新野 大介/二口 充	形態から見る「癌って?」	形態を見て癌に起こっている生物学を考えるブレインストーム	がん細胞は本当にモノクローナルなのか?癌が引き起こす周囲の環境の変化はどう考えるのか?なぜ癌はCR1にならないのか?などについて、病理学的にアプローチし、ディスカッションを行う。	金曜日3校時	病理診断科医局(歯学部C棟5階)/中央診療棟3階 病理診断科・病理部	ディスカッションの能力と理解度	
微生物学(感染分子)	西田教行 田口 謙	ケースレポートから学ぶ感染症	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う	NEJMのCase reportから感染症の症例を選択的に取り上げ、丁寧に読解を行う。	金曜日3校時	基礎棟8階 集会室	出席およびレポート	
精神神経科	小澤寛樹	映画から見る精神医学	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通して、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神疾患を取り扱った映像作品を毎回取り上げ鑑賞し、1~2, 3人がその疾患に関して事前調査と資料作成、講義当日にプレゼンテーションを実施する事で、能動的な参加姿勢を養う。	原則として水曜日17時開始	第3講義室または精神科外来63番診察室	①出席率50%②現後述に行うディスカッションへ参加意欲・各回の提出レポート50%	毎回映画の視聴後にテーマディスカッション・解説講義を21時までに行います。期間内で5校時目以降に他科目を受講する必要がある人、その他予定のある人などは、その点留意してください。
精神神経科	今村明	児童思春期の精神医学を考える	精神医学の世界に於いて児童・思春期の精神医学はその社会的な重要性に比して、専門家から不足している領域である。本ゼミでは発達障害を中心にこの分野を中心に取り上げ、学んでいく。	発達障害を中心に児童・思春期精神医学についての概要を学んでいく。映像作品等での視覚的な学習も随時実施する。時間が許せば、課外実習として各種施設などを見学し、実地に学ぶ事も行いたいと考えている。	水曜日18時以降	精神科外来63番診察室	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性②講義終了後に提出してもらう課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
精神神経科	木下裕久	リエゾン症例から学ぶ臨床精神医学(基礎編)	総合病院の一般病棟で遭遇する可能性が高い精神障害の症例を題材として、リエゾン精神医学の基本的な考え方を診断から治療への経過を通して学ぶ講義とする。	評価ツールの使い方など、低学年でも興味を持っていただける内容です。	原則として火曜日19時開始	精神科医局または外来	積極的な参加姿勢や課題への取り組みを評価	参加希望者が11名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
精神神経科	松坂雄亮	精神科医と学ぶ総合診療への道	人体の基礎知識と疾患の成り立ちを中心に体系的に復習し、症例を題材とした学習を通して診断から治療への流れを感覚として身につける。精神科医という職種その道のプロではない者」とともに行うことで、これからの臨床実習・初期研修で習得すべきエッセンスを見出す機会とする。	1回の授業で1つの症例をテーマにする。ロールプレイ形式で医療面接の練習を行い、症例に関する基礎医学的、病理学的な知識を復習する。また、診断に至る過程と基本的な治療を学び、1つの疾患を時系列的なストーリーとして把握することで、実臨床に近い形で知識を習得する。毎回異なる臓器の異なる病態について学んでいく。	金曜日17:00-18:00	精神科医局	ゼミへの積極的な参加姿勢や取り組み状況を総合的に評価する	
小児科	中嶋 有美子	障害が個性か—子どもがハンディキャップを知った家族の受容と社会の支援を考える	人と違うことは障がいなのか、個性なのか—家族が直面する葛藤や、乗り越えていくための課題を少しでも理解し、周囲が支援するために何が必要かを一緒に考えてもらいたい。	我が子に染色体異常があるとわかったとき、育児中に育てにくさを感じたとき、よその子よりも遅れていると思えたとき、途方に暮れ、悩み、怒り、苦しむ家族がそれを受容していくことができるのかどうか、子どもが大きくなって社会の中で生きていくためにどのような足跡があるか。毎回テーマを決めて考察を加える。	木曜日17時18分	10階小児科医局カンファランス室	最後のまとめ	
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye diseases	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	月曜日17:00-18:30	眼科医局	出席、態度、レポートなどにより総合的に評価する	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い種々の感染症や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物・生き物の独特な生態においてヒトが患者になるのか?学生との双方向に意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに予防的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように克服しているのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のBridgingとは何かを習得する。	月曜日16:30-18:00	長崎大学病院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
原研国際	高村 昇	グローバルヘルス入門(2)	一年時に引き続き、推薦入学国際枠で入学した学生に加え一般学生を対象に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、グローバルヘルスに関する成書の輪読会を行い、あわせてグローバルヘルスに関する概説を行う。	「Textbook of International Health」をはじめとする国際保健関連の英文資料を輪読することによって国際保健、国際医療の実態についてより深い理解を得る。	金曜日3校時	原研棟4階研修室	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	
へき地病院再生支援・教育機構	調 漸 中嶋了太	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療や我が国これからの医療について考える	・離島・へき地の第一線で活躍する多職種による双方向性の講義を中心とする。 ・地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライドクターとして活躍する医師のほか行政や地域のメディカルスタッフによる講義を予定している。 ・「地域医療」という漠然としたイメージをリアルな物として認識できるようにすること。 ・地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	金曜日 18:00~19:30	医学部基礎棟1階 視聴覚教室	出席、レポート・発表で評価を行います。	全学生を対象としています。地域枠のみならず地域枠以外の学生で地域医療・総合診療に関心のある方の参加を歓迎いたします。
フロンティア生命科学	益谷 美和子 戸澤 和人 本田 琢也 二口 充	がん医療の最前線での研究や課題を学ぶ	がん医療の最前線での研究や課題についてのカンファレンスに参加し学び、理解を深める。	全国のがん診療連携拠点病院と国立がん研究センターが参加するネットワークで開催する多地点合同TVメディアカンファレンスに参加し、聴講する。	第2, 第4木曜日17:30-19:00	C棟8階第6会議室	出席、出席態度を重要視する。レポート・試験などはありせん。	全学生を対象としています。がん医療に関心のある方の参加を歓迎いたします。

## English Foundation Skills for Second Year Medical Students

**Instructors:** Luc Loosveldt  
Jim Briganti

**Class Time :** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

Course Objectives	
<p>This is a continuation of the previous year's English for Medical Students. The course will build on the foundation laid in the previous course, but with a focus on developing oral skills. Group and pair presentations, discussion, debate practice, and professional email writing protocol will be some of the activities students will be required to actively participate in to successfully complete the course</p>	
Required Textbooks	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Readings to be assigned in class.</li> </ul>	
Topics	
1	Introduction and overview of the course, introduction to the Pecha-Kucha (PK) presentation
2	Introducing and discussion of topics for first group presentation/discussion+ building your Pecha-Kucha (PK); introduction of the rubric
3	Discussion and listening practice; email writing protocol
4	Reviewing the PK scripts; PK practice; using the rubric to review PK performance
5	First PK sessions
6	More email writing tips; reviewing PK sessions
7	First poster session practice + script review
8	First poster session
9	Topics for second group presentation; preparing spoken summaries; more email writing tips
10	Introducing the presentation topics for peer evaluation
11	Reviewing the PK scripts; body language and intonation to convey meaning
12	Second PK sessions
13	discussion and review of second script + introduction on how to make a poster
14	Second poster session practice + script review
15	Final Poster Sessions + evaluations
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, vocabulary quizzes, group project, written work. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide,, not a definite time table.</i></p>	

平成30年度 授 業 時 間 割 3年前期

月	日	月								火								水								木								金										
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8			
		8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40			
2	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	3	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	4	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	5	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40	6	9.50	11.00	12.10	14.00	15.10	16.20	17.30	18.40
4	2	医と社会							3	医と社会							4	医と社会							5	医と社会							6	医と社会										
4	9	基礎医学TBL							10	自主学習							11	自主学習							12	自主学習							13	自主学習										
4	16	病理総論系							17	病理総論系							18	病理総論系							19	放射線医学							20	放射線医学										
4	23	病理総論系試験							24	放射線試験							25	循環器系							26	循環器系							27	循環器系										
4	30	振替休日							1	医学セミ							2	循環器系							3	憲法記念日							4	みどりの日										
5	7	血リン系							8	循環器系							9	循環器系							10	血液リンバ系							11	血液リンバ系										
5	14	循環器系							15	循環器系							16	血液病理							17	血液リンバ系							18	血液リンバ系										
5	21	循環器系							22	自主学習							23	基礎医学TBL							24	学内TOEIC							25	循環器系										
5	28	循環器系							29	感染症系							30	基礎医学TBL							31	循環器系							1	基礎医学TBL										
6	4	基礎医学TBL							5	腎放腎泌尿系							6	感染症系							7	基礎医学TBL							8	血リン試験										
6	11	循環器系試験							12	呼吸病理							13	基礎医学TBL							14	呼吸							15	腎泌尿器系										
6	18	呼吸器系							19	呼吸器系							20	基礎医学TBL							21	呼吸器系							22	薬理系										
6	25	呼吸器系							26	腎泌尿系							27	感染症系							28	呼吸器系							29	薬理系実習										
6	2	呼吸器系							3	腎泌尿系							4	感染症系							5	呼吸器系							6	腎泌尿器系										
6	9	呼吸器系							10	腎泌尿系							11	感染症系							12	呼吸器系							13	薬理系実習										
6	16	海の日							17	感染症系							18	感染症系							19	呼吸器系							20	薬理系										
6	23	呼吸器系							24	自主学習							25	感染症系試験							26	自主学習							27	呼吸器系試験										
6	30	自主学習							31	薬理系試験							1	再試験期間							2	再試験期間							3	再試験期間										
8	6	夏季休業							7	夏季休業							8	夏季休業							9	夏季休業							10	夏季休業										
8	13	夏季休業							14	夏季休業							15	夏季休業							16	夏季休業							17	夏季休業										
8	20	夏季休業							21	夏季休業							22	夏季休業							23	夏季休業							24	夏季休業										
8	27	夏季休業							28	夏季休業							29	夏季休業							30	夏季休業							31	夏季休業										
9	3	再試験期間							4	再試験期間							5	再試験期間							6	再試験期間							7	再試験期間										
9	10	再試験期間							11	再試験期間							12	再試験期間							13	再試験期間							14	再試験期間										

平成30年度 授 業 時 間 割 3年後期

月	日	月								火								水								木								金							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
		8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40	8.50	10.00	11.10	13.00	14.10	15.20	16.30	17.40
10	17	敬老の日							18	英A							19	運動系							20	英B							21	運動系							
10	24	振替休日							25	英C							26	臨床検査医学							27	英B							28	運動系							
10	1	運動系							2	英A							3	運動系							4	英A							5	医と社会							
10	8	体育の日							9	英C							10	臨床検査医学							11	英B							12	臨床検査医学							
10	15	運動系							16	自主学習							17	臨床検査医学							18	自主学習							19	医と社会							
10	22	臨床検査医学							23	自主学習							24	自主学習							25	消化器系							26	運動系							
10	29	臨床検査医学							30	内分分泌系							31	消化器系							1	消化器系							2	臨床検査医学							
11	5	自主学習							6	消化器系							7	消化器系							8	内代栄系							9	内代栄系							
11	12	内代栄系							13	消化器系							14	消化器系							15	内代栄系							16	消化器系							
11	19	内放							20	消化器系							21	内代栄系							22	内代栄系							23	消化器系							
11	26	消化器系							27	内代栄系							28	内代栄系							29	自主学習							30	消化器系							
12	3	英C							4	自主学習							5	再試験期間							6	再試験期間							7	再試験期間							
12	10	再試験期間							11	再試験期間							12	再試験期間							13	再試験期間							14	再試験期間							
12	17	再試験期間							18	再試験期間							19	再試験期間							20	再試験期間							21	再試験期間							
12	24	振替休日							25	冬季休業							26	冬季休業							27	冬季休業							28	冬季休業							
1	31	冬季休業							1	元日							2	リサーチセミナー							3	リサーチセミナー							4	リサーチセミナー							
1	7	リサーチセミナー							8	リサーチセミナー							9	リサーチセミナー							10	リサーチセミナー							11	リサーチセミナー							
1	14	成人の日							15	リサーチセミナー							16	リサーチセミナー							17	リサーチセミナー							18	リサーチセミナー							
1	21	リサーチセミナー							22	リサーチセミナー							23	リサーチセミナー							24	リサーチセミナー							25	リサーチセミナー							
1	28	リサーチセミナー							29	リサーチセミナー							30	リサーチセミナー							31	リサーチセミナー							1	リサーチセミナー							
2	4	リサーチセミナー							5	リサーチセミナー							6	リサーチセミナー							7	リサーチセミナー							8	リサーチセミナー							
2	11	振替休日							12	退職教授記念講演会							13	退職教授記念講演会							14	退職教授記念講演会							15	退職教授記念講演会							
2	18	リサーチセミナー							19	リサーチセミナー							20	リサーチセミナー							21	リサーチセミナー							22	リサーチセミナー							
2	25	リサーチセミナー							26	リサーチセミナー							27	リサーチセミナー							28	リサーチセミナー							29	リサーチセミナー							
3	4	春季休業							5	春季休業							6	春季休業							7	春季休業							8	春季休業							
3	11	春季休業							12	春季休業							13	春季休業							14	春季休業							15	春季休業							
3	18	春季休業							19	春季休業							20	春季休業							21	春季休業							22	春季休業							
3	25	春季休業							26	春季休業							27	春季休業							28	春季休業							29	春季休業							

# 医と社会Ⅲ

責任者	氏名(教室)	安武 亨(先端医育センター)		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical ethics and philosophy 3		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、診療所の体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また、ワークライフバランスについて、仕事と生活の相乗効果を高める考え方を学ぶ。

2年次までは「病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている社会・環境を洞察しうる医師となる」ことなどをめざして、主として医療従事者から見た講義・実習が行われてきた。3年次では、医療従事者でない立場の人から見た場合の、哲学・倫理・社会観・そこで提起される問題について、一緒に考えていく。我々がおかれている現代社会において、「何が正義か?」、「何に価値をおくべきか?」、「倫理観とはどうあるべきか?」といった根本的な哲学については、病気の診断・治療などの現場の対応に追われていると、社会背景を考慮しているようでも、しだいに見えなくなってゆくものである。

加えて、これまでなかなか触れる機会の少なかった歯学系分野についても学ぶ。

## 2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
5. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握することができる

## 3. 授業内容(講義・実習項目)

### 1) 実習

(1) 診療所体験実習

### 2) 講義(実習も含む)内容

(1) 患者とのコミュニケーション、(2) 患者診察入門、(3) 介護・介助 (4) 多職種連携、(5) 地域医療、(6) ワークライフバランス、(7) 地域包括ケアシステム、(8) 医療倫理分野、(9) 歯学系分野、(10) 薬害問題、(11) 国家行政

### 3) 体験討論・レポート作成

診療所等の体験について討論し、レポートを作成する。

## 4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻(打刻可能な講義室の場合)、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

## 7. 教員名

安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子、北山 素（先端医育センター）、  
永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、前田 隆浩（地域医療学）、  
井口 茂（保健学科）、梅田 正博（周術期口腔管理センター）、  
三串 伸哉（摂食嚥下リハビリテーションセンター）、高畠 英昭（リハビリテーション  
部）、藤原 卓（歯学部）、吉村 篤利（歯学部）、伊東 昌子（メディカルワークライフバランスセンター）、  
手嶋 無限（アイビー薬局）、篠崎 彰子（長崎県栄養士会）、貝沼 茂三郎（九州大学）、  
秋野 公造（参議院議員）、坂上 祐樹（平成医療福祉グループ）、  
斐 英洙（ハイズ株式会社）、板井 孝壱郎（宮崎大学）、永田 修一（桜町調剤薬局）、  
吉田 穂波（神奈川県立保健福祉大学）、秋葉 悦子（富山大学）、間宮 清、  
田口 円裕（厚生労働省医政局）、西澤 利夫（西澤国際特許事務所）

## 8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	E

医と社会Ⅲ

(3年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	月	1	地域包括	地域包括ケアにおける医療の役割	地域包括ケア教育センター 永田 康浩	3講
4	2	月	2~3	地域包括	リハビリテーション総論	保健学科 井口 茂	3講
4	3	火	1~2	地域包括	口腔ケアに関して	周術期口腔管理センター 梅田 正博	3講
4	3	火	2~3	地域包括	摂食嚥下リハビリに関して	摂食嚥下リハビリテーションセンター 三串 伸哉	3講
4	4	水	1~2	地域包括	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	アイビー薬局 手嶋 無限	2講
4	4	水	2~3	地域包括	医療と栄養	長崎県栄養士会 篠崎 彰子	2講
4	5	木	1	リハビリテーション	リハビリテーション概論(1)	リハビリテーション部 高島 英昭	2講
4	5	木	2	歯科疾患	う蝕(むし歯)について	歯学部 藤原 卓	2講
4	5	木	3	地域医療	漢方について	九州大学 貝沼 茂三郎	2講
4	9	月	1	地域医療	地域医療	参議院議員 秋野 公造	3講
4	9	月	2	人の行動と心理	行動科学(1)	先端医育センター 安武 亨	3講
4	9	月	3	地域医療	我が国の医療・介護制度について	平成医療福祉グループ 坂上 祐樹	3講
4	12	木	1	リハビリテーション	リハビリテーション概論(2)	リハビリテーション部 高島 英昭	4講
4	12	木	2	人の行動と心理	行動科学(2)	先端医育センター 安武 亨	4講
4	12	木	3	未定			4講
4	12	木	4	未定			4講
4	12	木	5	未定			4講
4	12	木	6	未定			4講
5	11	金	1	リハビリテーション	リハビリテーション概論(3)	リハビリテーション部 高島 英昭	4講
5	11	金	2	歯科疾患	歯周病について	歯学部 吉村 篤利	4講
5	11	金	4~6	Early Exposure	診療所実習の事前学習	地域包括ケア教育センター	4講
5	18	金	4~6	Early Exposure	診療所(1) /グループワーク	地域包括ケア教育センター	4講
5	25	金	4~6	Early Exposure	グループワーク /診療所(2)	地域包括ケア教育センター	4講
6	1	金	4~6	Early Exposure	実習のフィードバック・まとめ	地域包括ケア教育センター	4講
6	8	金	5	社会と医学・医療	矯正医療について	福岡矯正管区	4講
6	8	金	6	知的財産権	知的財産権(特許権、著作権など)について 知っておこう	西澤国際特許事務所 西澤 利夫	4講
7	23	月	3	医療経済	病院経営について	ハイズ株式会社 斐 英洙	3講
9	28	金	1~2	医歯学共修	医療倫理の基礎と実践 —DNAR・終末期を中心に—	宮崎大学 板井 孝孝郎	4講
9	28	金	3	医歯学共修	地域包括ケアシステムの構築と 医療介護連携の確保について	桜町調剤薬局 永田 修一	4講
10	5	金	1~6	ワークライフバランス	医師にとってのワークライフバランス	メディカルワークライフバランスセンター 伊東 昌子・吉田 穂波	4講・ チュートリアル室
10	19	金	1~2	医歯学共修	終末期医療における倫理と法 —医師の職業倫理に立脚した法の形成に向けて—	富山大学 秋葉 悦子	4講
10	19	金	3	医歯学共修	薬害問題(市販薬の薬害・サリドマイド)	間宮 清	4講
10	19	金	4~5	医歯学共修	医療安全や医療の質管理	歯学部 藤原 卓	4講
10	19	金	5~6	医歯学共修	技術系行政官としての業務 —国民の健康な生活の確保に貢献するために—	厚生労働省医政局 田口 円裕	4講
12	10	月	3	未定			3講

# 病理総論系

責任者	氏名 (教室)	下川 功 (病理学 (旧第一病理学))		
	電話番号	095-819-7051	e-mail	shimo@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・水曜日 17:00~18:00 (電話で所在を確認すること)		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	General Pathology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

病理学は疾病 (病気) の原因や病態を探求する学問である。病理総論では、まず疾病や病的現象について総体的に把握し理解する。人間に病気を起こす原因 (病因) や、それに対する生体の基本的な防御機構や反応を学び、それが組織や臓器にどのような形態的、機能的障害を与えるかを理解する。その上で、関連臓器や人体そのものに与える影響を考えていく。

## 2. 授業到達目標

病理学を正しく理解するためには、解剖学、生理学、生化学などの基礎教科の十分な知識が要求される。加えて、医学英語に習熟するために、英語の教科書を用いる。疾患名や重要な用語は、英語、日本語とも覚える。以下に挙げた教科書を原著のまま理解できる程度の能力と知識を到達目標とする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義項目：講義予定表を参照のこと。

## 4. 教科書・教材・参考書

Robbins Basic Pathology 9th edition Kumar V, et al Saunders 99.95 US\$

## 5. 成績評価の方法・基準等

病理総論筆記試験を行う。出席状況、レポートの提出の有無を含め、総合的に評価する。感染症、事故等やむをえない事情により定期試験を欠席した場合、追試験を行うことはある。原則として再試験は行わない。

## 6. 事前・事後学修の内容

授業項目に関連する解剖学、組織学、生理学等の知識を再確認しておくこと。推薦された教科書だけではなく、他の病理学の教科書を読み比べること。

## 7. 教員名

下川 功、森 亮一、林 洋子、朴 盛俊 (病理学)、原 英二 (非常勤講師 (大阪大学))、

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

病理総論系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	金	4	炎症	慢性炎症、炎症の組織形態	病理1・森	1講
4	6	金	5	炎症	炎症の定義と分類、急性炎症	病理1・森	1講
4	6	金	6	炎症	化学走性因子	病理1・森	1講
4	13	金	4	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理1・下川	1講
4	13	金	5	特別講義	細胞老化シグナルによる発がん制御	大阪大学・原	1講
4	13	金	6	特別講義	細胞老化シグナルによる発がん制御	大阪大学・原	1講
4	16	月	1	組織の修復	再生、創傷治癒	病理1・森	2講
4	16	月	2	組織障害、炎症、修復	実習	病理1・下川、森、林、朴	2実
4	16	月	3	腫瘍総論	腫瘍の概念・定義・分類	病理1・森	2講
4	17	火	1	腫瘍総論	腫瘍の発育・進展、原因	病理1・森	1講
4	17	火	2	腫瘍各論	上皮性、非上皮性腫瘍	病理1・林	1講
4	17	火	4	腫瘍各論	実習	病理1・下川、森、林、朴	2実
4	17	火	5	循環障害	充血・うっ血、出血・凝固	病理1・下川	1講
4	17	火	6	循環障害	血栓・塞栓・梗塞	病理1・下川	1講
4	18	水	1	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	2講
4	18	水	2	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	2講
4	18	水	4	遺伝性疾患	遺伝子、染色体異常	病理1・下川	2講
4	18	水	5	小児の疾患	奇形、発達異常	病理1・下川	2講
4	18	水	6	感染症	感染症の一般病理学	病理1・下川	2講
4	20	金	4	免疫病理	自己免疫疾患、移植の病理	病理1・森	1講
4	20	金	5	環境と疾患	物理的、化学的傷害	病理1・森	1講
4	20	金	6	栄養障害	栄養障害による疾患	病理1・森	1講
4	23	月	1~3	試験			2講

# 薬理系

責任者	氏名 (教室)	有賀 純 (医科薬理学)		
	電話番号	095-819-7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:30		

対象年次・学期	3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical Pharmacology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

## 2. 授業到達目標

生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。  
薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。  
適切に取り扱いのもとに動物実験を行い、結果を評価することができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。一部項目については実習を課す。

## 4. 教科書・教材・参考書

薬がみえる (vol. 1-4) 医療情報科学研究所 メディックメディア 3,600円/vol  
NEW薬理学(第7版) 編者: 田中千賀子、加藤隆一、成宮周 南江堂 8,800円  
イラストレイテッド薬理学 (原書6版)  
編者: R. A. Harvey 監訳: 柳澤輝行、丸山敬 7,800円  
ハーバード大学講義テキスト: 臨床薬理学 (原書3版)  
編者: D. E. Golan、監訳: 渡邊 裕司 丸善 14,580円  
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics(12th Ed)  
編者: L. L. Brunton McGraw-Hill 20,385円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。薬理学実習は、薬理学筆答試験受験のために必修である。実習を行い、実習レポートをすべて提出し、受理された者のみが、薬理学筆答試験を受験する資格を有する。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。  
実習前には、配布される実習テキストを読んで予習しておくこと。

## 7. 教員名

有賀 純、中川 慎介、畑山 実、松永 隼人 (医科薬理学)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

## 薬理系

(3年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	金	1	薬理学総論 1	薬理学への導入・薬力学	薬理・有賀	1 講
4	6	金	2	薬理学総論 2	薬物受容体と細胞内情報伝達系	薬理・有賀	1 講
4	13	金	1	生理活性物質 1	カテコールアミン	薬理・有賀	1 講
4	13	金	2	末梢神経作用薬 1	アドレナリン作用薬	薬理・有賀	1 講
4	20	金	1	末梢神経作用薬 2	抗アドレナリン薬	薬理・有賀	1 講
4	20	金	2	生理活性物質 2	アセチルコリン	薬理・有賀	1 講
4	27	金	1	末梢神経作用薬 3	コリン薬・抗コリン薬	薬理・有賀	1 講
4	27	金	2	生理活性物質 3	ペプチド	薬理・中川	1 講
5	18	金	1	生理活性物質 4	セロトニン・ヒスタミン	薬理・松永	1 講
5	18	金	2	生理活性物質 5	アミノ酸	薬理・畑山	1 講
5	25	金	1	末梢神経作用薬 4	自律神経作用薬・神経筋作用薬	薬理・有賀	3 講
5	25	金	2	末梢神経作用薬 5	局所麻酔薬	薬理・有賀	3 講
6	1	金	1	生理活性物質 6	エイコサノイド・サイトカイン	薬理・有賀	1 講
6	1	金	2	炎症免疫薬理学 1	鎮痛薬・解熱薬	薬理・有賀	1 講
6	15	金	1	炎症免疫薬理学 2	抗炎症薬・副腎皮質ステロイド	薬理・有賀	1 講
6	15	金	2	薬理学総論 3	薬物動態学・薬物相互作用	薬理・有賀	1 講
6	22	金	1	薬理学総論 4	疾患実験動物モデル	薬理・有賀	1 講
6	22	金	2	薬理学総論 5	臨床試験・実験動物の取り扱い	薬理・有賀	1 講
6	28	木	4~6	薬理学実習 1	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
6	29	金	1	感染症治療薬 1	抗菌薬	薬理・有賀	1 講
6	29	金	2	感染症治療薬 2	抗真菌薬・抗ウイルス薬	薬理・有賀	1 講
6	29	金	4~6	薬理学実習 2	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
7	12	木	4~6	薬理学実習 3	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
7	13	金	4~6	薬理学実習 4	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
7	20	金	1	腫瘍薬理学 1	抗腫瘍薬	薬理・畑山	2 講
7	20	金	2	腫瘍薬理学 2	抗腫瘍性分子標的薬	薬理・畑山	2 講
7	30	月	4~6	試験			4 講

# 放射線医学

責任者	氏名 (教室)	上谷 雅孝 (放射線医学 (放射線診断治療学))		
	電話番号	095-819-7353	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00~12:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Radiology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

放射線医学は、放射線診断学、核医学および放射線治療学から成り立っている。本講義では各臓器疾患に共通する内容として、核医学検査と放射線治療、放射線学的手技を応用した治療 (interventional radiology) について学習する。各臓器毎の放射線診断 (画像診断) については、それぞれの臓器別の講義で行われる。

## 2. 授業到達目標

- 1 核医学検査の種類と基本的原理、検査の特徴と適応、診断の要点を理解する。
- 2 放射線治療の種類と基本的原理、特徴と適応、副作用について理解する。
- 3 IVRの種類、手技の実際、適応について理解する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

核医学検査 2コマ、放射線診断 2コマ、IVR 1コマ

## 4. 教科書・教材・参考書

標準放射線医学 (第7版) 西谷 弘 他編 医学書院 10,500円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験にて60%以上の得点率にて合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

画像診断や放射線治療の理解は、各疾患の病態生理・病理学等の理解が基本となる。これまで学習してきた各臓器・領域の主な疾患について復習しておくこと。

## 7. 教員名

工藤 崇 (原研放射)、山崎 拓也、江川 亜希子、末吉 英純 (放射線科)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

## 放射線医学

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	19	木	1	放射線医学	核医学	原研放射、工藤 崇	3 講
4	19	木	2	放射線医学	核医学	原研放射、工藤 崇	3 講
4	19	木	4	放射線医学	放射線治療	放射線科、江川亜希子	3 講
4	19	木	5	放射線医学	放射線治療	放射線科、山崎拓也	3 講
4	19	木	6	放射線医学	IVR	放射線科、末吉英純	3 講
4	24	火	1~2	試験		放射線科、末吉英純	4 講

# 基礎医学TBL

責任者	氏名 (教室)	西田 教行 (感染分子解析学)		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30~18:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Team-based learning		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

実際の症例から問題点を抽出し、学習目標を設定し、自ら学ぶ。すでに学んだ基礎医学全般の知識を使えるものにするために知識の整理を行う。医学的知識を用いて実際の患者の抱える種々の問題を理解し、解決するために医師が取った行動、判断について批判的に学ぶ。必要な情報・知識を収集する能力を高め、実践での知識の応用力を養う。同時に病態の理解を具体例の検討をすることで理解を深め、解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識と用語の復習と再確認を必要に応じて行う。

## 2. 授業到達目標

実際の症例から問題点を抽出できる。学習目標を設定し、自ら学ぶことができる。解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識の応用できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

実際の患者のシナリオを入院まで、入院時、入院後と時系列にて提示し、それぞれを読み解く作業をグループワークとして行う。学習課題については自己学習し、グループ内で情報を共有し、議論を深める。授業で自らの考えを発表し、他のグループと意見交換を行う。議論に積極的に参加し、チームワーク医療における個人の役割を理解する。

## 4. 教科書・教材・参考書

ハワイ大学式PBLマニュアル 黒川 清 監修 羊土社 3,999円

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、セルフポートフォリオ、課題レポートの総合判断で評価する。レポートは基準に満たない場合、再提出を求めることがある。

## 6. 教員名

西田 教行 (感染分子解析学)、永山 雄二 (原研分子)、佐藤 克也 (保健学科)、田中 邦彦 (先端医育センター)、池田 裕明 (腫瘍医学)、田口 謙 (感染分子解析学)

## 7. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	F

基礎医学TBL

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	月	4	ガイダンス	ガイダンス	西田教行 (感染分子) 池田裕明 (腫瘍医学) 永山雄二 (原研分子) 佐藤克也 (保健学科) 田中邦彦 (先端医育センター) 田口謙 (感染分子)	専斎・ボードイン
4	2	月	5	TBL	症例1提示 (シナリオ1)	同上	専斎・ボードイン
4	2	月	6	TBL	症例1提示 (シナリオ2)	同上	専斎・ボードイン
4	9	月	4	TBL	発表・討論	同上	専斎・ボードイン
4	9	月	5	TBL	症例1提示 (シナリオ3)	同上	専斎・ボードイン
4	9	月	6	TBL	症例1提示 (シナリオ4)	同上	専斎・ボードイン
4	16	月	4	TBL	発表・討論	同上	専斎・ボードイン
4	16	月	5	TBL	症例1提示 (シナリオ5)	同上	専斎・ボードイン
4	16	月	6	TBL	症例1提示 (シナリオ6)	同上	専斎・ボードイン
4	23	月	4	TBL	発表・討論	同上	専斎・ボードイン
4	23	月	5	TBL	発表・討論	同上	専斎・ボードイン
4	23	月	6	TBL	発表・討論	同上	専斎・ボードイン
5	30	水	1	TBL	症例2提示 (シナリオ1)	同上	1講、実1・2、専斎
5	30	水	2	TBL	症例2提示 (シナリオ1)	同上	1講、実1・2、専斎
5	30	水	3	TBL	症例2提示 (シナリオ1)	同上	1講、実1・2、専斎
6	7	木	1	TBL	症例2提示 (シナリオ2)	同上	1講、実1・2、専斎
6	7	木	2	TBL	症例2提示 (シナリオ2)	同上	1講、実1・2、専斎
6	7	木	3	TBL	症例2提示 (シナリオ2)	同上	1講、実1・2、専斎
6	11	月	1	TBL	症例2提示 (シナリオ3)	同上	ボンペ、実1・2、専斎
6	11	月	2	TBL	症例2提示 (シナリオ3)	同上	ボンペ、実1・2、専斎
6	11	月	3	TBL	症例2提示 (シナリオ3)	同上	ボンペ、実1・2、専斎
6	20	水	1	TBL	発表・討論	同上	ボードインホール
6	20	水	2	TBL	発表・討論	同上	ボードインホール
6	20	水	3	TBL	発表・討論	同上	ボードインホール

# 循環器系

責任者	氏名 (教室)	前村 浩二 (循環器内科学)		
	電話番号	095-819-7288	e-mail	maemura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	4.5
科目英語名	Cardiovascular Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

本講は循環器疾患全般の概説を、主に診断・検査・治療といった臨床的側面から行う。各学生は自ら主体的に学習するアクティブラーニングの精神をもって授業に臨む必要があり、本講は学生が行うアクティブラーニングでの不足を補うための授業と位置づけられる。放射線、病理、薬理における循環器関連分野の授業も並行して行われるため、より多面的に多角的に循環器疾患の理解が進むことを期待する。

## 2. 授業到達目標

循環器疾患の病因と病態を理解した上で、診察法、検査法、治療法について系統的に効率よく理解することを目標とする。アクティブラーニングでの予習が必要である。単に知識だけを学習するにとどまらず、循環器疾患特有の即座に対応せねばならない判断力、患者さんに対する倫理観を踏まえての対話・表現力などを習得する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義内容は心臓血管系の発生、形態および機能、循環器検査法、循環器診断学、心不全、先天性心疾患、心臓弁膜症、心筋症、心内膜疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、循環器感染症、虚血性心疾患、肺循環障害、動脈硬化、大動脈疾患、中・小動脈疾患、静脈疾患、不整脈、高血圧、低血圧とする。

近年の循環器疾患の進歩は目覚ましく、従来のように心行動態を中心とした理解のみでは不十分である。講義内容はその領域の専門家に重要事項がもれないようにお願いし、しかも簡潔に要領よく講義して疾患および病態の本質が正確に理解できるように努める。また、講義内容があまり専門的にならず基本的事項を十分に理解できるようにすることを原則とする。

## 4. 教科書・教材・参考書

内科学 (第11版) 矢崎 義雄 監修 朝倉書店 24,800円  
 新臨床内科学 (第9版) 高久 史磨 他監修 医学書院 22,000円  
 循環器内科学 水野 杏一 他編 丸善出版 4,900円  
 HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE, 19th Edition  
 Longo, et. al McGraw-Hill 39,840円  
 Braunwald's Heart Disease: Textbook of Cardiovascular Medicine, 11th Edition  
 Mann et. al 南江堂 40,813円  
 標準小児科学 第8版 内山 聖 監修 医学書院 8,800円  
 週周期循環異常 中澤 誠 編 メジカルビュー社 5,500円  
 新目で見える循環器病シリーズ13-先天性心疾患- 中澤 誠 編 メジカルビュー社 9,500円

## 5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に試験を施行して評価する。試験100%であるが、国家試験形式では評価できない修得度は記述式問題で評価する。本論 (循環器内科、循環生理、小児科、心臓血管外科)、放射線、病理、薬理の各分野を総合して評価し、60%以上を合格とする。ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

循環器学教科書および診断学教科書を用いて講義の前に予め予習しておくこと。

## 7. 教員名

前村 浩二、河野 浩章、小出 優史、池田 聡司、深江 学芸、恒任 章、古賀 聖士、石松 卓、土居 寿志、吉牟田 剛、米倉 剛、江口 正倫、荒川 修司（循環器内科）、蒔田 直昌（分子生理学）、蓮把 朋之（小児科）、江石 清行（心臓血管外科）、松丸 一朗（心臓血管外科）、末吉 英純（放射線科）、工藤 崇（アイソトープ診断治療）、中川 慎介（医科薬理学）、下川 功、森 亮一、林 洋子、朴 盛浚（病理学）、福岡 順也、二口 充、黒田 揮志夫（病理診断科）、瀬戸 信二、山近 史郎（井上病院）、芦澤 直人（長崎原爆病院）、本村 秀樹、濱脇 正好（長崎医療センター）、坂本 一郎（長崎みなとメディカルセンター）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

循環器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	24	火	5	循環器総論	総論・症候学	循環器内科・前村	4講
4	24	火	6	検査	心エコー図	循環器内科・恒任	4講
4	25	水	1	循環器総論	心臓血管の構造と機能(1)	分子生理・蒔田	4講
4	25	水	2	循環器総論	心臓血管の構造と機能(2)	分子生理・蒔田	4講
4	25	水	4	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(1)	1病・下川	1講
4	25	水	5	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(2)	1病・下川	1講
4	25	水	6	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(3)	1病・下川、森、林、朴	CBT室
4	26	木	1	心電図	心電図の基本(1)	循環器内科・深江	4講
4	26	木	2	心電図	心電図の基本(2)	循環器内科・深江	4講
4	26	木	3	検査	心臓カテーテル検査	循環器内科・江口	4講
4	26	木	4	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(4)	1病・下川	1講
4	26	木	5	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(5)	1病・下川	1講
4	26	木	6	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(6)	1病・下川、森、林、朴	CBT室
5	1	火	1	心不全	急性心不全	循環器内科・小出	3講
5	1	火	2	心不全	慢性心不全	循環器内科・小出	3講
5	1	火	4	循環器画像診断	大血管、末梢血管の画像診断	放射線科・末吉	2講
5	1	火	5	(薬理)循環薬理1	降圧薬(1)	薬理・中川	2講
5	1	火	6	(薬理)循環薬理2	降圧薬(2)	薬理・中川	2講
5	2	水	1	不整脈	上室性不整脈、WPW症候群	循環器内科・土居	4講
5	2	水	2	不整脈	房室ブロック、洞不全症候群	循環器内科・土居	4講
5	2	水	4	(病理)循環病理	肺における血管・循環不全・血管性病変(1)	2病・福岡	CBT室
5	2	水	5	(病理)循環病理	肺における血管・循環不全・血管性病変(2)	2病・福岡	CBT室
5	2	水	6	(病理)循環病理	肺における血管・循環不全・血管性病変(3)	2病・福岡	CBT室
5	7	月	4	不整脈	心室性不整脈、心臓突然死	循環器内科・石松	4講
5	7	月	5	先天性心疾患	非チアノーゼ群	非常勤(小)・本村	4講
5	7	月	6	先天性心疾患	チアノーゼ群	小児科・蓮把	4講
5	8	火	1	先天性心疾患	先天性心疾患の外科	非常勤(心)・濱脇	4講
5	8	火	2	先天性心疾患	成人にみられる先天性心疾患	非常勤(循)・山近	4講
5	8	火	4	循環器画像診断	循環器系の核医学検査	アイソトープ診断治療・工藤	2講
5	8	火	5	(薬理)循環薬理3	虚血性心疾患治療薬	薬理・中川	2講
5	8	火	6	(薬理)循環薬理4	心不全治療薬	薬理・中川	2講
5	9	水	1	肺循環	肺血栓塞栓症、肺高血圧症、肺性心	循環器内科・池田	4講
5	9	水	2	不整脈	不整脈治療、デバイス	循環器内科・石松	4講
5	9	水	4	(病理)循環病理	循環不全とがん(1)	2病・二口	CBT室
5	9	水	5	(病理)循環病理	循環不全とがん(2)	2病・二口	CBT室
5	9	水	6	(病理)循環病理	脈管・血管炎(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	10	木	4	(放射線)血管系のIVR	大動脈や末梢血管の血管内治療について	非常勤(放)・坂本	3講
5	10	木	5	(病理)循環病理	脈管・硬化/解離/瘤(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	10	木	6	(病理)循環病理	脈管・奇形/腫瘍(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	14	月	4	心筋疾患	心筋症・心筋炎(1)	非常勤(循)・芦澤	4講
5	14	月	5	心筋疾患	心筋症・心筋炎(2)	非常勤(循)・芦澤	4講
5	14	月	6	心筋疾患	心筋症・心筋炎(3)	非常勤(循)・芦澤	4講
5	15	火	1	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の内科	循環器内科・池田	4講
5	15	火	2	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の外科	心外科・松丸	4講

## 循環器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	15	火	4	心電図	心電図判読の実際	循環器内科・荒川	2講
5	15	火	5	(薬理) 循環薬理 5	利尿薬	薬理・中川	2講
5	15	火	6	(薬理) 循環薬理 6	抗不整脈薬	薬理・中川	2講
5	16	水	1	心電図	心電図演習	循環器内科・荒川	4講
5	16	水	2	心膜・心内膜・腫瘍	心膜炎、感染性心内膜炎、心臓腫瘍	循環器内科・吉牟田	4講
5	21	月	4	弁膜疾患	心エコー・手術適応	非常勤(循)・山近	4講
5	21	月	5	弁膜疾患	弁膜症(1)	非常勤(循)・瀬戸	4講
5	21	月	6	弁膜疾患	弁膜症(2)	非常勤(循)・瀬戸	4講
5	22	火	1	弁膜疾患	弁膜症の外科(1)	心外科・江石	4講
5	22	火	2	弁膜疾患	弁膜症の外科(2)	心外科・江石	4講
5	23	水	1	虚血性心疾患	狭心症	循環器内科・米倉	4講
5	23	水	2	虚血性心疾患	心筋梗塞	循環器内科・米倉	4講
5	28	月	4	虚血性心疾患	虚血性心疾患の外科	心外科・江石	4講
5	28	月	5	虚血性心疾患	狭心症・心筋梗塞の治療	循環器内科・古賀	4講
5	28	月	6	小児心疾患	リウマチ熱、川崎病	小児科・蓮把	4講
5	29	火	1	血圧異常	本態性高血圧症	循環器内科・河野	3講
5	29	火	2	血圧異常	二次性高血圧症、低血圧	循環器内科・河野	3講
5	31	水	1	TBL	循環器系TBL	循環器内科・米倉	3講
5	31	水	2	TBL	循環器系TBL	循環器内科・米倉	3講
6	4	月	4	循環器画像診断	心臓の画像診断	非常勤(放)・坂本	4講
6	4	月	5	TBL	循環器系TBL	循環器内科・石松	4講
6	4	月	6	TBL	循環器系TBL	循環器内科・石松	4講
6	11	月	4~6	試験			4講

# 血液・リンパ系

責任者	氏名 (教室)	宮崎 泰司 (原研内科 (血液内科学))		
	電話番号	095-819-7109	e-mail	y-miyaza@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 17:00~17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Hematopoietic and lymphoid system		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

骨髄とリンパ節の構造、そこで産生される造血細胞（赤血球、白血球[顆粒球・リンパ球]、血小板）の形態、機能、産生機序、および止血機構を理解する。これらの基本的理解に立って、各血液疾患、リンパ系疾患、止血・線溶機構異常による疾患の病因と病態、臨床事項について理解する。臨床実習において実際に血液疾患を抱えた患者の病態を理解し、正確な診断するために必須の知識である。

## 2. 授業到達目標

正常血球の認識に基づき血液細胞の産生や機能、凝固止血機構を説明できる。主要血液疾患の病因と病態、臨床事項（症状、所見、診断と治療）を説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

血液の構成成分、骨髄と血球産生機序を学習し、血球形態理解のために、顕微鏡実習を行う。次に赤血球の異常、造血幹細胞異常、顆粒球の異常、リンパ球および免疫細胞の異常、止血機構と出血性素因、小児の血液疾患、血液疾患の治療の各項目について講義を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

LACSにあらかじめ資料を提示する。各担当教官より必要に応じて資料が配布される。  
講義録 血液・造血器疾患学 小澤敬也 他 メジカルビュー社 5,500円  
カラーテキスト血液病学 (参考書) 木崎 昌弘 他 中外医学社 26,000円  
三輪 血液病学 (参考書) 浅野茂隆 他 文光堂 45,000円  
血液専門医テキスト (参考書) 日本血液学会編集 南江堂 15,000円  
臨床に直結する血栓止血学 朝倉 英策 他 中外医学社 7,600円

## 5. 成績評価の方法・基準等

毎回、学生証によるカード出席の確認を行う。実習ではレポートを提出する。出席率2/3以上の者は定期試験の受験資格を有する。内科・小児血液についての定期試験と実習レポートをあわせて評価する。合計60点以上を合格とする。

また、本論、病理、薬理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSの資料にて予習することが望ましい。

## 7. 教員名

宮崎 泰司、波多 智子、今泉 芳孝、澤山 靖、安東 恒史、佐藤 信也、  
糸永 英弘 (原研内科)、  
岡田 雅彦 (小児科)、新野 大介 (病理学)、中川 慎介 (薬理)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

# 血液・リンパ系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	7	月	1	血液形態実習	正常末梢血液細胞	原研内科、宮崎泰司	実習室第2
5	7	月	2	血液形態実習	正常骨髓細胞	原研内科、宮崎 泰司	実習室第2
5	10	木	1	血液学総論	造血総論	原研内科、宮崎 泰司	4講
5	10	木	2	白血球疾患（1）	白血球系疾患	原研内科、波多 智子	4講
5	10	木	3	白血球疾患（2）	慢性骨髄性白血病、骨髄増殖腫瘍	原研内科、糸永 英弘	4講
5	14	月	1	白血球疾患（3）	急性白血病	原研内科、波多 智子	4講
5	14	月	2	白血球疾患（4）	骨髄異形成症候群	原研内科、波多 智子	4講
5	16	水	4	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	16	水	5	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	16	水	6	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	17	木	1	リンパ系疾患（1）	リンパ系総論	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	17	木	2	リンパ系疾患（2）	反応性リンパ系疾患・脾疾患	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	17	木	4	リンパ系疾患（3）	悪性リンパ腫	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	17	月	5	出血性・血栓性疾患（1）	止血機構	原研内科、佐藤 信也	4講
5	17	月	6	出血性・血栓性疾患（2）	血小板異常・凝固異常	原研内科、佐藤 信也	4講
5	21	月	1	赤血球疾患（1）	赤血球総論・貧血総論	原研内科、安東 恒史	4講
5	21	月	2	赤血球疾患（2）	鉄欠乏性貧血・二次性貧血	原研内科、安東 恒史	4講
5	22	火	4	出血性・血栓性疾患（3）	DIC・血栓性疾患	原研内科、佐藤 信也	4講
5	22	火	5	出血性・血栓性疾患（4）	抗凝固・抗血小板薬	薬理、中川 慎介	4講
5	23	水	4	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	23	水	5	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	23	水	6	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	24	木	1	リンパ系疾患（4）	慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	24	木	2	リンパ系疾患（5）	血漿蛋白質の異常	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	24	木	4	赤血球疾患（3）	巨赤芽球性貧血・溶血性貧血	原研内科、安東 恒史	4講
5	24	木	5	赤血球疾患（4）	再生不良性貧血・PNH	原研内科、安東 恒史	4講
5	24	木	6	小児血液（1）	小児貧血（溶血性貧血、Fanconi貧血など）	小児科、岡田 雅彦	4講
5	28	月	1	小児血液（2）	好中球機能と先天異常、出血性素因	小児科、岡田 雅彦	4講
5	28	月	2	小児血液（3）	悪性新生物（小児白血病など）	小児科、岡田 雅彦	4講
5	31	木	4~5	TBL	血球減少症	原研内科、波多 智子	4講
5	31	木	6	血液疾患の治療	造血幹細胞移植	原研内科、澤山 靖	4講
6	4	月	1~2	TBL	リンパ系疾患	原研内科、今泉 芳孝	4講
6	7	木	4~6	試験			4講

# 呼吸器系

責任者	氏名 (教室)	迎 寛 (内科学第二 (呼吸器内科) )		
	電話番号	095-819-7271	e-mail	hmukae@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 9:00~17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Respiratory Diseases		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

正常呼吸器系の解剖と生理の知識をもとに、各呼吸器系疾患の病態、診断、治療方法を理解する。

## 2. 授業到達目標

- (1) 正常呼吸器系の構造と機能を説明できる。
- (2) 各呼吸器疾患の病態について説明できる。
- (3) 各呼吸器疾患の診断について説明できる。
- (4) 各呼吸器疾患の治療について説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

正常呼吸器系の構造・機能を基本として各疾患の病態について学ぶ。さらに、内科、外科、放射線学的立場より疾患の症候、診断方法を理解し、疾患に応じた内科および外科的治療について学ぶ。

## 4. 教科書・教材・参考書

ガイドラインをふまえた成人市中肺炎診療の実際 河野 茂 編 医学書院 4,830円  
レジデントのための呼吸器疾患診療マニュアル (第2版)

河野 茂、早田 宏 編 医学書院 4,700円

咳漱に関するガイドライン第2版 咳漱に関するガイドライン第2版作成委員会

(委員長、河野 茂) 日本呼吸器学会 3,000円

臨床腫瘍学 日本臨床腫瘍学会 編 癌と化学療法社 25,000円

呼吸器外科テキスト 日本呼吸器外科学会 編 南江堂 13,000円

新版：胸部単純X線診断 林 邦昭、中田 肇 編 秀潤社 4,800円

胸部単純X線アトラス vol.1肺 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,500円

胸部単純X線アトラス vol.2縦隔、胸膜他 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,300円

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査を90%、アクティブラーニングは全体の10%として評価するが、正当な理由なく全授業時間の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。定期考査は授業時間に応じて各分野 (内科・外科・放射線科・病理) から出題する。合計60点以上を合格とする。但し、合計60点以上であっても、各分野の得点はその分野で5割程度に満たない場合は不合格となる。

## 6. 事前・事後学修の内容

すでに履修した正常呼吸器系の解剖と生理の項目を復習しておく。

## 7. 教員名

迎 寛、福島 千鶴、尾長谷 靖、坂本 憲穂、宮崎 泰可、石本 裕士、今村 圭文、山本 和子、西條 知見、山口 博之、中島 章太 (呼吸器内科)、永安 武、松本 桂太郎、宮崎 拓郎、土谷 智史、畑地 豪 (腫瘍外科)、泉川 公一 (臨床感染症学)、芦澤 和人 (臨床腫瘍学)、(腫瘍外科)、早田 宏 (佐世保市総合医療センター)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	A

# 呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	6	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・三浦	1 講
6	6	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・三浦	1 講
6	13	水	4	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島	1 講
6	13	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島	1 講
6	13	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島	1 講
6	14	木	1	呼吸器画像診断	画像診断総論(1)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	14	木	2	呼吸器画像診断	画像診断総論(2)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	14	木	3	(放射線)	画像診断総論(3)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	18	月	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(1)	呼吸器内科・坂本 憲徳	4 講
6	18	月	2	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(2)	呼吸器内科・中島 章太	4 講
6	19	火	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	19	火	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	20	水	4	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	20	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	20	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	21	木	1	呼吸器外科	肺の外科(1)	腫瘍外科・永安 武	4 講
6	21	木	2	呼吸器外科	肺の外科(2)	腫瘍外科・永安 武	4 講
6	21	木	3	呼吸器感染症	呼吸器感染症総論	臨床感染症学・泉川 公一	4 講
6	22	金	5	呼吸器腫瘍	肺癌、良性腫瘍、放射線肺臓炎	呼吸器内科・山口 博之	4 講
6	22	金	6	呼吸器腫瘍	胸膜と胸壁腫瘍、縦隔腫瘍	呼吸器内科・山口 博之	4 講
6	25	月	1	呼吸器画像診断	画像診断各論(1)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	25	月	2	呼吸器画像診断	画像診断各論(2)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	26	火	5	(薬理) 呼吸器系に作用する薬	喘息治療薬、COPD治療薬、鎮咳薬、去痰薬	医科薬理 松永隼人	1 講
6	26	火	6	(放射線)	画像診断各論(3)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	1 講
6	27	水	4	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・びまん性肺疾患	臨床病理学・福岡	CBT室
6	27	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・びまん性肺疾患	臨床病理学・福岡	CBT室
6	27	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・間質性肺炎	臨床病理学・福岡	CBT室
6	28	木	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(3)	呼吸器内科・石本 裕士	4 講
6	28	木	2	呼吸器外科	胸壁・胸膜・横隔膜の外科	腫瘍外科・永安 武	4 講
6	28	木	3	呼吸器外科	外科診断技術・周術期管理・手術様式	腫瘍外科・松本 桂太郎	4 講
7	2	月	1	呼吸器外科	胸部外傷	腫瘍外科・畑地 豪	4 講
7	2	月	2	呼吸器感染症	院内肺炎、医療・介護関連肺炎	呼吸器内科・今村 圭文	4 講
7	5	木	1	呼吸器病学総論	構造と疾患	呼吸器内科・迎 寛	3 講
7	5	木	2	びまん性肺疾患	特発性間質性肺炎	呼吸器内科・迎 寛	3 講
7	5	木	3	呼吸器画像診断	肺の外科(3)	腫瘍外科・宮崎 拓郎	3 講

# 呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	6	金	1	呼吸器画像診断	画像診断各論 (4)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
7	6	金	2	呼吸器画像診断	画像診断各論 (5)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
7	9	月	1	呼吸器感染症	気道感染症	呼吸器内科・山本 和子	3 講
7	9	月	2	呼吸器感染症	結核、非結核性抗酸菌症	呼吸器内科・西條 知見	3 講
7	10	火	5	呼吸器腫瘍	分子標的薬総論	呼吸器内科・非常勤 早田 宏	4 講
7	10	火	6	閉塞性・職業性肺疾患	COPD、塵肺など	呼吸器内科・福島 千鶴	4 講
7	12	木	1	呼吸器感染症	市中肺炎、肺化膿症	呼吸器内科・迎 寛	4 講
7	12	木	2	呼吸器感染症	日和見感染症	臨床感染症学・宮崎 泰可	4 講
7	12	木	3	呼吸生理	呼吸性酸塩基平衡異常と肺による代償機能	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講
7	13	金	1	呼吸器外科	縦隔の外科 (1)	腫瘍外科・土谷 智史	4 講
7	13	金	2	呼吸器外科	縦隔の外科 (2)	腫瘍外科・土谷 智史	4 講
7	19	木	1	アレルギー性肺疾患	気管支喘息	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講
7	19	木	2	内科予備	内科予備	内科予備	4 講
7	19	木	3	外科予備	外科予備	外科予備	4 講
7	23	月	1	TBL・呼吸器内科総括	好酸球性肺疾患/まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講
7	23	月	2	TBL・呼吸器内科総括	まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講
7	26	木	4~6	試験			4 講

# 腎泌尿器系

責任者	氏名 (教室)	酒井 英樹 (腎泌尿器病態学 (泌尿器科学))		
	電話番号	095-819-7340	e-mail	hsakai@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 16:00~17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Nephro-urology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象にした腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解する。

## 2. 授業到達目標

- 1) 腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる—特に腎の生理と排尿の生理を理解することが重要である。
- 2) 腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。
- 3) 腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。
- 4) 腎・泌尿器科の病理検査を理解し、治療法選択や予後との関連を説明できる。
- 5) 各疾患の治療法を概説できる。また、小児と成人の差違、内科的あるいは外科的治療の差違について説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

体液の恒常性維持における腎の機能について学び、腎・泌尿器系疾患の病態、症候、検査、診断および治療について系統的に講義する。その検査法には、放射線学的、病理学的方法も含まれる。この系で学ぶ主要な疾患は、腎不全、糸球体疾患、ネフローゼ症候群、尿細管間質病変、高血圧・腎血管病変、全身性疾患に合併した腎病変、小児の腎疾患、外科的処置が必要な腎・尿路系疾患 (腫瘍、結石、外傷)、排尿障害、尿路感染症である。

## 4. 教科書・教材・参考書

エッセンシャル腎臓内科学 富野 康日己 編 医歯薬出版 5,000円  
 ダイナミックメディスン6巻 下条 文武・斉藤 康 西村書店 3,800円  
 講義録 泌尿器科学 荒井 陽一 小川 修 編 メジカルビュー 6,000円  
 Smith's General Urology Emil Tanagho Lange 8,000円  
 病気が見える腎・泌尿器 医療情報科学研究所 3,564円  
 Renal disease: classification and atlas of glomerular disease.  
 Churg/Bernstein/ Glasscock IGAKU/SHOIN 23,900円  
 小児腎臓病学 改訂第2版 日本小児腎臓病学会編 診断と治療社 9,720円  
 図解腎臓内科学テキスト 富野 康日己 編 中外医学社 7,600円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験を行う。各分野の配点は、小児科10点、腎臓内科40点、泌尿器科40点とし、放射線・病理10点とし、合計60点以上を合格とする。  
 また、本論、放射線、病理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

腎・尿路系の解剖、生理、病理学について復習しておくこと。

## 7. 教員名

酒井 英樹、宮田 康好、大庭 康司郎、木原 敏晴、松尾 朋博（泌尿器科）、  
望月 保志（血液浄化）、  
西野 友哉、小畑 陽子、山下 裕、北村 峰昭、太田 祐樹、牟田 久美子（腎臓内科）、  
白川 利彦（小児科）、古里 文吾（病理診断科）、西田 暁史（放射線科）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

## 腎泌尿器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	5	火	1	泌尿器科	腎・泌尿器系 イントロダクション	泌尿器科、酒井	3講
6	5	火	2	腎臓内科	臨床総論；腎臓の構造・機能、腎疾患の主要症候	腎臓内科・西野	3講
6	12	火	1	腎臓内科	腎疾患の検査（検尿異常、腎機能検査）	腎臓内科・小畑	3講
6	12	火	2	腎臓内科	糸球体疾患①	腎臓内科・小畑	3講
6	12	火	4	(放射線)	泌尿器系の画像診断	放射線科・西田	3講
6	12	火	5	腎臓内科	糸球体疾患②	腎臓内科・西野	3講
6	12	火	6	腎臓内科	糸球体疾患③	腎臓内科・山下	3講
6	14	木	4	腎臓内科	尿細管間質性疾患	腎臓内科・小畑	3講
6	14	木	5	腎臓内科	電解質異常(水、Na異常)	腎臓内科・小畑	3講
6	14	木	6	腎臓内科	電解質異常(酸塩基異常)	腎臓内科・小畑	3講
6	19	火	1	腎臓内科	二次性腎障害（代謝性疾患、薬剤、妊娠と腎など）	腎臓内科・牟田	3講
6	19	火	2	腎臓内科	総括①	腎臓内科・牟田	3講
6	21	木	4	腎臓内科	慢性腎不全、CKD、CKD-MBD(Ca、P代謝)、透析と血液浄化療法	腎臓内科・北村	3講
6	21	木	5	腎臓内科	急性腎不全、AKI	腎臓内科・北村	3講
6	21	木	6	腎臓内科	総括②	腎臓内科・太田	3講
6	26	火	1	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科、白川	3講
6	26	火	2	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科、白川	3講
7	3	火	1	泌尿器科	泌尿器科学総論：解剖・生理	泌尿器科、宮田	3講
7	3	火	2	泌尿器科	泌尿器科学総論：症候・検査法	泌尿器科、宮田	3講
7	3	火	5	泌尿器科	尿路癌（疫学、診断、課題提示）	泌尿器科、宮田	3講
7	3	火	6	泌尿器科	尿路癌（課題討論、治療）	泌尿器科、宮田	3講
7	4	水	4	泌尿器科	尿路結石	久留米大、井川	2講
7	4	水	5	(病理) 泌尿器病理	泌尿器・前立腺1（実習・講義）	病理診断科、古里	CBT室
7	4	水	6	(病理) 泌尿器病理	泌尿器・前立腺2（講義）	病理診断科、古里	CBT室
7	5	木	4	泌尿器科	腎腫瘍	血液浄化・望月	3講
7	5	木	5	泌尿器科	腎血管性病変	血液浄化・望月	3講
7	5	木	6	泌尿器科	排尿機能障害	泌尿器科・松尾	3講
7	10	火	1	泌尿器科	性機能障害	泌尿器科、宮田	3講
7	10	火	2	泌尿器科	小児泌尿器疾患	泌尿器科、木原	3講
7	11	水	4	(病理) 腎泌尿器病理	泌尿器・腎（講義・実習）	病理診断科、古里	CBT室
7	11	水	5	(病理) 腎泌尿器病理	泌尿器・膀胱・尿管（講義・実習）	病理診断科、古里	CBT室
7	11	水	6	(病理) 腎泌尿器病理	細胞診/尿（講義・実習）	病理診断科、二反田	CBT室
7	17	火	1	泌尿器科	尿路性器外傷	泌尿器科、宮田	3講
7	17	火	2	泌尿器科	炎症性疾患	泌尿器科、酒井	3講
7	19	木	4	腎臓内科TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田	3講
7	19	木	5	腎臓内科TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田	3講
7	19	木	6	腎臓内科TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田	3講
7	20	金	4	泌尿器科TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭	3講
7	20	金	5	泌尿器科TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭	3講
7	20	金	6	泌尿器科TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭	3講
7	24	火	4~6	試験			4講

# 感染症系

責任者	氏名 (教室)	泉川 公一 (臨床感染症学)		
	電話番号	095-819-7731	e-mail	koizumik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00~18:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Infectious Diseases		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

感染症は、あらゆる臓器に発症しうる疾病であり、原因微生物も多岐にわたる。感染症が疑われる患者にいかにかアプローチし、的確な診断、適切な治療、さらには感染予防へと結びつけていくかを、多角的な視点から学ぶ。病原体の多様性や感染症の臨床像に対し応用力をつけ、感染予防の方法についても学ぶ。

## 2. 授業到達目標

到達目標：臨床医学の中における感染症の特徴を理解して、説明することができる。感染症の患者へのアプローチや診断、治療、予防を総合的にとらえて説明することができる。また、熱帯感染症についてその背景、特徴を説明することができる。院内感染について、その対策や制御および重要な原因微生物について説明することができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

内科学の一部を構成する「感染症学」に相当する内容を学習する。主に一般細菌、ウイルス、真菌、寄生虫、抗酸菌感染症の診断と治療を学習する。また、院内感染の予防や感染対策も重要な問題であるため、その対策の実際を学び、実習も行う。さらにグローバル化を背景に日本でも見られるようになったマラリア、デング熱、下痢症、新興感染症についても学ぶ。おのおのの病原体の基礎知識、宿主-病原体関係について理解し感染症の病態生理を根本的に理解する。

## 4. 教科書・教材・参考書

以下のものを参考書として推薦する。

- ・Mandel GL, Bennett JE, Dolin R. 8th ed 「Principles and Practice of Infectious Diseases」
- ・Mayhall CG. 4th ed 「Hospital Epidemiology and Infection Control」
- ・Richard A. Harvey 山口恵三/松本哲哉 監訳 「イラストレイテッド微生物学 第2版」丸善株式会社
- ・河野 茂 編 「感染症のとらえ方」 文光堂
- ・柳原 克紀 編 「感染症の診断って、こんなちょっとしたことで差がついちゃうんですね。」 南江堂

## 5. 成績評価の方法・基準等

期末試験100%。授業内容を中心に出题する試験により行う。60%未満の得点は不合格とする。

本論、病理の各分野を総合し、60%以上を合格とする。

ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

すでに2年次に履修した感染系の各項目を復習しておくこと。

## 7. 教員名

泉川 公一、宮崎 泰可、高園 貴弘、田代 将人（臨床感染症学）、  
山本 和子、河野 圭（感染制御教育センター）、  
今村 圭文、西條 知見（呼吸器内科）、  
有吉 紅也、森本 浩之輔（熱研内科）、  
森田 公一、濱野 真二郎（熱帯医学研究所）、  
大沢 一貴（比較動物医学）、森内 浩幸（小児科）、柳原 克紀（病態解析・診断学）、  
山本 善裕（富山大学）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	A

感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	5	火	4	世界と日本における感染症の現状	致死率の高い流行性感症の現状、耐性菌の拡大とその対策など、感染症を取り巻く現状と課題について、感染症系でマスターすべきことを確認する。	臨床感染症学・泉川	3講
6	5	火	5	感染症診断の基本的アプローチ	感染症の古典的な鏡顕や培養、抗血清による診断法から、近年開発された尿中抗原検査や遺伝子診断まで適応や意義を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
6	5	火	6	現代医療における易感染性宿主と日和見感染症	抗がん剤治療や臓器移植後の免疫不全と併発する感染症の病態生理を講義する。	臨床感染症学・泉川	3講
6	6	水	1	感染症の予防(1) : 能動免疫	ワクチン接種による感染症の予防法についての総論と、代表的なワクチンの各論について学ぶ。	小児科・森内	3講
6	6	水	2	感染症の予防(2) : 受動免疫, その他	免疫グロブリン療法による受動免疫やその他の手段による感染症の予防法について学ぶ。	小児科・森内	3講
6	6	水	4	(病理)	感染症 (講義・実習)	病理診断科・新野	CBT室
6	13	水	1	ウイルス感染症の診断	ウイルス感染症の診断法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの診断法の各論を概説する。	小児科・森内	3講
6	13	水	2	ウイルス感染症の治療	ウイルス感染症の治療法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの治療法の各論を概説する。	小児科・森内	3講
6	15	金	5	不明熱とsepsis	不明熱の3大原因の一つが感染症である。不明熱をみた場合に鑑別すべき感染症と診断法について学ぶ。	臨床感染症学・高園	3講
6	15	金	6	感染症の救急診療	感染症領域における救急診療のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・河野圭	3講
6	18	月	4	抗菌薬の選択法と適正使用	最新の一般抗菌薬の種類、各系統のスペクトルや副作用の特徴、典型的な適応症について学ぶ。	病態解析・診断学・柳原	3講
6	18	月	5	感染症の画像診断	感染症領域における画像診断のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・山本和子	3講
6	18	月	6	T B L 準備		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	25	月	4	T B L		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	25	月	5	T B L		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	25	月	6	T B L		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	27	水	1	難治性感染症	問題となる難治性感染症の原因として耐性菌やバイオフィーム感染症などがあるが、具体的な疾患について学ぶ。	第二内科・西條	3講
6	27	水	2	深在性真菌症の診断と治療	深在性真菌症の主要な病原菌、重要な基礎疾患、エビデンスに基づく抗真菌薬療法について学ぶ。	臨床感染症学・宮崎	3講
7	2	月	4	性行為感染と母子感染	ヒトの再生に関わる性行為、妊娠、分娩、授乳の営みを介して起こる感染症の総論と、代表的疾患の各論を学ぶ。	小児科・森内	3講
7	2	月	5	グローバルヘルスと感染症	熱帯感染症を概説するとともに、国境を越えた課題として感染症を地球規模でとらえる視野を持たせる。	熱研内科・有吉	3講
7	2	月	6	熱帯でよくみる細菌感染症の診断と治療	主に熱帯地でみられる、細菌性感染症について、病態、診断、治療について解説する。	熱研内科・有吉	3講
7	4	水	1	熱帯地方のウイルス感染症の診断と治療	熱帯地域で重要な日本脳炎、デング出血熱、西ナイル熱などの蚊媒性ウイルス感染所の診断、治療、予防について講義する。	熱研・森田	3講
7	4	水	2	寄生虫感染症の診断と治療	熱帯地でみられる寄生虫感染症の疫学・病態・診断・治療・予防について講義する。	熱研・濱野	3講
7	9	月	4	HIV/AIDSの疫学、自然経過、予防	国内外のエイズ流行の動向について概説し、エイズの疫学、自然経過、予防対策の本質について学ぶ。	熱研内科・有吉	3講
7	9	月	5	HIV/AIDSの臨床、治療	HIV感染者・エイズ患者に対する臨床的アプローチの仕方、日和見感染症の予防・治療、最新の抗HIV薬併用療法について学ぶ。	熱研内科・有吉	3講
7	9	月	6	なし	なし	なし	3講

# 感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	11	水	1	マラリアの診断と治療および予防	熱帯地でみられるマラリアを中心とする原虫疾患の疫学・病態・臨床・診断方法・治療・予防について体系的に説明する。	熱研内科・有吉	3講
7	11	水	2	人獣共通感染症	人獣共通（動物由来）感染症について、微生物の概説、伝播方式、予防策などトピックを交えながら講義する。	比較動物医学・大沢	3講
7	11	水	3	耐性菌による感染症	現在、各種領域で問題となっている耐性菌を紹介するとともに、耐性菌による感染症の発症に至る機序や治療について学ぶ。	臨床感染症学・田代	3講
7	17	火	4	T B L		熱研・森本	3講
7	17	火	5	T B L		熱研・森本	3講
7	17	火	6	インフルエンザの臨床、治療	インフルエンザウイルス感染に関連する様々な臨床像について説明する。	第二内科・今村	3講
7	18	水	1	院内感染とその対策 I	接触感染、飛沫感染、空気感染の違いと、院内感染対策の上で重要な病原菌の病態や対処方法を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
7	18	水	2	院内感染とその対策 II	院内感染を防止するための理論と対策を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
7	18	水	3	院内感染対策実習	院内感染防止の具体的手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター・河野	3講
7	20	金	7	抗酸菌感染症の診断と治療	結核症と非結核性抗酸菌症の疫学、病態と鑑別診断、さらに診断方法と標準的な治療法に関して学習する。	富山大学・山本	3講
7	23	月	4	T B L		臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター・河野	3講
7	23	月	5	T B L		臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター・河野	3講
7	25	水	4~6	試験			4講

# 運動系

責任者	氏名（教室）	尾崎 誠（整形外科（構造病態整形外科））		
	電話番号	095-819-7321	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

## 2. 授業到達目標

運動器疾患の基礎となる骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造を理解する。種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法を理解する。急性疾患における適切な救急処置を理解する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

主にプリントとスライドによる講義である。

## 4. 教科書・教材・参考書

標準整形外科学 中村 利孝・内田 淳正ほか 医学書院 9,870円  
 整形外科サブノート 東 博彦 ほか 南江堂 5,460円  
 標準形成外科学 第5版 秦 維郎・野崎 幹弘 編集 医学書院 7,140円  
 TEXT 形成外科学 第2版 波利井 清紀 監修 南山堂 6,300円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験（出題範囲は講義内容と上記教科書）。  
 評価には出席日数を考慮する。本論、放射線、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

## 7. 教員名

尾崎 誠、宮本 俊之、田口 憲士、梶山 史郎、松林 昌平、野村 賢太郎、辻本 律、岡崎 成弘、千葉 恒、津田 圭一、安達 信二、米倉 暁彦、木寺 健一、志田 崇之、富田 雅人（整形外科）、田中 克己、矢野 浩規（形成外科）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

## 運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	19	水	4	運動系総論(2)	診断学	整形・小林	4 講
9	19	水	5	骨・関節の外傷(1)	外傷総論	整形・宮本	4 講
9	19	水	6	骨・関節の外傷(2)	外傷各論 (高齢者外傷)	整形・宮本	4 講
9	21	金	4	運動系総論(1)	総論、歴史	整形・尾崎	4 講
9	21	金	5	骨・関節の外傷(3)	外傷各論 (小児外傷)	整形・宮本	4 講
9	21	金	6	骨・関節の外傷(4)	外傷各論 (成人外傷)	整形・田口	4 講
9	26	水	4	(病理)	病理学 (講義・実習)	病理診断・尹	C B T
9	28	金	4	リハビリ(1)	リハビリ (総論)	保健学科・小関	4 講
9	28	金	4	リハビリ(1)	リハビリ (総論)	保健学科・小関	4 講
9	28	金	5	上肢の疾患(1)	上肢(1)	整形・梶山	4 講
9	28	金	6	上肢の疾患(2)	上肢(2)	整形・梶山	4 講
10	1	月	1	リハビリ(2)	リハビリ (各論1)	整形・松林	4 講
10	1	月	2	リハビリ(3)	リハビリ (各論2)	整形・松林	4 講
10	1	月	3	運動系総論(3)	骨・軟骨の構造と生理	整形・野村	4 講
10	1	月	4	運動系総論(4)	治療学	整形・辻本	4 講
10	1	月	5	上肢の疾患(3)	上肢(3)	整形・辻本	4 講
10	1	月	6	顔面外傷	顔面外傷総論；軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成外科・矢野	4 講
10	3	水	1	手の外傷	手の機能解剖と診断・治療	形成外科・田中	4 講
10	3	水	2	再建外科	四肢組織欠損に対する機能再建	形成外科・田中	4 講
10	3	水	3	放射線・画像診断 (1)	脊椎・関節疾患、外傷	放射線科・上谷雅孝	4 講
10	10	水	4	放射線・画像診断 (2)	骨・軟部腫瘍、骨髄炎	放射線科・上谷雅孝	1 講
10	12	金	4	炎症性疾患(1)	骨・関節の感染症	整形・岡崎	4 講
10	12	金	5	炎症性疾患(2)	関節リウマチ	整形・千葉	4 講
10	12	金	6	炎症性疾患(3)	リウマチ類似疾患	整形・千葉	4 講
10	15	月	1	脊椎(1)	脊椎(1)	整形・津田	4 講
10	15	月	2	脊椎(2)	脊椎(2)	整形・津田	4 講
10	15	月	3	脊椎(3)	脊椎(3)	整形・山田	4 講
10	15	月	4	脊椎(4)	脊椎(4)	整形・山田	4 講
10	15	月	5	脊椎(5)	脊椎(5)	整形・安達	4 講
10	15	月	6	脊椎(6)	脊椎(6)	整形・安達	4 講
10	22	月	1	下肢の疾患(1)	膝関節(1)	整形・米倉	4 講
10	22	月	2	下肢の疾患(2)	膝関節(2)・足関節・足趾	整形・米倉	4 講
10	22	月	3	下肢の疾患(3)	股関節(1)	整形・木寺	4 講
10	22	月	4	下肢の疾患(4)	股関節(2)	整形・志田	4 講

## 運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	22	月	5	下肢の疾患(5)	股関節(3) (小児)	整形・松林	4 講
10	22	月	6	腫瘍性疾患(1)	腫瘍各論(1) 悪性骨軟部腫瘍(1)	整形・野村	4 講
10	26	金	1	腫瘍性疾患(2)	骨軟部腫瘍総論	整形・富田	4 講
10	26	金	2	腫瘍性疾患(3)	腫瘍各論(2) 良性骨軟部腫瘍	整形・富田	4 講
10	26	金	3	腫瘍性疾患(4)	腫瘍各論(3) 悪性骨軟部腫瘍(2)	整形・野村	4 講
10	29	月	4~6	試験			4 講

# 生殖系

責任者	氏名 (教室)	(産科婦人科学)		
	電話番号	095-819-7363	e-mail	0
	オフィスアワー	17:00~17:30		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Reproductive Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

男女の生殖器の解剖、生理および病理について系統的に学習する。正常および異常妊娠、分娩について系統的に学習する。授業内容は講義形式を用いる。

## 2. 授業到達目標

女性生殖器、男性生殖器の解剖、発生およびその異常について説明できる。男性不妊症や主な男性生殖器疾患について説明できる。女性の性周期、妊娠成立の仕組み、不妊症および不育症について説明できる。正常妊娠、胎児、分娩の経過およびその異常としてのハイリスク妊娠、分娩について説明できる。もな女性生殖器疾患について説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義時間は55コマである。内訳は第三解剖1コマ、泌尿器科3コマ、産婦人科51コマである。

## 4. 教科書・教材・参考書

ムーア人体発生学 Moore, Persaud 医歯薬出版 9,500円  
 新泌尿器科学 内藤 誠二 南山堂 8,700円  
 標準産科婦人科学 岡井 崇 他編 医学書院 8,610円  
 臨床産科超音波診断 改訂2版 増崎 英明 メディカ出版 7,800円

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席点および筆記試験により評価する。筆記試験問題は担当教員が分担して作成する。原則として60%以上の得点をもって合格とする。

本論、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書、参考書を読み、予習復習を行うこと

## 7. 教員名

三浦清徳、北島道夫、嶋田貴子、長谷川ゆり、濱口大輔、北島百合子、森崎佐知子、松本加奈子、東島愛、阿部修平、村上直子、福島愛、大橋和明 (産婦人科)、吉村泰典、檜原久司、片淵秀隆、村上誠、中島久良、藤下晃、小寺宏平、中山大介、吉田敦 (非常勤講師)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

# 生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	18	火	1	イントロダクション	産婦人科学について	産婦人科・三浦	4講
9	18	火	2	性分化と性器の発生	性器の発生、性分化異常	解剖3・小路	4講
9	18	火	4	女性の性機能	性機能系のホルモン／視床下部-下垂体-卵巣系／性器の周期的変化	産婦人科・北島百	4講
9	18	火	5	外陰・膣の疾患(1)	外陰・膣の炎症／性感染症	産婦人科・嶋田	4講
9	18	火	6	外陰・膣の疾患(2)	骨盤内炎症性疾患 (PID)	産婦人科・嶋田	4講
9	20	木	1	女性性器の構造	女性性器の構造／産婦人科診察	非常勤・藤下	4講
9	20	木	2	女性性器の異常	形態異常／位置異常／損傷と瘻	非常勤・藤下	4講
9	20	木	4	不妊(1)	不妊症	産婦人科・北島道	4講
9	20	木	5	不妊(2)	不育症	産婦人科・北島百	4講
9	20	木	6	不妊(3)	性分化異常／男性不妊症	泌尿器科・宮田	4講
9	25	火	1	付属器の疾患 (2)	卵巣癌	非常勤・小寺	4講
9	25	火	2	付属器の疾患 (3)	卵管癌	非常勤・小寺	4講
9	25	火	4	男性生殖器の疾患 (1)	前立腺肥大症	泌尿器科・酒井	4講
9	25	火	5	男性生殖器の疾患 (2)	前立腺癌	泌尿器科・酒井	4講
9	25	火	6	男性生殖器の疾患 (3)	精巣腫瘍／陰茎腫瘍	泌尿器科・酒井	4講
9	26	水	5	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
9	26	水	6	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
9	27	木	1	月経	月経周期・排卵の調節機構	非常勤・檜原	4講
9	27	木	2	外陰・膣の疾患(3)	外陰癌／膣癌	非常勤・村上	4講
9	27	木	4	子宮の疾患 (2)	子宮頸管ポリープ／子宮頸部異形成／子宮頸癌	非常勤・中島	4講
9	27	木	5	子宮の疾患(3)	子宮内膜増殖症・子宮体癌	産婦人科・濱口	4講
9	27	木	6	付属器の疾患(1)	卵巣腫瘍・類腫瘍病変	産婦人科・濱口	4講
10	2	火	1	医療倫理	生殖医療と生命倫理	非常勤・吉村	4講
10	2	火	2	婦人科手術	エキスパートが教える婦人科手術の種類とその特徴	産婦人科・三浦	4講
10	2	火	4	加齢と疾患	更年期障害／老年期障害	産婦人科・北島道	4講
10	2	火	5	女性医学	女性の不定愁訴／漢方	産婦人科・北島百	4講
10	2	火	6	妊娠の生理 (1)	生命のはじまりー受精と着床／胚形成と胎盤形成	産婦人科・北島道	4講
10	3	水	4	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
10	3	水	5	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
10	3	水	6	(病理) 生殖病理	細胞診	原研病理・松田	1講
10	4	木	1	妊娠の生理 (2)	胎児の発育／胎児-胎盤系の生理／妊娠による母体の変化	産婦人科・濱口	4講
10	4	木	2	妊娠中の胎児評価	胎児心拍陣痛図の読み方	産婦人科・松本	4講
10	4	木	4	正常分娩 (1)	分娩の概念／陣痛初来機序／分娩の3要素／分娩機転	産婦人科・北島百	4講
10	4	木	5	正常分娩 (2)	正常分娩の経過と管理／産褥期／新生児	産婦人科・阿部	4講

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	4	木	6	異常分娩(1)	陣痛の異常／児頭骨盤不均衡(CPD)	産婦人科・松本	4講
10	9	火	1	妊娠の異常(1)	妊娠悪阻／流産／子宮外妊娠	非常勤・藤下	4講
10	9	火	2	異常分娩(2)	胎位・胎向・胎勢の異常	産婦人科・阿部	4講
10	9	火	4	産科処置	産科手術／分娩誘発・促進／産科麻酔	産婦人科・濱口	4講
10	9	火	5	妊娠の異常(2)	早産と前期破水	産婦人科・吉田	4講
10	9	火	6	妊娠の異常(3)	妊娠中の高血圧	産婦人科・吉田	4講
10	10	水	5	(病理)生殖病理	生殖系・子宮頸部(講義・実習)	熊本大学・三上	CBT室
10	10	水	6	(病理)生殖病理	生殖系・子宮頸部(講義・実習)	熊本大学・三上	CBT室
10	11	木	1	妊娠の異常(4)	多胎妊娠	産婦人科・東島	4講
10	11	木	2	妊娠の異常(5)	絨毛性疾患／胎児発育遅延(FGR)	産婦人科・東島	4講
10	11	木	4	妊娠の異常(6)	羊水過多症／羊水過少症／胎盤・臍帯の異常	産婦人科・長谷川	4講
10	11	木	5	妊娠の異常(7)	妊娠と感染／周産期感染症	産婦人科・森崎	4講
10	11	木	6	産褥の異常	産科出血／産科ショックとDIC一産科救急の対処法	産婦人科・長谷川	4講
10	16	火	1	合併症妊娠(1)	内分泌・代謝／自己免疫／精神神経疾患	産婦人科・森崎	4講
10	16	火	2	先天異常	先天異常／遺伝／出生前診断／胎児治療	非常勤・中山	4講
10	16	火	4	合併症妊娠(2)	婦人科／心血管／血液／腎・泌尿器	産婦人科・森崎	4講
10	16	火	5	合併症妊娠(3)	消化器／呼吸器疾患	産婦人科・福島	4講
10	16	火	6	産婦人科の遺伝	胎児／妊婦／がんに関する遺伝	産婦人科・三浦	4講
10	17	水	4	TBL(1)	婦人科腫瘍	産婦人科・嶋田	4講
10	17	水	5	TBL(2)	周産期1	産婦人科・長谷川	4講
10	17	水	6	TBL(3)	生殖内分泌	産婦人科・北島道	4講
10	23	火	1	婦人科腫瘍の病因学	ノーベル生理医学賞と子宮頸癌予防HPVワクチン	非常勤・片渕	4講
10	23	火	2	TBL(4)	周産期2	産婦人科・三浦	4講
10	24	水	4~6	試験			4講

# 臨床検査医学

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Laboratory Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

患者の病態を把握するために必要な検査が何かを学び、それぞれの検査の特徴を知った上で、それらを適切に使い分け、かつ適切に結果を解釈する思考を構築する。検査値から鑑別を広く挙げ、病態を深く読む視点を養う。

## 2. 授業到達目標

臨床検査の意義とその解釈を説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

正しい臨床診断を得るためには、検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深める。各種検査についての基本的知識や解釈、原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

臨床検査ガイド 文光堂

標準臨床検査医学 医学書院

臨床検査法提要 金原出版

よくわかる輸血学・改訂版 大久保 光夫 羊土社

移植・輸血検査学 講談社

血液細胞アトラス 文光堂

Handbook of Hematologic Pathology Marcel Dekker Inc, USA

Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications Lela Buckingham F.A.Davis

戸田新細菌学 吉田眞一、柳雄介、吉開泰信 南山堂

標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・医動物学」 一山智、田中美智男 医学書院

医療スタッフのための 微生物検査のススメ 柳原克紀 ヴァンメディカル

## 5. 成績評価の方法・基準等

成績評価の方法：定期考査100%。成績評価の基準：60点以上を合格とする。

特別な理由なく講義に1/3以上欠席した場合は、定期考査の受験資格はない。

## 6. 事前・事後学修の内容

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

## 7. 教員名

柳原 克紀、長谷川 寛雄、森永 芳智、宇野 直輝、賀来 敬仁（臨床検査医学）、

長井 一浩（細胞療法部）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 臨床検査医学

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	19	水	1	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
9	19	水	2	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
9	19	水	3	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
9	26	水	1	臨床化学総論	臨床化学総論	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
9	26	水	2	臨床化学各論	臨床化学各論	臨床検査医学 賀来敬仁	4 講
9	26	水	3	臨床化学各論	臨床化学各論	臨床検査医学 賀来敬仁	4 講
10	10	水	1	微生物検査	微生物検査	臨床検査医学 森永芳智	4 講
10	10	水	2	微生物検査	微生物検査	臨床検査医学 森永芳智	4 講
10	10	水	3	微生物検査	微生物検査	臨床検査医学 森永芳智	4 講
10	12	金	1	一般検査	一般検査	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	12	金	2	血液学検査	血液学検査	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	12	金	3	血液学検査	血液学検査	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	17	水	1	生理機能検査	生理機能検査	臨床検査医学 賀来敬仁	4 講
10	17	水	2	免疫血清検査	免疫血清検査	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
10	17	水	3	遺伝子検査総論	遺伝子検査総論	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
10	26	金	4	輸血検査	輸血検査	細胞療法部 長井一浩	4 講
10	26	金	5	輸血検査	輸血検査	細胞療法部 長井一浩	4 講
10	26	金	6	輸血検査	輸血検査	臨床検査医学 長井一浩	4 講
10	29	月	1	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
10	29	月	2	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	29	月	3	検査の実際	検査の実際	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
11	5	月	4~6	試験			4 講

# 内分泌・代謝・栄養系

責任者	氏名 (教室)	川上 純 (内科学第一)		
	電話番号	095-819-7260	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	8:00~9:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Endocrinology and Metabolism		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

内分泌・代謝・乳腺疾患の病因、病態生理、症状・所見、検査、治療について理解する。

## 2. 授業到達目標

代表的な内分泌・代謝・乳腺疾患について病因、病態生理、症状・所見、検査、治療について説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

内分泌学の基本であるホルモンは特異的な内分泌腺から分泌され、血流を介して各ホルモンに特異的受容体を有する標的細胞に作用する生理活性物質と定義されています。講義ではまず、総論としてすべてのホルモンに共通した概念、作用機序、分泌調節機序を理解してもらい、次に各論として代表的ホルモンを分泌する内分泌腺 (視床下部下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺) 別に、個々のホルモンの作用、分泌調節、さらに代表的な疾患 (末端肥大症、尿崩症、バセドウ病、クッシング症候群など) および最近のトピックについて話を進める予定です。

代謝・栄養系として、栄養学ならびに糖代謝について基本的な概念を習得し、その上で、糖尿病、低血糖、高脂血症、肥満、痛風などの疾患を講義します。糖尿病はインスリン分泌および作用の不足の結果、高血糖を生じますが、慢性的な高血糖が持続しますと糖尿病に特有な腎症・網膜症・神経障害などの合併症を生じます。最初に、糖尿病の分類、診断、糖尿病合併症および糖尿病の治療について講義します。また、トピックとしていくつかの遺伝子異常による糖尿病や、新しい糖尿病治療薬などについてふれます。

高脂血症とは血中脂質 (コレステロール、中性脂肪) が増加した状態であり、動脈硬化性疾患 (心筋梗塞、狭心症) の主な危険因子です。まず最初にリポ蛋白代謝について説明し、次に高脂血症の分類、動脈硬化の発生機序、メタボリック症候群について講義します。

外科分野として、乳癌や乳腺良性疾患および甲状腺癌、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症などの外科治療を中心に基礎的な知識や最新のトピックスについて触れていきます。また乳癌に関しては分子標的治療薬を含めた薬物療法についても講義します。

## 4. 教科書・教材・参考書

最新 内分泌代謝学 中尾 一和 編 診断と治療社 9,000円

CECIL TEXTBOOK OF MEDICINE (25th ed)

Lee Goldman, Andrew I. Schafer 他編 W.B.Saunders company

Harrison's PRINCIPLES of INTERNAL MEDICINE (19th ed)

Fauci, Kasper, Longo, Braunwald 他編 Mc Graw-Hill

Williams textbook of Endocrinology (13th ed.)

Melmed, Polnsky, Larsen 他編 Elsevier

標準外科学 (第14版) 監修: 畠山 勝義 医学書院

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査 100%

本論、放射線、病理、薬理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考図書にて予習しておくことが望ましい。

## 7. 教員名

阿比留教生、安藤隆雄、鎌田昭江、堀江一郎、原口愛（第一内科）、  
世羅至子（生活習慣病予防診療部）、桑原宏永（医学部IR室）、  
古林正和（保健医療推進センター）、矢野洋（腫瘍外科）、山之内孝彰（移植消化器外科）、  
高島美和（栄養管理室）、山崎浩則（佐世保総合医療センター）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	30	火	4	内分泌代謝薬理 1	糖尿病治療薬	薬理・有賀	1 講
10	30	火	5	内分泌代謝薬理 2	高脂血症・痛風治療薬	薬理・有賀	1 講
10	30	火	6	内分泌代謝薬理 3	内分泌代謝疾患治療薬	薬理・中川	1 講
11	1	木	1	内分泌総論	ホルモン作用・疾患総論	第一内科 安藤	4 講
11	1	木	2	甲状腺	甲状腺総論	第一内科 安藤	4 講
11	1	木	3	視床下部・下垂体	視床下部・下垂体後葉疾患	第一内科 安藤	4 講
11	2	金	1	代謝・栄養学	栄養学	栄養管理室 高島	4 講
11	2	金	2	糖尿病	糖代謝総論	第一内科 阿比留	4 講
11	2	金	3	糖尿病	糖尿病の分類と診断	第一内科 阿比留	4 講
11	8	木	1	視床下部・下垂体	下垂体前葉疾患	第一内科 安藤	4 講
11	8	木	2	甲状腺	甲状腺機能亢進症	生活習慣病予防診療部 世羅	4 講
11	8	木	3	甲状腺	甲状腺機能低下症	生活習慣病予防診療部 世羅	4 講
11	9	金	1	糖尿病	糖尿病の治療 パート 1	第一内科 阿比留	4 講
11	9	金	2	糖尿病	糖尿病の治療 パート 2	第一内科 阿比留	4 講
11	9	金	3	性腺・消化管ホルモン	性分化異常症・消化管ホルモン 産生腫瘍	第一内科 堀江	4 講
11	12	月	1	糖尿病	糖尿病昏睡・急性合併症	医学部IR室 桑原	4 講
11	12	月	2	副腎	副腎皮質疾患	第一内科 原口	4 講
11	12	月	3	副腎	副腎髄質疾患	第一内科 原口	4 講
11	15	木	2	甲状腺	甲状腺腫瘍	第一内科 堀江	3 講
11	15	木	3	糖尿病	糖尿病の治療 パート 3	第一内科 阿比留	3 講
11	16	金	1	乳腺・内分泌	甲状腺外科	移植消化器外科 山之内	3 講
11	16	金	2	糖尿病	糖尿病の慢性合併症	保健・医療推進センター 古林	3 講
11	16	金	3	カルシウム代謝	高・低カルシウム血症・代謝性 骨疾患	第一内科 原口	3 講
11	19	月	1	脂質異常症	リポ蛋白代謝・分類、治療	非常勤講師 山崎	3 講
11	19	月	2	脂質異常症	脂質異常症の治療	非常勤講師 山崎	3 講
11	19	月	3	肥満	成因・治療	非常勤講師 山崎	3 講
11	21	水	4	(病理) 内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	2 講
11	21	水	5	(病理) 内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	2 講
11	21	水	6	(病理) 内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	2 講
11	22	木	1	痛風	核酸代謝・高尿酸血症・低血糖	第一内科 鎌田	3 講
11	22	木	2	乳腺・内分泌	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3 講
11	22	木	3	乳腺・内分泌	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3 講
11	26	月	1	TBL		第一内科 鎌田・阿比留	3 講
11	26	月	2	TBL		第一内科 鎌田・阿比留	3 講
11	26	月	3	放射線・画像診断	代謝・内分泌疾患の放射線・画像 診断	放射線科・大木	3 講
11	27	火	4	(病理) 内分泌病理	唾液腺・下垂体	病理診断 新野	C B T

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	27	火	5	(病理) 内分泌病理	甲状腺	病理診断 新野	C B T
11	27	水	6	(病理) 内分泌病理	甲状腺	病理診断 新野	C B T
11	28	水	5	(病理) 内分泌病理	総合実習	病理診断 二口	C B T
11	28	水	6	(病理) 内分泌病理	総合実習	病理診断 二口	C B T
12	3	月	1	TBL		第一内科 堀江	3 講
12	3	月	2	TBL		第一内科 堀江	3 講
11	4	火	4	(病理) 内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	C B T
11	4	火	5	(病理) 内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	C B T
11	4	火	6	(病理) 内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	C B T
12	7	金	4~6	試験			4 講

# 消化器系

責任者	氏名 (教室)	中尾 一彦 (消化器内科学)		
	電話番号	095-819-7481	e-mail	kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 8:30~12:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Digestive disease		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

消化器系は口腔・唾液腺に始まり、食道・胃・小腸・結腸・直腸・肛門に至る消化管系と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓よりなる肝胆膵系に大別される。

## 2. 授業到達目標

消化器の病理、症状、検査、内科的消化器疾患、外科的消化器疾患、手術法などを統合包括的に把握し、消化器疾患における基礎的、臨床的な基本的知識を理解、修得する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

消化器系を消化管系と肝胆膵系に大別し、それぞれを病理学、内科学、外科学の順に講義を進行させる。

## 4. 教科書・教材・参考書

内科学書 (改訂第8版) 中山書店 31,320円

消化器内視鏡診断テキスト

第1巻: 食道・胃・十二指腸 第2巻: 小腸・大腸 文光堂 各9,180円

肝臓専門医テキスト 改訂第2版 日本肝臓病学会監修 南江堂 15,120円

消化器病診療 第2版 日本消化器病学会監修 医学書院 6,480円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は病理、薬理、内科、外科、放射線科がそれぞれの担当時間数に応じて配分された点数をもって出題する。各科目の総点を100点として評価を行う。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書、配付資料を参照し、予習復習を行うこと。

## 7. 教員名

中尾 一彦、竹島 史直、宮明 寿光、三馬 聡、赤澤 祐子、柴田 英貴、  
本田 琢也、松島加代子、小澤 栄介、北山 素、田淵 真惟子、佐々木 龍、

原口 雅史 (消化器内科)、

山口 直之、橋口 慶一 (光学医療診療部)、飛永 修一 (腫瘍外科)、

金高 賢悟、伊藤 信一郎、井上 悠介、小林 慎一郎、米田 晃 (移植・消化器外科)、

石丸 英樹 (放射線科)、松永 隼人 (医科薬理学)、八橋 弘 (長崎医療センター)

## 8. 備考

出欠チェックは1コマ毎に行う。出欠状況は成績に反映する。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

# 消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	25	木	1	上部消化管総論①	構造機能	消内 竹島史直	4 講
10	25	木	2	下部消化管総論①	構造機能	消内 竹島史直	4 講
10	25	木	3	下部消化管総論②	症候、機能的疾患	消内 竹島史直	4 講
10	25	木	4	(病理) 消化器病理	消化器 (各論的疾患概論)	原研病理 三浦	1 講
10	25	木	5	(病理) 消化器病理	消化器 (各論的疾患概論)	原研病理 三浦	1 講
10	25	木	6	(病理) 消化器病理	消化器 (各論的疾患概論)	原研病理 三浦	1 講
10	30	火	1	上部消化管総論②	症候	消内 松島加代子	4 講
10	30	火	2	食道疾患	先天異常、憩室、炎症、腫瘍	消内 松島加代子	4 講
10	30	火	3	消化管内視鏡	検査と治療	光学 山口直之	4 講
10	31	水	1	胃十二指腸疾患①	胃十二指腸の炎症、潰瘍	光学 橋口慶一	4 講
10	31	水	2	胃十二指腸疾患②	胃癌	光学 山口直之	4 講
10	31	水	3	胃十二指腸疾患③	その他の疾患	光学 山口直之	4 講
10	31	水	4	(病理) 消化器病理	消化器・臨床と病理 (肝胆)	長崎医療センター 伊東	2 講
10	31	水	5	(病理) 消化器病理	消化器・臨床と病理 (肝胆)	長崎医療センター 伊東	2 講
10	31	水	6	(病理) 消化器病理	細胞診 (非婦人科領域)	原研病理 松田	2 講
11	1	木	4	(病理) 消化器病理	肝胆膵の病理のポイント	原研病理 中島	2 講
11	1	木	5	(病理) 消化器病理	肝胆膵の病理のポイント	原研病理 中島	2 講
11	1	木	6	(病理) 消化器病理	肝胆膵の病理のポイント	原研病理 中島	2 講
11	2	金	4	消化器系疾患の画像診断	消化器系疾患の画像診断法 (CT, US, MRIなど)	放射線科 石丸英樹	3 講
11	2	金	5	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	2	金	6	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	6	火	1	大腸腫瘍①	ポリープ、ポリポースなど	光学 山口直之	4 講
11	6	火	2	大腸腫瘍②	大腸癌	光学 山口直之	4 講
11	6	火	3	大腸腫瘍③	その他の疾患	光学 山口直之	4 講
11	6	水	4	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	6	木	5	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	6	金	6	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	7	水	1	消化管ホルモン	消化管ホルモン	消内 松島加代子	4 講
11	7	水	2	小腸疾患	小腸疾患、吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症	消内 松島加代子	4 講
11	7	水	3	全身性疾患と消化管	膠原病、アミロイドーシス、血液疾患など	光学 橋口慶一	4 講
11	7	水	4	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	7	水	5	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	7	水	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	8	木	5	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	8	木	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	9	金	4	(病理) 消化器病理	胃	順天堂大学 八尾	CBT室
11	9	金	5	(病理) 消化器病理	胃	順天堂大学 八尾	CBT室
11	9	金	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	12	月	4	大腸炎症①	炎症性腸疾患	消内 竹島史直	4 講

# 消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	12	月	5	大腸炎症②	感染性腸炎	消内 竹島史直	4 講
11	12	月	6	大腸炎症③	その他の腸炎	消内 竹島史直	4 講
11	13	火	1	消化管外科①	食道1	移植・消化器外科 小林慎一郎	4 講
11	13	火	2	消化管外科②	食道2	移植・消化器外科 小林慎一郎	4 講
11	13	火	3	消化管外科③	胃・十二指腸	移植・消化器外科 米田 晃	4 講
11	13	火	5	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	13	火	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	14	水	1	消化管外科④	小腸・大腸1	移植・消化器外科 伊藤信一郎	4 講
11	14	水	2	消化管外科⑤	小腸・大腸2	移植・消化器外科 伊藤信一郎	4 講
11	14	水	3	消化管外科⑥	腹壁・肛門の疾患	移植・消化器外科 井上悠介	4 講
11	14	水	5	(病理) 消化器病理	消化器・口腔 (講義・実習)	口腔病理 片瀬	1 講
11	14	水	6	(病理) 消化器病理	消化器・口腔 (講義・実習)	口腔病理 片瀬	1 講
11	15	木	5	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	15	木	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	16	金	4	消化管外科⑦	概念と疾患群	移植・消化器外科 金高賢悟	3 講
11	16	金	5	肝臓総論①	正常組織・生理機能	消内 中尾一彦	3 講
11	16	金	6	肝臓総論②	病態生理	消内 中尾一彦	3 講
11	19	月	4	特別講義	肝炎①	長崎医療センター 八橋弘	3 講
11	19	月	5	特別講義	肝炎②	長崎医療センター 八橋弘	3 講
11	19	月	6	特別講義	肝炎③	長崎医療センター 八橋弘	3 講
11	20	火	1	肝臓先天異常	先天異常	消内 中尾一彦	3 講
11	20	火	2	代謝性疾患①	NASH、ASHなど	消内 宮明寿光	3 講
11	20	火	3	代謝性疾患②	薬剤性肝障害など	消内 宮明寿光	3 講
11	20	火	4	消化器系に作用する薬	潰瘍治療薬、腸疾患治療薬、肝疾患治療薬など	医科薬理 松永隼人	1 講
11	20	火	5	(病理) 消化器病理	細胞診・消化器/体腔 (講義・実習)	病理診断科 二反田	CBT室
11	20	火	6	(病理) 消化器病理	細胞診・消化器/体腔 (講義・実習)	病理診断科 二反田	CBT室
11	21	水	1	自己免疫疾患	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	消内 宮明寿光	3 講
11	21	水	2	肝硬変	肝硬変、静脈瘤	消内 三馬聡	3 講
11	21	水	3	肝不全	肝不全、非硬変性門亢症	消内 三馬聡	3 講
11	26	月	4	感染症	HEV、肝炎ウイルス以外のウイルスと寄生虫膿瘍など	消内 原口雅史	3 講
11	26	月	5	胆膵疾患①	主要症候	消内 小澤栄介	3 講
11	26	月	6	胆膵疾患②	検査と治療	消内 小澤栄介	3 講
11	27	火	1	肝臓の腫瘍①	肝臓細胞癌	消内 三馬聡	3 講
11	27	火	2	肝臓の腫瘍②	胆管細胞癌	消内 佐々木龍	3 講
11	27	火	3	肝臓の腫瘍③	その他の腫瘍	消内 佐々木龍	3 講
11	28	水	1	胆膵疾患③	悪性腫瘍	消内 小澤栄介	3 講
11	28	水	2	胆膵疾患④	膵臓の炎症、その他の疾患	消内 小澤栄介	3 講
11	28	水	3	胆膵疾患⑤	胆道系の炎症、その他の疾患	消内 小澤栄介	3 講
11	30	金	4	化学療法①	消化管癌の化学療法	消内 本田琢也	2 講

# 消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	30	金	5	化学療法②	胆膵癌の化学療法	消内 本田琢也	2 講
11	30	金	6	肝胆膵外科①	門脈・脾臓の外科	腫瘍外科 飛永修一	2 講
12	3	月	4	肝胆膵外科②	膵疾患の外科(1)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	3	月	5	肝胆膵外科③	膵疾患の外科(2)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	3	月	6	肝胆膵外科④	胆道疾患の外科(1)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	4	火	1	肝胆膵外科⑤	胆道疾患の外科(2)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	4	火	2	肝胆膵外科⑥	肝疾患の外科(1)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	4	火	3	肝胆膵外科⑦	肝疾患の外科(2)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	10	月	4	TBL		消内 北山素、田渕真惟子、原口雅史、佐々木龍	3 講
12	10	月	5	TBL		消内 北山素、田渕真惟子、原口雅史、佐々木龍	3 講
12	10	月	6	TBL		消内 北山素、田渕真惟子、原口雅史、佐々木龍	3 講
12	11	火	4~6	試験			4 講

# プレリサーチセミナー

責任者	氏名 (教室)	柳原 克紀 (臨床検査医学 (病態解析・診断学) )		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次 通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (研究医枠及び熱帯医学研究医枠)	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

1年次：論文研究 (ゼミ形式) と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。

2年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

## 7. 備考

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

# リサーチセミナー

責任者	氏名 (教室)	蒔田 直昌 (分子生理学)		
	電話番号	095-819-7031	e-mail	makitan@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	随時		

対象年次・学期	3年次・後期、 4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	11.5
科目英語名	Research Seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し、実施する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。

## 2. 授業到達目標

セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後障害医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

3年次後期（1～2月）、各配属教室において研究実習を行い、報告書を提出する。  
4年次前期（5月）、リサーチセミナー発表会において、研究内容の発表を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

研究報告書・担当教員の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

毎回の予習復習課題として文献資料を読むこと。

## 7. 備考

### 【研究テーマの選択方法】

1. 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教員名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
2. 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
3. この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導することを承諾する講座を必要とする。
4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

【リサーチセミナー履修の認定の条件】

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上を従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務課へ提出すること。（※切：3月1日）  
（ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教員はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（※切：3月1日）
5. 4年次の5月に開催される「リサーチセミナー合同発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

# English for International Medicine

**Instructors:** Luc Loosveldt/Jim Briganti

**Class Time :** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. A range of materials will be introduced to discuss global health issues. Students will be asked to research and introduce their own materials in class to show their understanding.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of materials will be used to introduce global health issues for discussion.</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i></p>	

# 医学ゼミ

責任者	氏名 (教室)	柳原 克紀 (臨床検査医学 (病態解析・診断学) )		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次 前期・後期、3～4年次 後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1単位
科目英語名	Small group medical seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。A0学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

## 2. 授業到達目標

各担当教員による。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

各担当教員による。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

## 6. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する (第3希望まで)。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。

3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

## 7. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

平成30年度 医学ゼミ 開講テーマ一覧(3年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
組織解剖(第三解剖)	小路 武彦	ビデオで学ぶ組織発生	発生学・組織発生で得た知識を深めることを目的とする。	日本語の動画教材を用い、発生学から疾患への理解を深める。各回組織発生に関するDVDを鑑賞の後、グループ討論を行う。	金曜日3校時	小会議室	出席、レポートを総合的に評価。	
医科薬理学	有賀 純 中川慎介 畑山 実 松永 人	最新の論文から探る医学・生物学研究の潮流	トップジャーナルに掲載された脳神経、血管、代謝、幹細胞に関する論文の学術的背景や意義を理解し、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文部を毎週1冊ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教員がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	火曜日3校時	薬理学教室セミナー室	出席、発表内容、ディスカッションへの積極的な参加を総合的に評価する。	
探索病理(病理1)	林 洋子 下川 功	病理のいろは	病理組織の見方を基本から学ぶ。	病理組織標本を顕微鏡、腫瘍や非腫瘍性疾患の病理組織像について自らまとめ、発表し、学習する。	金曜日3校時	第二実習室 第一病理学教室 見習室	出席、授業態度。	
微生物学(感染分子)	西田教行 田口 謙	ケースレポートから学ぶ感染症	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う	NEJMのCase reportから感染症の症例を選択的に取り上げ、丁寧に読解を行う。	金曜日3校時	基礎棟8階 集會室	出席およびレポート	
免疫学	都田真奈	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根拠にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を養う。3年生を対象とする。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自習した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方などは適宜指導する。	金3校時	免疫学分野集會室	発表内容、参加態度、レポート、出欠を総合的に評価	
第一内科	川上 純	臨床内科のエッセンス	臨床の基本的な考え方を学ぶ	鑑別診断・病態の説明や標準的治療の解説から、最新のトピックスまでの内容を含み、参加を通じて実際の臨床の考え方を学ぶ。	火、水 7:45~8:30	本館9階ゼミ室(906号室)	出席点など	
消化器内科	竹島史直(消化器内科)山口直之(消化器内科、光学医療診療部)	GI Club	消化管疾患の病態と内視鏡診断についてより深く学習する	前半は、入院、外来の症例検討を行うことで腸疾患に対する興味を喚起するとともに、それに関する最新の英文臨床研究やUp to Dateの抄読会を通じて理解を深める。 後半は、実際の上下部消化管、カプセル内視鏡などの画像を見て、まずは異常所見の拾い上げ、そしてそれについて病態であるのか鑑別診断を考えるから診断にたどり着くまでの過程を身につける。	金曜16:30	病院本館9階テアマン室	出席や発表内容より総合的に評価	
精神神経科	小澤寛樹	映画から見る精神医学	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神疾患を取り扱った映像作品を毎回取り上げ鑑賞し、1~2, 3人がその疾患に関して事前研究と資料作成の講義スタイルでプレゼンテーションを実施する事で、能動的な参加姿勢を養う。	原則として水曜日17時開始	第3講義室または精神科外来63番診療室	①出席点50%②視聴後にディスカッションへ参加意欲・各回の提出レポート50%	毎回映画の視聴後にテーマディスカッション、解説講義を21時頃まで行います。期間内で視聴目録に他科目を受講する必要がある人、その他予定のある人などは、その点留意してください。
腫瘍外科(第一外科)	日高 重和	内視鏡下手術入門〜応用	近年進歩した内視鏡下手術は最先端の技術であり、その原理の理解、基本手術修練は従来の外科手術と同様に重要である。内視鏡下手術の原理・知識、基本操作から応用をトレーニング装置で学びながら、内視鏡下手術への理解を深める。	内視鏡下手術の基礎知識講義(初回)。次にドライボックス、VRシミュレーターを用いて、設定された基本手術タスクを段階的に体験し、修練していく。内視鏡下基本タスクのシミュレーションを行う。最終目標として、VRシミュレーターを用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術を実践する。ロボット支援手術シミュレーターも体験する。	水曜日7校時	腫瘍外科医局またはシミュレーションセンター(病院中央診療棟4階)	実践トレーニング実習が主であり、出席を重要視します。	トレーニング機器を用いる場合、場所はシミュレーションセンター(病院中央診療棟4階)です
移植・消化器外科(第二外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには臨床試験まで	外科の入門編から実践さらには臨床試験まで幅広く、道筋の講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	1. 外科の歴史(長崎の外科から世界の外科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診断、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるBM(論文の読み方、読み方教えます) 5. 消化器外科の最新知見、ピルポートについて知ってる? 6. 臨床に出る外科(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についても語ろう 8. 風説外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	金曜日16:30-17:30	移植・消化器外科医局(第二カンファ室):医局受付で問い合わせてください。	出席を重要視する。ディスカッション内容。フリーク形式です。レポート・試験などはありません。	* 講義内容、順番は予定であり若干の変更があります。 * 学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 * 欠席する場合は、医局まで連絡ください。 * 時間帯が合わない場合は、申し出て下さい。
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye diseases	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	月曜日17:00-18:30	眼科医局	出席、態度、レポートなどにより総合的に評価する	
耳鼻咽喉科	渡邊 毅	将来役に立つ耳鼻咽喉科・頭頸部外科(入門編)	身近だがとつきにくい、耳鼻咽喉科・頭頸部外科を知り、将来(医師になっても)に役立てることを目的とする。	耳鼻咽喉科の歴史を振り返り、診察実習や実際の医療の現場を通じて耳鼻科の内科的側面・外科的側面を体感してもらい、学問としての耳鼻咽喉科と臨床医学としての耳鼻咽喉科、さらにCBTや臨床試験、将来医師になっても役に立つ種々の医療の知識・技術・経験を身につけることを目的とする。	月曜日17:00-18:30	11階 耳鼻咽喉科医局	出席、積極性、発表内容等を総合的に評価する。	
臨床検査医学	柳原克紀	臨床検査のUp To Date	遺伝子検査や新規バイオマーカー、及び既存の臨床検査の新しい臨床的知見を学ぶ。	臨床検査に関する近年の文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	火 3校時	臨床検査医学医局(12階)	積極的な姿勢、文献の理解、発表を評価する。	
腫瘍医学	池田裕村 岡大輔 安井 深	自ら触れる「がん研究の最先端」	がん研究に関する原著論文を自ら読み解き、他者と議論することにより、科学的思考、論理的検証法の実践的なトレーニングを積む。同時に最先端の科学に触れる喜びを経験する。	がん関連の重要な英文論文について、学生がみずから読んで内容を解説し、紹介し、それについて全員で議論する。論文の選択・検索方法、読み方、発表方法については教員が指導する。	金曜日3校時	腫瘍学教室会議室	出席、参加態度、発表内容などを総合的に評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い種々の感染症や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物の生態の独特な医療において何が鍵になるのか?学生との双方向に意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先進的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように克服しているのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のDivingとは何かを習得する。	月曜日16:30-18:00	長崎大学病院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
薬剤部	佐々木 均	実践! 医療薬剤学	実臨床における医薬品の使い方や、よくある問題点などを体験し学ぶ。	医薬品の配合変化を体験するTDMを経験し、薬物投与設計を行う	火 3校時	薬剤部	出席と授業態度での総合評価	
救命救急センター	田崎 修	救命医学を学ぼう!	救命医療は迅速であってはならない。本ゼミにおいては、限られた時間の中で論理的に思考し、救命疾患の診断と治療を進める救命医学の醍醐味を体験する。	臓器や診療科の枠を超えて、「救命的」診療法を学ぶ。また、救急診療の現場で、救命的治療、救急治療で必要となる技術をシミュレーションで体験する。	金曜日3校時	大学病院救命救急センター(医局(国際医療センター3階))に集合	出席や授業態度で評価する。	
先端医学センター	安武 亨	スポーツ医学概論	スポーツを通じて医学を学ぶ	運動生理学・スポーツ栄養学など	火曜日または木曜日16:30から	医学部セミナー室2など	授業参加状況、レポートなど	体育会系部活に所属する人あるいはスポーツに興味がある人で、グループ討論が出来る人を募ります。

## Practical English Skills for Third Year Medical Students

**Instructors:** Luc Loosveldt  
Jim Briganti

**Class Time :** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)  
[jbrigantit@nagasaki-u.ac.jp](mailto:jbrigantit@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

Course Objectives	
This is a continuation of the second years' English courses, but with a special focus on the language of medical research. Students will support each other's learning in class and prepare short presentations to demonstrate their comprehension of the topics introduced in class.	
Required Textbooks	
Materials will be assigned and made available in class,	
Topics	
1	Introduction to the course
2	First group meeting: establishing group roles, deciding on first topic, deciding on topic focus, presentation proposal/rubric
3	First group discussion; first presentation proposal
4	The abstract + presentation script script
5	Short presentations + Q&A practice
6	Second topic; second group discussion
7	Second report; giving feedback on each other's report
8	The abstract + presentation script + presentation practice
9	Second Short Presentation followed by Q&A
10	Third topic; second group discussion
11	Third report; giving feedback on each other's reports
12	Third Short Presentation followed by Q&A - choosing the final topic
13	Final topic - synthesizing what we learned for the final poster session
14	Final report; review posters, review scripts, practice scripts
15	Final Poster sessions
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, vocabulary quizzes, group project, written work, and written research proposals. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.	
<i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i>	

平成30年度 授業時間割 4年前期

月	日	月						火						水						木						金															
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6										
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$										
		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30										
4	2	病理各論系Ⅲ		運動系				3	公衆衛生学		薬理系Ⅲ				4	外科治療学		運動系		医学英語A				5	耳鼻咽喉口腔系		脳・神経系		医学英語B				6	医学ゼミ		医と社会Ⅳ		研究医コース		医学英語C	
	9							10							11											12	健康診断								13						
	16	視覚系		精神系				17			皮膚系				18											19									20						
	23							24							25											26	耳鼻咽喉口腔系		外科治療学						27						
	30	振替休日						1	衛生学・分子疫学						2											3	憲法記念日						4	みどりの日							
5	7			精神系				8	リサーチセミナー発表会						9	リサーチセミナー発表会										10									11	医と社会Ⅳ					
	14							15							16			精神系								17									18						
	21			運動系				22							23					脳・神経系						24	耳鼻咽喉口腔系		脳・神経系		医学英語B				25						
	28							29							30											31									1	医学ゼミ		人体構造系Ⅲ		研究医コース	
6	4	視覚系		精神系				5	衛生学・分子疫学		皮膚系				6	外科治療学		運動系		医学英語A				7									8								
	11							12							13											14									15						
	18							19							20											21									22						
	25			耳鼻咽喉				26			皮膚系TBL				27			運動系								28	運動系								29						
	2	視覚系TBL		精神系TBL		精神系		3			外科治療学				4	外科治療学TBL		運動系								5	耳鼻TBL		医と社会Ⅳ						6						
	9							10			外科治療学				11	外科治療学TBL		運動系TBL								12	公衆衛生学		医と社会Ⅳ						13						
	16	海の日						17							18							19							20												
	23							24							25							26							27												
	30	試験期間						31	試験期間						1	試験期間						2	試験期間						3	試験期間											
8	6							7							8							9							10												
	13	夏季休業						14	夏季休業						15	夏季休業						16	夏季休業						17	夏季休業											
	20							21							22							23							24												
	27							28							29							30							31												
9	3	試験期間						4	試験期間						5	試験期間						6	試験期間						7	試験期間											
	10							11							12							13							14												

平成30年度 授業時間割 4年後期

月	日	月						火						水						木						金																
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6											
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$											
		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30											
9	17	敬老の日						18	東洋医学		臨床検査医学				19											20	臨床検査		東洋医学						21	臨床検査		東洋医学				
	24	振替休日						25							26											27									28	診断学						
	1	臨床疫学・医療情報学		臨床薬理学				2	法医学系		診断学				3											4									5	臨床検査		東洋医学				
	8	体育の日						9							10							11	総合病理学		法医学系				12	診断学						13						
	15	臨床疫学・医療情報学		臨床薬理学		医と社会Ⅳ		16							17	診断学										18	臨床検査		東洋医学						19	臨床検査		東洋医学				
	22							23							24											25									26	臨床検査		診断学				
	29							30	東洋医学						31											1	総合病理学		PBL説明						2	総合病理学		PBL説明				
	5	臨床推論PBL						6	臨床推論PBL						7	臨床検査医学										8	臨床推論PBL								9	臨床推論PBL						
	12							13							14											15									16							
	19							20							21											22	CBT本試験								23	勤労感謝の日						
	26							27							28											29									30	OSCE本試験						
	3	試験期間						4	試験期間						5	試験期間						6	試験期間						7	試験期間		研究医										
	10							11							12							13							14	CBT追・再試験												
	17							18							19							20							21	OSCE追・再試験												
	24	振替休日						25	冬季休業						26	冬季休業						27	冬季休業						28	冬季休業												
	31	冬季休業						1	元日						2	冬季休業						3							4													
1	7	臨床実習入門						8	臨床実習入門						9	臨床実習入門										10	臨床実習入門								11	臨床実習入門						
	14	成人の日						15	臨床実習①						16	臨床実習①										17	臨床実習①								18	臨床実習①						
	21	臨床実習①						22							23											24	臨床実習①								25	臨床実習①						
	28	臨床実習②						29	臨床実習②						30	臨床実習②										31	臨床実習②								1	臨床実習②						
	4							5							6											7	臨床実習②								8	臨床実習②						
	11	振替休日						12	臨床実習③						13	臨床実習③										14	臨床実習③								15	臨床実習③						
	18	臨床実習③						19							20											21	臨床実習③								22	臨床実習③						
	25	臨床実習④						26	臨床実習④						27	臨床実習④										28	臨床実習④								1	臨床実習④						
	4	臨床実習振り返り！						5							6											7									8							
	11	春季休業						12	春季休業						13	春季休業						14	春季休業						15	春季休業												
	18							19							20							21	春分の日						22	春季休業												
	25							26							27							28	春季休業						29													

# 医と社会IV

責任者	氏名 (教室)	安武 亨 (先端医育センター)		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	4年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Medical ethics and philosophy 4		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

がん患者などのターミナルケアなどの医療場面では、たびたび対応が難しい場面に遭遇する。このような状況でのがん患者などへのインフォームドコンセントの取り方及び患者や家族の心の葛藤及びケアについて学ぶ。大学病院及び地域医療におけるターミナルケアの現状及び取り組みについても学ぶ。また、コア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。臨床の現場で、医療事故を如何に防止するか安全管理に関する心構えを身に付け、かつ倫理面を認識した上での医事法制を学ぶ。また、前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深める。

## 2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
5. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握することができる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

がん患者やその家族の心の葛藤及びケアについて学ぶとともに、医師としてのがん患者やターミナルケアにおける実際の接し方を学ぶ。また大学病院及び地域医療でターミナルケアがどのように実践されているかを学ぶ。その他ターミナルケアが必要ながん患者へのインフォームドコンセントの行い方を模擬患者を使って経験する。

また、医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。さらに医師にとって重要である医療情報のITとその安全管理や医事法制について、また、倫理観、宗教観からみた死生学について学ぶ。また、地域包括ケアシステムの理解を深めるため、地域包括支援センターや訪問看護の役割等について学習する。多職種連携症例検討も行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。必要に応じて各講義で紹介する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

## 7. 教員名

安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子、北山 素（先端医育センター）、  
石井 浩二（麻酔科）、栗原 慎太郎（安全管理部）、山下 和範（救命救急センター）、  
平野 裕子（保健学科）、藤原 卓（小児歯科）、高島 英昭（リハビリテーション部）、  
永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、江崎 宏典（長崎医療センター）、  
浅野 直人（福岡大学）、福田 浩久（弁護士）、早島 理（滋賀医科大学）、  
潮谷 有二（長崎純心大学）、江田 佳子（佐々町地域包括支援センター）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	E

医と社会Ⅳ

(4年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	金	2	社会と医学・医療	保健医療のパラダイムシフトと健康観の変遷	保健学科 平野 裕子	2 講
4	13	金	2	緩和ケア	大学病院における緩和ケア	麻酔科 石井 浩二	4 講
4	20	金	2	法医学	死生学	滋賀医科大学名誉教授 早島 理	ボードインホール
4	27	金	2	医療安全	医療安全1 医療のクオリティマネジメントと安全管理	歯学部 藤原 卓	4 講
5	11	金	2	法医学	医療事故と医師の民事責任	福岡大学名誉教授 浅野 直人	ボードインホール
5	18	金	2	医療安全	医療安全2 医療の質と安全の確保	安全管理部 栗原 慎太郎	4 講
5	25	金	2	災害医療	災害医療	救命救急センター 山下 和範	4 講
7	5	木	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論(1)	リハビリテーション部 高島 英昭	4 講
7	5	木	4	リハビリテーション	リハビリテーション概論(2)	リハビリテーション部 高島 英昭	4 講
7	12	木	3	地域包括	地域包括ケアシステムと他職種連携 I	長崎純心大学 潮谷 有二	1 講
7	12	木	4	地域医療学	地域包括ケアに向けた佐々町の取り組み	佐々町地域包括支援センター 江田 佳子	1 講
7	18	水	1	法医学	法社会と医療	弁護士 福田 浩久	ボードインホール
7	18	水	2	医療安全	医療リスクマネジメント	長崎医療センター 江崎 宏典	4 講
7	19	木	3	地域包括ケア	地域包括ケアシステムと他職種連携 II	地域包括ケア教育センター	1講・視聴覚・セミナー室
7	19	木	4	地域包括ケア	地域包括ケアシステムと他職種連携 II	地域包括ケア教育センター	1講・視聴覚・セミナー室
10	15	月	5	共修	医歯薬共修	地域包括ケア教育センター	3講・4講 グローバルヘルス研究棟1F 大セミナー室
10	22	月	5	共修	医歯薬共修	地域包括ケア教育センター	3講・4講 グローバルヘルス研究棟1F 大セミナー室

# 人体構造系Ⅲ

責任者	氏名（教室）	弦本 敏行（肉眼解剖学（解剖学第二））		
	電話番号	095-819-7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00～19:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Human Body Structure 3		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

人体の構造に関する知識は、すべての臨床科目の理解・習得において必須のものである。人体構造系ⅠおよびⅡにおいては人体解剖学に関する基礎的知識を習得した。人体構造系Ⅲのねらいは、次の3点である。

- (1) 臨床科目を学習した上で、解剖学に関する知識を再確認するとともに、各臓器における様々な病態・疾患の解剖学的背景を理解すること。
- (2) 各臓器の3次元構造およびそれら相互の位置関係を理解し、各種画像診断のための臨床解剖学的知識を習得すること。
- (3) 実習対象のご遺体は例外なく、死に至るまでに多くの疾病に罹患し、また様々な治療を施されている。そのような実態を自らの目で再確認し、疾患に関する理解を深めること。

## 2. 授業到達目標

人体構造のうち内臓器をはじめとする諸構造を理解し、それらの臨床解剖学的意義を説明できること。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

胸部・腹部・骨盤・頸部等の内臓器を中心に、決められた手技に則って解剖学実習を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

- ★グラント解剖学実習 新井良八 監訳 西村書店 4,800円
  - ★ネッター解剖学アトラス 相磯貞和 訳 南江堂 10,000円
  - ★グレイ解剖学（for students） 塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン 10,000円
  - 臨床のための解剖学 佐藤達夫・坂井建雄 監訳 MEDSi 14,000円
- （★は教科書、必携）

## 5. 成績評価の方法・基準等

解剖学実習について、筆答試験を行う

- (1) 受験資格 原則として皆出席
- (2) 試験と評価 本試験と再試験

※ 本試験、再試験とも無届欠席は失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

シラバスを参考に、胸部・腹部・骨盤・頸部等の各臓器に関する解剖学的知識を再確認しておくこと。

## 7. 教員名

弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信、高村敬子（肉眼解剖分野）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

# 人体構造系Ⅲ

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	11	金	3~4	内臓系解剖実習 1	オリエンテーション 胸膜、腹膜、自然位の腹部内臓	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
5	18	金	3~4	内臓系解剖実習 2	胸膜、肺、縦隔・心臓	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
5	25	金	3~4	内臓系解剖実習 3	小腸・大腸・上腹部臓器①	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	1	金	3~4	内臓系解剖実習 4	小腸・大腸・上腹部臓器①、後 腹膜臓器（自然位での観察）、 骨盤内臓（自然位での観察）	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	8	金	3~4	内臓系解剖実習 5	骨盤内臓 頸部内臓（外観）	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	15	金	3~4	内臓系解剖実習 6	骨盤の血管・神経 レポート課題	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	22	金	3~4	内臓系解剖実習 7	鼻腔・咽頭・喉頭 レポート課題	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室
6	29	金	3~4	内臓系解剖実習 8	口腔・眼窩・耳 レポート課題、全体の復習	解剖 2・弦本、岡本、 佐伯、高村	解剖実習室

# 薬理系

責任者	氏名 (教室)	有賀 純 (医科薬理学)		
	電話番号	095-819-7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical Pharmacology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

## 2. 授業到達目標

生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。  
薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。

## 4. 教科書・教材・参考書

薬がみえる (vol. 1) 医療情報科学研究所 メディックメディア 3,600円/vol  
NEW薬理学(第7版) 編者: 田中千賀子、加藤隆一、成宮周 南江堂 8,800円  
イラストレイテッド薬理学 (原書6版) 編者: R. A. Harvey 監訳: 柳澤輝行、丸山敬 7,800円  
ハーバード大学講義テキスト: 臨床薬理学 (原書3版)  
編者: D. E. Golan、監訳: 渡邊 裕司 丸善 14,580円  
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics(12th Ed)  
編者: L. L. Brunton McGraw-Hill 20,385円

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。

## 7. 教員名

有賀 純、中川 慎介 (医科薬理学)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

## 薬理系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	3	火	3	中枢神経薬理学1	抗てんかん薬・抗不安薬	薬理・中川	1 講
4	3	火	4	中枢神経薬理学2	抗パーキンソン病薬・抗認知症薬	薬理・中川	1 講
4	10	火	3	中枢神経薬理学3	抗精神病薬	薬理・有賀	1 講
4	10	火	4	中枢神経薬理学4	抗うつ薬・気分安定薬	薬理・有賀	1 講

# 病理各論系Ⅲ

責任者	氏名（教室）	福岡 順也（病理診断科学（病理二））		
	電話番号	095-819-7055	e-mail	fukuokaj@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～17:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	4
科目英語名	Organ Pathology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

病理診断は、臨床において疾患の最終診断を決定する、重要な診断部門を担う。病理総論では、生体の基本的な防御機構や反応、及び組織の病変形成機序について学んだ。病理各論では、臨床に則した代表的疾患における病理診断のポイント、鑑別疾患について学ぶ。

## 2. 授業到達目標

具体的な疾患の病理組織変化を自らの目で確かめ、代表疾患の病理診断を行う事が出来、各疾患の持つ特徴的病変が臨床へどのように反映されるかを学び、更に治療の効果やその影響を理解する上で重要な病理学的知識を習得する。運動器および皮膚科領域の総合的理解を深めるように時間割りが組まれている。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

4年前期に第二病理で、以下の各項目の講義および実習を行う。  
講義項目：運動器および皮膚の腫瘍および非腫瘍病変の病理診断。

## 4. 教科書・教材・参考書

特に指定教科書はないが、掲げた教科書以外にも良書は多い。英語の優れたテキストも多く、読みやすいものを選ぶとよい。

<テキストブック>

- （原著）新病理学各論 菊池 浩吉 他 南山堂 12,600円
- （原著）Pathologic Basis of Disease Cotran, R. S. 他 W. B. Saunders Co 12,285円
- （訳本）ロビンス基礎病理学 Kumar, V. 他（森 亘、桶田 理喜 監訳） 廣川書店 18,900円
- （訳本）カラー版アンダーウッド病理学  
Underwood, J. C. E.（鈴木利光、森道夫 監訳） 西村書店 7,875円
- （訳本）人体病理学 Stevens, A, & Lowe, J.（石倉 浩 監訳） 南江堂 9,450円
- （訳本）ルービンカラー基本病理学 Ruben, E.（河原栄、横井豊治 監訳）  
西村書店 6,510円

<アトラス>

- （原著）病理組織の見方と鑑別診断 カラーアトラス 赤木 忠厚 他 医歯薬出版 13,650円
- （原著）組織病理アトラス 藍沢 茂雄 他（編集） 文光堂 12,600円
- （訳本）カラーアトラス基礎組織病学 Stevens, A. 他（今井大、山川光徳 監訳）  
西村書店 7,140円
- （訳本）アンダーソン病理学カラーアトラス Damjanov, I. & Linder, J.  
（山口和克 翻訳） メディカル・サイエンス・インターナショナル 12,600円

## 5. 成績評価の方法・基準等

前期末講義終了後に試験を行う。  
試験問題、解答は基本的に英語で実施。試験点に加え、出席状況とレポートの内容を加味して評価する。各領域ともに6割以上を合格点とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

病理総論で学んだ事項を十分に理解しておくこと。各論では、すべての疾患を網羅した講義は行わない。ただし、試験は講義で網羅していない範囲からも出題する。講義スライド、試験問題および解答は基本的に英語を用いる。

## 7. 教員名

小田 義直（九州大学）、二口 充（病理診断科）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

### 病理各論系Ⅲ

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	月	1	病理診断学	骨軟部腫瘍	九州大学 小田義直	2講
4	2	月	2	病理診断学	骨軟部腫瘍	九州大学 小田義直	2講
4	9	月	1	病理診断学	転移性骨腫瘍	病理診断科 二口	C B T室
4	9	月	2	病理診断学	皮膚病理	病理診断科 二口	C B T室

# 精神系

責任者	氏名（教室）	小澤 寛樹（精神神経学（精神神経科学））		
	電話番号	095-819-7293	e-mail	ozawa07@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 12:00～13:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Neuropsychiatry		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

精神と行動の障害として表現される精神疾患の症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて理解する。精神疾患（精神障害）を、分子レベルから、神経系・内分泌系・免疫系・循環系が交錯する脳、個体、家族、社会、文化、倫理などの多次元の病理が個人の精神と行動の障害として現れたものとして理解し説明するために自主性を持って学習する。さらに、精神疾患に対する治療とケアを通して、多様な思考力や想像力を養う。

## 2. 授業到達目標

精神疾患に罹患した人々の内的苦悩を実感できる。  
精神疾患の病態と成因、治療・ケアの基本的な理解ができる。  
こころと行動の理解を目指す諸科学のめざましい発展の実状を理解する。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

精神障害の成り立ちや治療を理解する上での精神医学全般に関する知識の提供。精神医学分野でのbio-psycho-social-ethicalといった多軸的な観点を養う。

## 4. 教科書・教材・参考書

標準精神医学 野村総一郎、樋口輝彦 医学書院 6,500円  
現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版 7,500円  
精神医学 大月三郎 文光堂 7,200円  
シネマサイキアトリー 映画からみる精神医学 小澤寛樹 中外医学社 4,968円  
おとなの発達症のための医療系支援のヒント 今村明 星和書店 3,024円

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査（筆記試験）80%、レポート20点、合計100点とし、60点以上を合格とする。なお、全授業数（22コマ）への出席において、14回に満たないものは試験の受験資格を失う。

## 6. 事前・事後学修の内容

特に事前の学修は求めないが、事後は確実に理解し記憶すること。

## 7. 教員名

小澤寛樹、今村明、木下裕久、金替伸治、松坂雄亮、山口尚宏（精神科）、中根秀之、肥田裕久、岡崎祐士、高橋克朗、小野慎治（非常勤講師）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

精神系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	16	月	3	精神医学入門	歴史、主な理論・分野	小澤	3講
4	16	月	4	精神疾患の分類と診断 /精神症候学	分類概念、分類体系、診断基準、 治療模擬患者VTR、精神病症状、 感情障害症状	非常勤・中根	3講
4	23	月	3	症状評価・検査法	面接法、評価尺度、生理学検査 (脳波など)、脳画像検査、 心理検査(投影法、非投影法など)	松坂	3講
4	23	月	4	精神療法・摂食障害	精神分析、摂食障害	松坂	3講
5	7	月	3	気分障害の病態生理と治療①	脳形態、精神生理、心理学、 生化学、薬物療法	小澤	3講
5	7	月	4	気分障害の病態生理と治療②	脳形態、精神生理、心理学、 生化学、薬物療法	小澤	3講
5	14	月	3	認知症の症候学、疫学、病態、治 療、ケア	症候学、病態、疫学、薬物療法、 非薬物療法	木下	3講
5	14	月	4	パーソナリティ障害、生理機能の 障害	パーソナリティ障害の概念史、 分類、診断基準、睡眠障害	山口	3講
5	16	水	3	「ひだクリニック」の活動①	ユーザーによる社会的行動	非常勤・肥田	3講
5	16	水	4	「ひだクリニック」の活動②	ユーザーによる社会的行動	非常勤・肥田	3講
5	28	月	3	統合失調症の症状と治療	精神薬理学、早期介入、薬物療法	木下	3講
5	28	月	4	統合失調症の病態生理と成因	脳形態、精神生理、心理学、遺伝疫 学、分子遺伝学	非常勤・岡崎	3講
6	4	月	3	器質性・症状性精神障害	概説、対象疾患、せん妄、身体疾患 に伴う精神障害、症状精神病の概説	木下	3講
6	4	月	4	司法精神医学	精神保健福祉法、触法精神障害、精 神鑑定	金替	3講
6	11	月	3	精神作用物質性障害	アルコール&薬物関連精神障害、急性 中毒、依存症候群(モルヒネ、アン フェタミン、大麻など)	山口	3講
6	11	月	4	神経症性障害	神経症の全般的説明、強迫性障害、 パニック障害、全般性不安障害	非常勤・高橋	3講
6	18	月	3	小児・思春期における精神障害①	自閉症スペクトラム障害、注意欠 陥・多動性障害、退局性学習症	今村	4講
6	18	月	4	小児・思春期における精神障害②	児童虐待トラウマ、その他	今村	4講
6	20	水	3	リエゾン・コンサルテーション精 神医学	概説、対象疾患、せん妄、チーム医 療の概説	木下	4講
6	20	水	4	精神医学における今日のニューロ サイエンス	精神障害のニューロサイエンスの最 近の研究から	非常勤・小野	4講
7	2	月	3	災害精神医学	トラウマの概念、PTSDの疫学、介 入、治療	木下	4講
7	9	月	3	TBL		松坂	4講
7	9	月	4	TBL		松坂	4講
7	9	月	5	まとめ	まとめ	今村	4講

# 脳・神経系

責任者	氏名 (教室)	川上 純 (内科学第一)		
	電話番号	095-819-7262	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Diseases of Nervous System		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

人間の脳・神経系は巧みに構築された高次構造・ネットワークによって機能している。神経疾患は、種々の原因（先天異常・遺伝子異常・感染症・炎症・外傷・血管障害・腫瘍・脱髄・変性・免疫異常など）に基づいたこれらの異常によって生じてくる。脳・神経系は中枢神経・末梢神経・神経筋接合部・筋に分けられるが、それらの場において、多種多彩な病因・病態が存在する。

## 2. 授業到達目標

神経学に必要な基礎的領域をもとに、神経疾患をSystematicに学ぶことができる。脳・神経系疾患では、症状と経過を問診により詳細に把握すること、神経学的診察を行い、責任病巣を正確にとらえることにより、よりの確な病因的診断に結びつく。本講義により、そのプロセスを学ぶことができる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

全51時間のうち、神経内科学18、脳神経外科学15、小児神経学9、整形外科6、精神神経学3時間から、構成されている。まず、神経学総論は、解剖学・生理学などの基礎的知識をもとに全ての神経系を網羅し、主として神経内科学が担当して行われる。加えて小児神経学の立場から、発達神経学の基礎知識の修得、精神神経学より知能についての講義が行われる。更に、神経診断学を含めた神経学的検査法が、神経内科学、脳神経外科学的立場より講義される。神経学各論では、個々の機能的、器質的疾患に関して、神経内科、脳神経外科、小児神経、整形外科、精神神経科学的領域よりそれぞれ講義される。

## 4. 教科書・教材・参考書

神経内科ハンドブック 水野美邦 医学書院 14,500 円

Pediatric Neurology Swaiman Mosby

標準整形外科 広畑 和志 他 医学書院 8,700 円

ニュースタンダード脳神経外科学 生塩之敬、種子田護、山田和雄 三輪書店 7,350 円

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査により判定する。

各分野を総合し、60%以上を合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

教科書、LACS資料などを参照し、予習復習を行うこと

## 7. 教員名

辻野 彰、白石 裕一、立石 洋平、宮崎 禎一郎、吉村 俊祐（脳神経内科）、  
本村 政勝、木下 郁夫、藤本 武士（非常勤講師）、佐藤 克也（保健学科）、  
松尾 孝之、案田 岳夫、角田 圭司、鎌田 健作、出雲 剛、堀江 信貴、  
吉田 光一、氏福 健太（脳神経外科）、  
田淵 和雄、戸田 啓介（非常勤講師）、  
里 龍晴（小児科）、梶山 史郎、田上 敦士（整形外科）、  
木下 裕久、松坂 雄亮（精神神経科）

## 8. 備考

講義ごとに学習テーマを呈示する。

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

脳・神経系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	木	3	神経学総論	脳・神経系の構成と機能局在	脳神経内科・辻野	3講
4	5	木	4	神経学総論	神経症候学と神経学的検査	脳神経内科・辻野	3講
4	6	金	3	神経内科学各論	神経変性疾患	脳神経内科・白石	3講
4	6	金	4	神経内科学各論	パーキンソン病	脳神経内科・白石	3講
4	12	木	3	神経内科学各論	てんかん、代謝性・中毒性疾患	脳神経内科・宮崎	3講
4	12	木	4	神経内科学各論	脱随性疾患とHAM	脳神経内科・吉村	3講
4	13	金	3	神経内科学各論	重症筋無力症とLambert-Eaton筋無力症候群	非常勤・本村	3講
4	13	金	4	神経内科学各論	筋疾患	脳神経内科・白石	3講
4	19	木	3	神経内科学各論	髄膜炎・脳炎とCJD	保健学科・佐藤	4講
4	19	木	4	神経内科学各論	頭痛・めまい	非常勤・木下	4講
4	20	金	3	神経内科学各論	虚血性脳血管障害	脳神経内科・立石	4講
4	20	金	4	脳神経外科総論	脳神経診療における脳神経外科の役割	脳神経外科・松尾	4講
4	27	金	3	脳腫瘍③	脳実質外腫瘍	脳神経外科・鎌田	4講
4	27	金	4	神経内科学各論	末梢神経障害	非常勤・藤本	4講
5	10	木	3	脳腫瘍②	小児脳腫瘍、転移性脳腫瘍	脳神経外科・吉田	4講
5	10	木	4	脳神経外科概論	脳科学と脳外科臨床のかかわり	非常勤・田淵	4講
5	17	木	3	脳腫瘍①	脳実質内腫瘍	脳神経外科・氏福	3講
5	17	木	4	頭部外傷	頭部外傷一般	脳神経外科・案田	3講
5	23	水	3	脳血管障害①	出血性脳血管障害	脳神経外科・出雲	3講
5	23	水	4	脳血管障害②	虚血性脳血管障害	脳神経外科・堀江	3講
5	24	木	3	てんかん (a)	てんかんの外科的治療	非常勤・戸田	3講
5	24	木	4	休講			3講
5	30	水	3	休講			3講
5	30	水	4	休講			3講
5	31	木	3	脊椎脊髄・小児	脊椎脊髄外科・小児脳神経外科	脳神経外科・角田	3講
5	31	木	4	休講			3講
6	7	木	3	小児神経各論①	小児てんかんの診断・治療	里 龍晴	3講
6	7	木	4	小児神経各論①～②	小児てんかんの診断治療と基礎疾患	里 龍晴	3講
6	14	木	3	脊椎・脊髄疾患	脊髄の生理・解剖	整形外科・田上	4講
6	14	木	4	脊椎・脊髄疾患	頸椎, 頸髄疾患 胸椎, 胸髄疾患	整形外科・田上	4講
6	21	木	3	小児神経各論②	小児の急性脳症	里 龍晴	4講
6	21	木	4	小児神経各論②	小児脳変性疾患	里 龍晴	4講
6	28	木	3	てんかん (b)	遅発性 (非小児期) 発症てんかん てんかんと精神症状	精神科・木下	4講

# 脳・神経系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	28	木	4	知能低下	知能の定義・測定法・因子構成 知能低下の諸様相	精神科・松坂	4 講
7	6	金	3	小児発達総論	神経系の発達と精神運動機能 小児神経学的診察	里 龍晴	4 講
7	6	金	4	小児発達各論	フロッピーインファント	里 龍晴	4 講
7	13	金	3	脊椎・脊髄疾患	腰椎疾患	整形外科・田上	4 講
7	13	金	4	筋疾患・麻痺性疾患/ 末梢神経(b)	筋疾患，麻痺性疾患の診断と治療 末梢神経の解剖，生理とその診断 治療	整形外科・梶山	4 講
7	20	金	3	T B L		脳神経内科・白石	4 講
7	20	金	4	T B L		脳神経内科・白石	4 講

# 皮膚系

責任者	氏名 (教室)	竹中 基 (皮膚科学 (皮膚病態学))		
	電話番号	095-819-7331	e-mail	m-take@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00~17:00 ※必ず事前にアポイントを取ること		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Dermatology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

皮膚病変は実際に目で見る事が出来る病変であり、生検も容易に行える点が特異といえる。しかし皮膚病変の原因は無数にあり、診断名も煩雑であることが理解されにくい一因であろう。この系では、臨床医に必要な皮膚疾患の概説を行うが、単なる暗記ではなく、皮膚の構造と状態を理解し、病変を見た場合の診断の仕方を、(1)皮疹の見方、(2)病理所見、(3)病因、(4)病態などを把握しながら学んでほしい。

また、「皮膚は内臓の鏡」ともいわれ、思わぬ内臓疾患が判明することもある。皮膚病変の位置づけを全身疾患との関連性の面でも理解してほしい。

## 2. 授業到達目標

発疹学が説明できるようになり、多彩な皮膚病変を分類することができ、その症状、発生病理を説明できること。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

全20時間の講義は、皮膚科と形成外科からなる。講義は皮膚の解剖、生理、病理、診断に始まり、皮膚科からは各種皮膚疾患の講義を、形成外科より形態異常、熱傷、瘢痕及びケロイド、皮膚潰瘍などの講義を行い、皮膚と内臓病変、治療をもって終了とする。詳細は講義日程を参照のこと。

## 4. 教科書・教材・参考書

要点はLACSに掲載するが、全てはカバーできないため、参考書はぜひ一冊持ってほしい。

<皮膚科、病理>

あたらしい皮膚科学 第3版 清水 宏 著 中山書店 8,424円

皮膚科学 改訂10版 大塚 藤男 著 金芳堂 13,500円

<形成外科>

標準形成外科学 第6版 平林 慎一、鈴木 茂彦 編集 医学書院 6,090円

TEXT形成外科 第3版 波利井 清紀 監修 南山堂 6,480円

## 5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に筆記試験を行う。各科の時間数に応じて配点を割り当て、総計100点として評価する。60点以上を合格とするが、60点以上であっても各分野での得点が40点に満たない時は不合格となることもある。また、評価には出席率も考慮する。

## 6. 事前・事後学修の内容

上記参考資料で、当該部分を一読しておくこと。

## 7. 教員名

竹中 基、原 肇秀、富村沙織、鍛塚 大、小池雄太、鍛塚さやか (皮膚科)、  
田中克己、吉本 浩、大石正雄、今村禎伸 (形成外科)、宿輪哲生 (非常勤講師)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

## 皮膚系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	17	火	3	特論 1	皮膚科治療法	皮膚科・原	3 講
4	17	火	4	皮膚科概括講義	総論 1 : 皮膚病理組織学	皮膚科・未定	3 講
4	24	火	3	形成外科概論、組織移植	形成概論、組織移植、人工医用材料	形成外科・田中	3 講
4	24	火	4	皮膚科概括講義	各論 1 : 紅斑・血管炎・膠原病	皮膚科・原	3 講
5	1	火	3	皮膚科概括講義	総論 2 : 皮膚の構造と機能、湿疹・蕁麻疹	皮膚科・竹中	4 講
5	1	火	4	皮膚科概括講義	各論 2 : 紫外線皮膚障害	皮膚科・富村	4 講
5	15	火	3	皮膚科概括講義	各論 3 : 乾癬、角化症など	皮膚科・小池	3 講
5	15	火	4	皮膚科概括講義	各論 4 : ウィルス感染症など	皮膚科・鉄塚さやか	3 講
5	22	火	3	物理的皮膚損傷	熱傷・化学損傷	形成外科・今村	3 講
5	22	火	4	特論 2	毛髪・爪の異常、汗腺性疾患、脂腺系疾患	非常勤・宿輪	3 講
5	29	火	3	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、慢性創傷	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、褥瘡・難治性潰瘍	形成外科・吉本	3 講
5	29	火	4	特論 3	細菌・真菌による皮膚感染症、虫などによる皮膚炎	皮膚科・竹中	3 講
6	5	火	3	皮膚形成の基礎	皮膚縫合法、植皮・各種皮弁、Z形成術	形成外科・大石	4 講
6	5	火	4	皮膚科概括講義	各論 5 : 水疱症・膿疱症	皮膚科・富村	4 講
6	12	火	3	特論 4	皮膚良性腫瘍	皮膚科・鉄塚 大	4 講
6	12	火	4	特論 5	母斑・色素異常症	皮膚科・鉄塚さやか	4 講
6	19	火	3	特論 6	皮膚悪性腫瘍	皮膚科・鉄塚 大	3 講
6	19	火	4	特論 7	真皮結合組織異常	皮膚科・未定	3 講
6	26	火	3	特論 8	薬疹	皮膚科・竹中	3 講
6	26	火	4	特論 9	皮膚リンパ腫及び関連疾患	皮膚科・小池	3 講
7	3	火	3	T B L		皮膚科・未定	4 講
7	3	火	4	T B L		皮膚科・未定	4 講

# 運動系

責任者	氏名 (教室)	尾崎 誠 (整形外科 (構造病態整形外科))		
	電話番号	095-819-7321	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00~18:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

## 2. 授業到達目標

運動器疾患の基礎となる骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造を理解する。種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法を理解する。急性疾患における適切な救急処置を理解する。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

主にプリントとスライドによる講義である。

## 4. 教科書・教材・参考書

標準整形外科学 中村 利孝・内田 淳正ほか 医学書院 9,870円  
 整形外科サブノート 東 博彦 ほか 南江堂 5,460円  
 標準形成外科学 第5版 秦 維郎・野崎 幹弘 編集 医学書院 7,140円  
 TEXT 形成外科学 第2版 波利井 清紀 監修 南山堂 6,300円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験 (出題範囲は講義内容と上記教科書)。  
 評価には出席日数を考慮する。

## 6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

## 7. 教員名

尾崎 誠、宮本 俊之、田口 憲士、梶山 史郎、松林 昌平、野村 賢太郎、辻本 律、岡崎 成弘、千葉 恒、津田 圭一、安達 信二、米倉 暁彦、木寺 健一、志田 崇之、富田 雅人 (整形外科)、田中 克己 (形成外科)、矢野 浩規 (形成外科)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

# 運動系

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	月	3	運動系総論(1)	総論、歴史	整形・尾崎	3講
4	2	月	4	運動系総論(2)	骨・軟骨の生理と病理	整形・野村	3講
4	4	水	3	運動系総論(3)	診断学	整形・小林	3講
4	4	水	4	運動系総論(4)	治療学	整形・辻本	3講
4	9	月	3	骨・関節の外傷(1)	外傷総論	整形・宮本	3講
4	9	月	4	骨・関節の外傷(2)	外傷各論(上肢)	整形・田口	3講
4	11	水	3	骨・関節の外傷(3)	外傷各論(下肢)	整形・土居	4講
4	11	水	4	上肢の疾患(1)	肘・手関節疾患	整形・辻本	4講
4	18	水	3	脊椎(1)	脊椎総論	整形・安達	4講
4	18	水	4	腫瘍性疾患(1)	骨軟部腫瘍総論	整形・富田	4講
4	25	水	3	下肢の疾患(1)	膝関節・足関節・足趾	整形・米倉	4講
4	25	水	4	リハビリ(1)	リハビリ(総論)	保健学科・小関	4講
5	2	水	3	リハビリ(2)	リハビリ(各論1)	整形・松林	4講
5	2	水	4	リハビリ(3)	リハビリ(各論2)	整形・松林	4講
5	21	月	3	上肢の疾患(2)	肩関節疾患	整形・梶山	3講
5	21	月	4	顔面外傷	顔面外傷総論；軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成外科・矢野	3講
6	6	水	3	腫瘍性疾患(2)	良性骨軟部腫瘍	整形・野村	4講
6	6	水	4	腫瘍性疾患(3)	悪性骨軟部腫瘍	整形・野村	4講
6	13	水	3	脊椎(1)	脊椎各論(A)	整形・津田	4講
6	13	水	4	脊椎(2)	脊椎各論(B)	整形・津田	4講
6	27	水	3	下肢の疾患(2)	股関節(成人)(総論)	整形・志田	4講
6	27	水	4	手の外傷	手の機能解剖と診断・治療	形成外科・田中	4講
6	28	木	1	下肢の疾患(3)	小児股関節疾患	整形・松林	3講
6	28	木	2	下肢の疾患(4)	股関節(成人)(各論)	整形・木寺	3講
7	4	水	3	脊椎(4)	脊椎外傷	整形・安達	4講
7	4	水	4	炎症性疾患(1)	骨・関節の感染症	整形・岡崎	4講
7	11	水	3	炎症性疾患(2)	関節リウマチ	整形・千葉	4講
7	11	水	4	炎症性疾患(3)	リウマチ類似疾患	整形・千葉	4講
7	18	水	3	TBL		整形・山田	4講
7	18	水	4	TBL		整形・山田	4講

# 視覚系

責任者	氏名 (教室)	北岡 隆 (眼科学 (眼科・視覚科学) )		
	電話番号	095-819-7344	e-mail	tkitaoka@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 18:00～19:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Ophthalmology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

外界からの情報の80%以上は視覚を通して得られ、「失明宣告」は「死の宣告」にも匹敵する。本授業ではこの重要な感覚器である眼と付属器を基礎医学の知識をもとに体系づけて学習し、眼科学と他臓器疾患との関連性を理解していく。

具体的には、視覚器の構造と機能を学習し、視覚を脅かす疾患について理解を深めるとともに、眼科特有の検査および視機能を回復させる眼科治療を学ぶ。

## 2. 授業到達目標

眼科学の基本を体系的に学び、他臓器疾患との関連性を理解する。

すべての医師にとって必要な眼科領域の知識を習得し、糖尿病・高血圧などの全身疾患から生じる眼合併症の重要性を認識する。また眼科疾患とわからずに内科・総合診療科等を受診し、見逃される可能性の高い眼科疾患についても鑑別できることを目標とする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義内容：眼と付属器の解剖および生理、視機能とその検査、眼瞼疾患、涙器疾患、結膜疾患、角膜疾患。ぶどう膜炎疾患、水晶体疾患、網膜硝子体疾患、緑内障、視神経・視路疾患、視覚期の発生・小児の視機能とその発達・斜視弱視、外眼筋疾患、眼窩疾患、全身病 (循環器疾患、糖尿病、先天代謝異常、血液疾患、悪性腫瘍、内分泌疾患、ビタミン欠乏、皮膚疾患、膠原病、感染症、医原性疾患・中毒・薬剤副作用、染色体異常、未熟児網膜症、筋・骨・結合織疾患、その他) と眼、外傷、眼科救急疾患

思考過程を重視し、考える講義にする。スライドおよび実際の眼科診療機材を提示し、視覚的アプローチを重視した講義を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

Vaughan & Asbury's General Ophthalmology. 18th Ed.

Paul Riordan-Eva, Emmett T. Cunningham Jr. McGraw-Hill Medical Publishing  
約12,000円

Clinical Ophthalmology: A Systematic Approach 7th Ed. Jack J. Kanski

Butterworth-Heinemann Medical 約33,000円

標準眼科学 第13版 木下 茂 (監)、中澤 満、村上 晶 (編) 医学書院 約7,600円

現代の眼科学 改訂第13版 所 敬 (監)、吉田晃敏、谷原秀信 (編) 金原出版 約7,800円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験にて可否を判定するが、出席状況も加味し、60点以上を合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

眼球および付属器に関して、今までに学んできた知識をもって授業に臨むこと。

## 7. 教員名

北岡 隆、隈上武志、上松聖典、築城英子、松本牧子、木下博文、草野真央、梶山彩乃、山田義久、前川有紀 (眼科)、山之内宏一 (思案橋ツダ眼科)、嵩 義則 (ダケ眼科)、今村直樹 (南長崎ツダ眼科)、三島一晃 (三島眼科)、直井信久 (宮崎大学)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 視覚系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	16	月	1	眼科総論	眼の構造・機能	眼科・北岡	3講
4	16	月	2	眼科総論	眼科検査Ⅰ	眼科・北岡	3講
4	23	月	1	眼科総論	眼科検査Ⅱ	眼科・北岡	3講
4	23	月	2	眼科総論	眼科症候学	眼科・隈上	3講
5	7	月	1	発生	発生・奇形	眼科・上松	3講
5	7	月	2	発達・眼位	斜視・弱視	眼科・上松	3講
5	14	月	1	中間透光体	水晶体	眼科・木下	3講
5	14	月	2	網膜	網膜色素変性と網膜電図	非常勤・直井	3講
5	21	月	1	眼底	黄斑疾患	眼科・前川	3講
5	21	月	2	眼底	網膜循環障害	眼科・築城	3講
5	28	月	1	前眼部	角膜・涙液	非常勤・今村	3講
5	28	月	2	神経眼科	神経眼科	眼科・松本	3講
6	4	月	1	緑内障	緑内障Ⅰ	非常勤・嵩	3講
6	4	月	2	緑内障	緑内障Ⅱ	眼科・隈上	3講
6	11	月	1	眼窩・神経眼科	眼窩疾患	非常勤・三島	3講
6	11	月	2	網膜	網膜疾患	眼科・築城	3講
6	18	月	1	救急	眼科救急と外傷	眼科・草野	3講
6	18	月	2	前眼部	眼瞼・結膜・涙道	眼科・梶山	3講
6	25	月	1	遺伝	全身疾患・遺伝と眼疾患	眼科・山田	3講
6	25	月	2	ぶどう膜	ぶどう膜炎	眼科・山田	3講
7	2	月	1	リハビリテーション	ロービジョンケア	非常勤・山之内	3講
7	2	月	2	全身疾患と眼	糖尿病網膜症	眼科・松本	3講
7	9	月	1	TBL	未定	眼科・北岡	4講
7	9	月	2	TBL	未定	眼科・北岡	4講

# 耳鼻咽喉口腔系

責任者	氏名 (教室)	金子 賢一 (耳鼻咽喉・頭頸部外科学 (展開医療科学講座))		
	電話番号	095-819-7349	e-mail	kkaneko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:30~19:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Otorhinolaryngology—Head and Neck Surgery		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

感覚器を中心とした耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の基礎を学び、検査、診断、治療法を理解する。また救急処置の基本を学び、併せて全身ないしは環境と耳鼻咽喉科領域の関連について学習をする。

## 2. 授業到達目標

耳科学、平衡神経学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部外科学、耳鼻咽喉科救急医学について学び、臨床実習および医師国家試験、さらに卒後臨床研修においても応用ができる知識の定着を目標とする。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義は4年次前期より始まる。耳科学、平衡神経学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部外科学、耳鼻咽喉科救急医学に分類される。

## 4. 教科書・教材・参考書

STEP 耳鼻咽喉科学 第3版 渡辺建介、高橋茂樹 海馬書房 4,428円  
新耳鼻咽喉科学 改訂11版 野村 恭也、加我 君孝 南山堂 17,280円

## 5. 成績評価の方法・基準等

講義内容について、筆記試験にて60点以上を合格とする。  
講義は出欠をとり、出席状況が試験の採点に反映される。

## 6. 事前・事後学修の内容

事前学習としては頭頸部領域の解剖と生理、特に聴覚・平衡覚の生理の予習を推奨する。  
事後学習としては講義内容をレジュメとともに俯瞰し、内容を理解するように努める。実践で使える知識に代える努力をしてほしい。

## 7. 教員名

金子賢一、陣内進也、渡邊 毅、原 稔、木原千春、北岡杏子、坂口功一、佐藤智生 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、高橋晴雄 (長崎みなとメディカルセンター)、重野浩一郎 (重野耳鼻咽喉科)、隈上秀高 (長崎原爆病院)、神田幸彦 (神田E・N・T医院)、田中藤信 (長崎医療センター)、宮崎総一郎 (中部大学)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

# 耳鼻咽喉口腔系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	木	1	耳科学	聴器の解剖・生理	耳鼻咽喉科・木原	3講
4	5	木	2	耳科学	聴力検査	耳鼻咽喉科・北岡	3講
4	12	木	1	耳科学	耳の疾患 (1)	耳鼻咽喉科・原	3講
4	12	木	2	耳科学	耳の疾患 (2)	耳鼻咽喉科・原	3講
4	26	木	1	耳科学	耳の手術	非常勤・高橋	3講
4	26	木	2	耳科学	補聴器と先天性難聴	非常勤・神田	3講
5	10	木	1	神経耳科学	頭頸部領域の脳神経	耳鼻咽喉科・木原	3講
5	10	木	2	耳科学	人工内耳	耳鼻咽喉科・原	3講
5	17	木	1	口腔・咽頭科学 (嚥下医学)	嚥下の生理と障害	非常勤・田中	3講
5	17	木	2	口腔・咽頭科学 (嚥下医学)	嚥下リハビリと手術	非常勤・田中	3講
5	24	木	1	平衡神経学 (神経耳科学)	めまいの診断・平衡機能検査	非常勤・重野	3講
5	24	木	2	平衡神経学 (神経耳科学)	めまい疾患各論	非常勤・隈上	3講
5	31	木	1	救急医学	耳鼻咽喉科の救急疾患	耳鼻咽喉科・坂口	2講
5	31	木	2	頭頸部解剖学	側頭骨・頭蓋底	耳鼻咽喉科・佐藤	2講
6	7	木	1	喉頭科学	喉頭の解剖と生理	耳鼻咽喉科・金子	3講
6	7	木	2	喉頭科学	喉頭疾患・音声外科	耳鼻咽喉科・金子	3講
6	14	木	2	頭頸部外科学	頭頸部腫瘍 (1)	耳鼻咽喉科・陣内	3講
6	21	木	1	口腔咽頭学(睡眠医学)	耳鼻咽喉科に関連した睡眠学	非常勤・宮崎	3講
6	21	木	2	頭頸部外科学	頭頸部腫瘍 (2)	耳鼻咽喉科・陣内	3講
6	25	月	3	鼻科学	鼻・副鼻腔の解剖と生理	耳鼻咽喉科・渡邊	4講
6	25	月	4	鼻科学	鼻・副鼻腔疾患各論	耳鼻咽喉科・渡邊	4講
7	2	月	4	口腔・咽頭科学	口腔・咽頭の解剖・生理と疾患	耳鼻咽喉科・渡邊	4講
7	5	木	1	TBL		耳鼻咽喉科・北岡	4講
7	5	木	2	TBL		耳鼻咽喉科・北岡	4講

# 衛生学・分子疫学

責任者	氏名 (教室)	西田 教行 (感染分子解析学)		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30~18:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Hygiene and Epidemiology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

集団のレベルで疾病の原因と予防を究明する学問である疫学の基本とその考え方をとくに感染症(疫病)の疫学を通して習得する。

## 2. 授業到達目標

- ①有病率と罹患率を間違えずに使える。
- ②疫学でいうリスクとは何か、対照群の存在を意識して、表現および討議することができる。
- ③標本に伴う誤差を評価できるようになる。
- ④疫学的研究法について理解を深め、バイアスとその制御を評価できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

授業は社会医学の領域から以下の項目について専門家の講義をオムニバス式で行う

- (1) 疫学の基礎
- (2) 疫学の実践
- (3) 衛生学
- (4) 公衆衛生学
- (5) 法医学 (医事法制)
- (6) 臨床試験、倫理

## 4. 教科書・教材・参考書

「基礎から学ぶ楽しい疫学」改訂第三版 中村好一 著 (医学書院) 3000円+税

「疫学 医学的研究と実践のサイエンス」 Leon Gordis, 訳 木原正博・木原雅子・加治正行  
メディカルサイエンスインターナショナル5600円+税

## 5. 成績評価の方法・基準等

4年前期試験期間に行う定期考査70%、課題レポート30%とし、総合得点の60点以上を合格とする。なお、法医学領域の評価は別途実施する。

## 6. 事前・事後学修の内容

Epidemics rarely announce themselves; neither does this epidemiology course. This does not mean that no preparation is necessary. On the contrary, those who do not prepare will suffer. The textbook is your savior if not the Bible. To keep one copy to your name is strongly recommended. To follow this recommendation or not is at your own risk, however.

## 7. 教員名

福島 千鶴、佐藤 俊太郎 (臨床研究センター)、佐藤 克也 (保健学科)、  
宮崎 泰司 (血液内科)、前田 隆浩 (総合診療科)、三浦 清徳 (産婦人科)、  
堀口 逸子 (東京事務所)、高村 昇 (原研国際)、池松 和哉 (法医学)、  
本田 純久 (保健学科)、  
朴 成桓 (高麗大学校)、中村 好一 (自治医科大)、砂川 富正 (国立感染研)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

# 衛生学・分子疫学

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	1	火	1	疫学概論	疫学の楽しさ (1)	自治医科大 中村好一	1 講
5	1	火	2	疫学概論	疫学の楽しさ (2)	自治医科大 中村好一	1 講
5	15	火	1	疫学	死因、疾病統計	保健学科 本田純久	1 講
5	15	火	2	疫学	人口統計	保健学科 本田純久	1 講
5	22	火	1	疫学	感染症法とサーベイランス	国立感染研 砂川富正	2 講
5	22	火	2	疫学	予防接種政策	国立感染研 砂川富正	2 講
5	29	火	1	臨床研究概論	研究倫理と臨床試験	臨床研究センター 福島千鶴	1 講
5	29	火	2	臨床研究方法論	ケースコントロールスタディ、 コホート研究など	臨床研究センター 佐藤俊太郎	1 講
6	5	火	1	実践から学ぶ臨床研究	希少疾患検査の妥当性と信頼性研究	保健学科 佐藤克也	1 講
6	5	火	2	実践から学ぶ臨床研究	治療法 (予後) を評価する	血液内科 宮崎泰司	1 講
6	12	火	1	実践から学ぶ臨床研究	地域疫学研究の実践例	総合診療 前田隆浩	1 講
6	12	火	2	実践から学ぶ臨床研究	長崎でのHTLV-1 母子感染防止事業	産婦人科 三浦清徳	1 講
6	19	火	1	衛生学	国民栄養	東京事務所 堀口逸子	1 講
6	19	火	2	衛生学	食の安全	東京事務所 堀口逸子	1 講
6	26	火	1	公衆衛生学総論	国際保健 1	原研国際 高村 昇	1 講
6	26	火	2	公衆衛生学総論	国際保健 2	原研国際 高村 昇	1 講
7	3	火	1	法医学	医事法制 (1)	法医学 池松和哉	1 講
7	3	火	2	法医学	医事法制 (2)	法医学 池松和哉	1 講
7	10	火	1	法医学	医事法制 (3)	法医学 池松和哉	1 講
7	10	火	2	法医学	死亡診断書の書き方	法医学 池松和哉	1 講

# 公衆衛生学

責任者	氏名（教室）	青柳 潔（公衆衛生学）		
	電話番号	095-819-7065	e-mail	kiyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・火・水曜日 12:00～13:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Medical Care & Public Health		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

この科目は衛生学及び公衆衛生学を主体とした社会医学に関する教育を体系化したものである。人間が生物的・社会的存在であるとの理解の上に、その健康擁護（Health Care）を図るのが社会医学の基本的立場である。本科目の講義を通じて人々の健康像・疾病像が生活環境や保健医療システムに大きく関わっていること、および地域あるいは職域の保健医療等の知識を得る。

## 2. 授業到達目標

社会・環境と健康、生活習慣と疾病、保健・医療・福祉と介護の制度を説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

講義及び実習を行う。講義は4年前期に行われる。実習は5年期の臨床実習期間内に離島において行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

教科書は特に指定しない。必要に応じプリントを配布する。

＜参考書＞

シンプル衛生公衆衛生学 鈴木 庄亮、久道 茂 監修 南江堂

臨床疫学 EBM実践のための必須知識 福井 次矢 監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル

厚生指針「国民衛生の動向」 厚生統計協会

## 5. 成績評価の方法・基準等

4年前期試験期間に筆答試験を行う。60点以上を講義分の合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

参考書等で予習・復習を行うこと

## 7. 教員名

青柳潔、安部恵代、有馬和彦、西村貴孝、富田義人（公衆衛生学）、前田隆浩（地域医療学）、赤星衣美（病院・看護部）、堀口逸子（広報戦略本部）、草野洋介、今井秀樹、實森千香子（非常勤講師）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

公衆衛生学

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	3	火	1	保健・医療・福祉	社会保障制度	公衆衛生・青柳	2 講
4	3	火	2	保健・医療・福祉	障害と社会、障害者福祉	公衆衛生・富田	2 講
4	10	火	1	保健・医療・福祉	医療保険・公費医療・医療経済	公衆衛生・西村	3 講
4	10	火	2	学校保健	学校保健安全法、保健管理	公衆衛生・有馬	3 講
4	17	火	1	予防医学・健康増進	健康日本21、健康増進法、プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、行動変容	非常勤・草野	3 講
4	17	火	2	母子保健	現状、母子保健、母体保護、児童虐待防止	看護部・赤星	3 講
4	24	火	1	環境保健	環境保全、公害、廃棄物処理	非常勤・今井	3 講
4	24	火	2	環境保健	内分泌攪乱物質・環境モニタリング	非常勤・今井	3 講
6	1	金	2	産業保健	労働衛生行政、労働安全衛生法、産業医	公衆衛生・青柳	3 講
6	8	金	2	産業保健	労働衛生管理、労働災害	公衆衛生・青柳	2 講
6	15	金	2	保健・医療・福祉	高齢者の現状・高齢者医療確保法	公衆衛生・安部	2 講
6	22	金	2	保健・医療・福祉	保健所、へき地・離島、災害・救急、在宅医療	公衆衛生・安部	2 講
6	29	金	2	産業保健	職業癌、頸肩腕障害、腰痛、VDT	公衆衛生・安部	2 講
7	6	金	2	産業保健	ガス中毒・酸欠、有機溶剤・化学物質中毒	非常勤・實森	2 講
7	12	木	1	産業保健	重金属中毒、農薬中毒	公衆衛生・有馬	2 講
7	12	木	2	産業保健	騒音と振動、異常気圧・気温	公衆衛生・西村	2 講
7	13	金	2	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉施設・従事者	広報戦略本部・堀口	2 講
7	19	木	1	保健・医療・福祉	医師法、医療法・医療計画、医療費適正化計画	地域医療学・前田	2 講
7	19	木	2	保健・医療・福祉	介護保険、保健・医療・福祉の連携	地域医療学・前田	2 講
7	20	金	2	予防医学・健康増進	生活習慣病と保健	公衆衛生・安部	3 講

# 外科治療学

責任者	氏名 (教室)	江口 晋 (移植・消化器外科学)		
	電話番号	095-819-7312	e-mail	sueguchi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00~18:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Surgical Therapeutics		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

外科治療学では外科総論、救急医学、臓器移植と人工臓器および麻酔科学について学ぶ。

## 2. 授業到達目標

外科総論においては外科的侵襲と患者の病態生理、術前術後管理が理解できる。救急医学においては救急患者の診断および重症病態の管理について理解できる。臓器移植においては臓器移植の種類・内容と移植免疫、人工臓器においては種類と必要条件および問題点を理解できる。麻酔科学においては麻酔法、麻酔薬および呼吸循環管理など周術期管理を理解できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

外科総論においては外科的侵襲と手術患者の病態生理、基本的手術手技や術前術後管理を中心に学ぶ。救急医学においては救急患者の診断および重症病態の管理について学ぶ。臓器移植においては臓器移植の種類、内容と移植免疫、人工臓器においては人工臓器の種類と必要条件および問題点を中心に学ぶ。麻酔科学においては麻酔法、麻酔薬および呼吸循環管理など周術期管理を中心に学ぶ。

## 4. 教科書・教材・参考書

標準外科学 13版 監修：加藤 治文 医学書院  
 Principles of Surgery, 9th ed. Schwartz S.I. McGraw-Hill 15,513円  
 Textbook of Surgery, 19th ed Sabiston D.C Saunders 16,334円  
 T E X T麻酔・蘇生学 4版 澄川耕二、土肥 修司 編 南山堂 6,800円  
 外傷初期診療ガイドライン 日本外傷学会・日本救急医学会 監修 へるす出版 16,800円

## 5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。再試験は1回行う。

## 6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、臓器機能・体液系を復習しておく。

## 7. 教員名

土谷 智史、日高 重和、矢野 洋、松本 桂太郎、飛永 修一、野中 隆、  
 田浦 康明、畑地 豪、若田 幸樹 (腫瘍外科)、  
 江口 晋、山之内 孝彰、小林 和真、日高 匡章、足立 智彦、虎島 泰洋、  
 小坂 太一郎、崎村 千香、大野 慎一郎、井上 悠介、夏田 孔史 (移植・消化器外科)、  
 原 哲也、村田 寛明、関野 元裕、一ノ宮 大雅、石井 浩二、樋田 久美子 (麻酔科)、  
 田崎 修、山下 和範、平尾 朋仁、田島 吾郎、猪熊 孝実、山野 修平 (救命救急)、  
 宮本 俊之 (外傷センター)、松丸 一朗 (心臓血管外科)、望月 保志 (泌尿器科)

## 8. 備考

通常の講義時間割とは別に、以下の時間割に従って実施する。

午前…① 8:50-9:50、② 9:55-10:55、③ 11:00-12:00

午後…④ 13:00-14:00、⑤ 14:05-15:05、⑥ 15:10-16:10

## 9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 外科治療学

午前…① 8:50-9:50、② 9:55-10:55、③ 11:00-12:00  
午後…④ 13:00-14:00、⑤ 14:05-15:05、⑥ 15:10-16:10

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	4	水	①	基本的外科手術手技	(1)手術器具、(2)基本的手術操作、(3)小外科手術手技	腫瘍外科 若田幸樹	3講
4	4	水	②	術前・術後の患者管理(1)	(1)術前の患者管理一般、(2)術前の特殊状態の評価と管理	腫瘍外科 畑地 豪	3講
4	4	水	③	麻酔学(1)	歴史・麻酔学の領域	麻酔科 原 哲也	3講
4	11	水	①	外科の歴史と外科医の立場	(1)外科の歴史、(2)外科医と法、(3)専門医制度	移植・消化器外科 江口 晋	3講
4	11	水	②	問診ならびに外科的診察法	(1)病歴、(2)理学的所見	移植・消化器外科 山之内孝彰	3講
4	11	水	③	麻酔学(2)	全身麻酔：吸入麻酔薬・静脈麻酔薬	麻酔科 原 哲也	3講
4	18	水	①	術前・術後の患者管理(2)	(3)術後の患者管理一般、(4)術後合併症とその対策	腫瘍外科 日高重和	3講
4	18	水	②	救急医学(1)	救急医学概論、救急医療システム	救命救急センター 田崎 修	3講
4	18	水	③	麻酔学(3)	全身麻酔：オピオイド・筋弛緩薬	麻酔科 原 哲也	3講
4	25	水	①	ショック(1)	(1)ショックの概念、(2)ショックの原因と分類、(3)ショックの病態	腫瘍外科 野中 隆	3講
4	25	水	②	救急医学(2)	救急診察法及び診断、外傷初期診療	救命救急センター 猪熊孝実	3講
4	25	水	③	麻酔学(4)	局所麻酔	麻酔科 村田寛明	3講
4	26	木	④	麻酔学(5)	脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔	麻酔科 原 哲也	3講
4	26	木	⑤	救急医学(3)	心肺蘇生法と脳死判定	救命救急センター 平尾明仁	3講
4	26	木	⑥	ショック(2)	(4)ショックの治療、(5)ショックの合併症とショック臓器	腫瘍外科 野中 隆	3講
5	2	水	①	小児外科の特徴	(1)小児外科の特徴、(2)新生児・未熟児の特徴、(3)術前・術後の栄養管理	腫瘍外科 田浦康明	3講
5	2	水	②	損傷と創傷治癒	(1)機械的損傷、(2)非機械的損傷、(3)創傷の治癒過程、(4)創傷治癒を左右する因子、(5)創傷管理の実際	移植・消化器外科 足立智彦	3講
5	2	水	③	麻酔学(6)	周術期呼吸管理	麻酔科 原 哲也	3講
5	16	水	①	炎症と感染(1)	(1)炎症の概念と病態生理、(2)臨床症状と所見、(3)外科的感染症の起炎菌	腫瘍外科 松本桂太郎	3講
5	16	水	②	腫瘍	(1)良性腫瘍と悪性腫瘍、(2)発癌メカニズム、(3)悪性腫瘍の病態(4)臨床診断と特殊検査、(5)悪性腫瘍の治療、(6)悪性腫瘍の疫学	移植・消化器外科 小林和真	3講
5	16	水	③	麻酔学(7)	周術期循環管理	麻酔科 一ノ宮大雅	3講
5	23	水	①	外科と栄養(1)	(1)外科における栄養管理の意義、(2)栄養アセスメント	腫瘍外科 飛永修一	3講
5	23	水	②	血液凝固異常と輸血	(1)止血機構、(2)止血機構の傷害、(3)輸血の目的、(4)血液製剤の種類と特徴、(5)輸血法、(6)輸血の副作用と合併症	移植・消化器外科 夏田孔史	3講
5	23	水	③	麻酔学(8)	周術期体液管理	麻酔科 原 哲也	3講
5	30	水	①	外科と免疫(1)	(1)免疫機構と調節、(2)腫瘍免疫	移植・消化器外科 崎村千香	3講
5	30	水	②	救急医学(4)	環境異常と生体反応	救命救急センター 田島吾郎	3講
5	30	水	③	麻酔学(9)	集中治療	麻酔科 関野元裕	3講
6	6	水	①	外科と免疫(2)	(3)移植免疫、(4)免疫不全と日和見感染	移植・消化器外科 小坂太郎	4講
6	6	水	②	救急医学(5)	災害医療(特別講義)	救命救急センター 山下和範	4講
6	6	水	③	麻酔学(10)	周術期全身管理	麻酔科 原 哲也	4講
6	13	水	①	体液の変動と輸液	(1)正常体液分布、(2)侵襲と体液変動、(3)水・電解質異常、(4)酸塩基平衡傷害、(5)輸液療法	移植・消化器外科 虎島泰洋	4講
6	13	水	②	救急医学(6)	外傷治療プロトコール	外傷センター 宮本俊之	4講
6	13	水	③	麻酔学(11)	ペインクリニック	麻酔科 樋田久美子	4講
6	20	水	①	炎症と感染(2)	(4)全身感染症と敗血症、(5)外科的特殊感染症、(6)治療	腫瘍外科 松本桂太郎	3講
6	20	水	②	救急医学(7)	熱傷、化学損傷、電撃症	救命救急センター 山野修平	3講
6	20	水	③	麻酔学(12)	緩和医療	麻酔科 石井浩二	3講

# 外科治療学

午前…① 8:50-9:50、② 9:55-10:55、③ 11:00-12:00  
 午後…④ 13:00-14:00、⑤ 14:05-15:05、⑥ 15:10-16:10

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	27	水	①	老人外科の特徴	(1)老人外科の特徴、(2)手術適応、(3)周術期管理の特徴	腫瘍外科 矢野 洋	4 講
6	27	水	②	外科的侵襲と生体反応(1)	(1)神経内分泌系の反応、(2)循環系の反応、(3)代謝系の反応	移植・消化器外科 井上悠介	4 講
6	27	水	③	外科的侵襲と生体反応(2)	(4)免疫系の反応、(5)血液凝固系の反応、(6)術後の生体反応と回復過程	移植・消化器外科 大野慎一郎	4 講
7	4	水	①	外科と栄養(2)	(3)経腸栄養、(4)経静脈栄養	腫瘍外科 飛永修一	4 講
7	4	水	②	移植と人工臓器	消化器系の移植と人工臓器	移植・消化器外科 日高匡章	4 講
7	4	水	③	移植と人工臓器	泌尿器系の移植と人工臓器	泌尿器科 望月保志	4 講
7	10	火	④	心臓血管外科	先天性心疾患の外科治療	鹿児島大学第二外科 井本 浩	3 講
7	10	火	⑤	移植と人工臓器	呼吸器系の移植と人工臓器	腫瘍外科 土谷智史	3 講
7	10	火	⑥	移植と人工臓器	循環器系の移植と人工臓器	心臓血管外科 松丸一朗	3 講
7	11	水	①～③	TBL		移植・消化器外科 高槻光寿	4 講

# 法医学系

責任者	氏名 (教室)	池松 和哉 (法医学)		
	電話番号	095-819-7076	e-mail	k-ikema@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30~17:30		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Forensic Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

法医学は「医学的解明助言を必要とする法律上の案件・事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的な人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的」としており、これを達成するために必要な知識獲得を到達目標とする。

## 2. 授業到達目標

1. 「異状死」という概念を説明できること。
2. 医師の専任事項である死体検案（死後診察）について確実に理解できること。  
特に、検案の主目的である「死因」、「死亡推定時刻」、「個人識別」、「法医学的異状の有無」に関しては、論理的で正確な判断を行なえること。
3. 医師として必要な「死亡診断書（死体検案書）」を正確に記載・作成できること。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

到達目標に則して、死因論、損傷論、個人識別、及び異状死の概念と死体検案の方法並びに死体検案書の記載・作成法等の講義を行なう。

## 4. 教科書・教材・参考書

学生のための法医学（改訂6版） 田中 宣幸 他 南山堂 5,300円  
死体検案マニュアル2010年 日本法医学会 日本法医学会 2,000円

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査70%、小テスト15%、レポート15%で評価する。  
上記到達目標を60%以上到達できた場合を合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

講義前に教科書を読み、法医学用語を学習しておく。

## 7. 教員名

池松 和哉、梅原 敬弘、村瀬 壮彦（法医学）、  
山下 裕美（死因究明医育成センター・法医学）、村上 友則（放射線科）、  
小片 守（鹿児島大学法医学）、神田 芳郎（久留米大学法医学）、  
久保 真一（福岡大学法医学）、木下 博之（香川大学法医学）、  
北村 修（杏林大学法医学）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

# 法医学系

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	25	火	1	溺死	溺死体と水中死体	法医・村瀬	3講
9	25	火	2	死の判定と死因 外因死と内因死	生から死への過程、死の判定、 死因、死因論・外因死と内因死 の定義	法医・池松	3講
9	27	木	3	損傷（1）	損傷の評価法	法医・池松	3講
9	27	木	4	損傷（2）	損傷総論・鈍器損傷	法医・池松	3講
10	2	火	1	個人識別（1）	血液型・DNA型	非常勤・神田	3講
10	2	火	2	個人識別（2）	個人識別の実際	法医・梅原	3講
10	4	木	3	死体現象	死体現象と死後経過時間の推定	法医・池松	3講
10	4	木	4	損傷（3）	児童・配偶者・高齢者・障害者 等に対する虐待	非常勤・小片	3講
10	9	火	1	損傷（4）	鋭器・銃器損傷	法医・池松	3講
10	9	火	2	死後画像診断	法医学における画像診断	放射線科・村上	3講
10	11	木	3	損傷（5）	交通事故による損傷	法医・池松	3講
10	11	木	4	損傷（6）	頭部の損傷（外景・内景所見と 死因）	非常勤・久保	3講
10	16	火	1	法医中毒学（1）	中毒総論・アルコール	非常勤・木下	3講
10	16	火	2	法医中毒学（2）	農薬・医薬品中毒	非常勤・木下	3講
10	18	木	3	窒息死（1）	窒息総論・頸部圧迫による窒息 死1	法医・池松	3講
10	18	木	4	窒息死（2）	頸部圧迫による窒息死2	法医・池松	3講
10	23	火	1	異常環境下の死	高温による障害・低温による障 害	法医・池松	3講
10	23	火	2	内因死	法医学における内因性急死	非常勤・北村	3講
10	25	木	3	胎・嬰兒の死	嬰兒殺	法医・池松	3講
10	25	木	4	個人識別（3）	歯科所見による個人識別	法歯科・山下	3講
11	1	木	3	検案の実際	検案の方法と注意点	法医・池松	3講
11	1	木	4	法医学演習	症例の検討	法医・池松	3講

# 診断学

責任者	氏名 (教室)	前田 隆浩 (総合診療学)		
	電話番号	095-819-7591	e-mail	tmaeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～16:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Physical Diagnosis		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

診断学では、臨床の第一歩として医師－患者信頼関係を重視した医療面接技能及び基本的臨床技能を修得する。さらに症候から診断への的確なアプローチ法を学ぶとともに患者の立場に立った医療を行える医師となるための基礎を築くことを目標とする。

## 2. 授業到達目標

患者と接する際の基本的マナーを身につける。

医療面接において円滑なコミュニケーションと情報収集が行える。

基本的な診察手技を身につけ、目的に応じた身体診察所見を取ることができる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義：総論として医療面接技能、基本的身体診察技能とともに内科、外科、臨床検査診断、放射線、内視鏡、症候診断、眼底、鼓膜診察法を教授する。

実習：実習要領に沿って総論実習2回と項目についての各論実習を10回行う。

総論実習では、チューターとなる教官がそれぞれのグループの学生に基本的診察技能を指導する。各論実習では、それぞれの専門医が主要症候から診断法、身体診察法を指導する。

## 4. 教科書・教材・参考書

内科診断学 武内重五郎 南江堂 8,964 円

診察診断学 高久史麿 監修 橋本信也、福井次矢 医学書院 6,480 円

内科診断学 (第3版) 編集：福井次矢、奈良信雄 医学書院 10,260円

## 5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験：講義及び実習内容について筆答試験を行う。

実技試験：共用試験OSCE (客観的臨床技能試験) により実技試験を行い修得度を判定する。

出席：講義・実習とも出席状況を評価に入れる。

評価方法：筆記試験と実技試験を総合して評価する。

成績評価の基準：総点の60%以上かつ実技試験の60%以上を合格とする

## 6. 事前・事後学修の内容

実習の前には、基本的臨床技能マニュアル(長崎大学医学部編)やその他の教科書であらかじめ予習しておくこと。

## 7. 教員名

川上 純、阿比留 教生、中村 英樹、一瀬 邦弘、岩本 直樹、堀江 一郎、

鎌田 昭江 (第一内科)、

辻野 彰、白石 裕一、宮崎 禎一郎、吉村 俊祐 (脳神経内科)、

迎 寛、尾長谷 靖、福島 千鶴、坂本 憲穂 (第二内科)、

西野 友哉、牟田 久美子 (腎臓内科)、

前村 浩二、河野 浩章、池田 聡司、深江 学芸、恒任 章、古賀 聖士、石松 卓、

土井 寿志、吉牟田 剛、江口 正倫、荒川 修司 (循環器内科)、

中尾 一彦、竹島 史直、宮明 寿光、松島 加代子、三馬 聡、小澤 栄介、本田 琢也、

佐々木 龍、原口 雅史、赤澤 祐子、橋口 慶一、北山 素、田淵 真惟子 (消化器内科)

宮崎 泰司、波多 智子、今泉 芳孝（血液内科）、  
 有吉 紅也、高橋 健介、山下 嘉郎、泉田 真生（熱研内科）、  
 渡邊 毅（耳鼻咽喉科）、北岡 隆、隈上 武志（眼科）、  
 上谷 雅孝、工藤 崇、森川 実（放射線科）、山口 直之（光学医療診療部）、  
 前田 隆浩、中道 聖子、山梨 啓友、依田 彩文（総合診療科）、  
 柳原 克紀、森永 芳智、賀来 敬仁、宇野 直輝（臨床検査医学）、  
 江口 晋、高槻 光寿、久芳 さやか、井上 悠介、小坂 太一郎、崎村 千香、大野 慎一  
 郎、小林 慎一郎、夏田 孔史（移植・消化器外科）、  
 永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、安武 亨（先端医育センター）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

# 診断学

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	19	水	1	外科学診断学総論	乳腺・リンパ節の診察, ガウンテクニック	第2外科 久芳さやか	3 講
9	19	水	2	外科学診断学総論	直腸・肛門の診察, 外科縫合	第2外科 井上悠介	3 講
9	19	水	3	診断学総論①	基本的身体診察	総診 前田隆浩・中道聖子	3 講
9	19	水	4	診断学総論①	基本的身体診察	総診 前田隆浩・中道聖子	3 講
9	26	水	1	放射線診断学総論	X線撮影, CTの基本	放射線科 上谷雅孝	3 講
9	26	水	2	放射線診断学総論	MRIの基本	放射線科 森川 実	3 講
9	26	水	3	診断学総論②	診断のプロセス, 医療面接	総診 前田隆浩・中道聖子	3 講
9	26	水	4	診断学総論②	診断のプロセス, 医療面接	総診 前田隆浩・中道聖子	3 講
9	28	金	1	放射線診断学総論	放射線防護	放射線科 工藤 崇	3 講
9	28	金	2	臨床検査医学総論	検査診断学総論	検査部 賀来敬仁	3 講
9	28	金	3	症候診断学①	循環器診断学のポイント	循環器内科 前村浩二	3 講
9	28	金	4	臨床検査医学総論	微生物検査診断学	検査部 森永芳智	3 講
10	2	火	3	診断学各論実習①	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	2	火	4	診断学各論実習①	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	3	水	1	症候診断学②	検尿を診る	腎臓内科 西野友哉	3 講
10	3	水	2	症候診断学③	症候診断学とMEDLINE	第一内科 川上 純	3 講
10	3	水	3	診断学各論実習②	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	3	水	4	診断学各論実習②	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	9	火	3	診断学各論実習③	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	9	火	4	診断学各論実習③	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	10	水	1	内視鏡診断学総論	消化管非腫瘍	光学 山口直之	3 講
10	10	水	2	内視鏡診断学総論	消化管腫瘍	光学 山口直之	3 講
10	10	水	3	診断学各論実習④	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	10	水	4	診断学各論実習④	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	12	金	1	臨床検査医学総論	血液・血清診断学	検査部 宇野直輝	3 講
10	12	金	2	症候診断学④	発熱患者の診かた	熱研内科 山梨啓友	3 講
10	12	金	3	眼底の診察法	眼底検査の理論と所見	眼科 北岡 隆	3 講
10	12	金	4	症候診断学⑤	腹痛の診断学	消化器内科 竹島史直	3 講
10	16	火	3	診断学各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	16	火	4	診断学各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	17	水	1	鼓膜の診察法	耳鏡の使い方	耳鼻咽喉科 渡邊 毅	3 講
10	17	水	2	症候診断学⑥	血液疾患の兆候から診断までのプロセス	血液内科 宮崎泰司	3 講
10	17	水	3	診断学各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	17	水	4	診断学各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	23	火	3	診断学各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照		3 講
10	23	火	4	診断学各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照		3 講

# 診断学

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	24	水	3	診断学各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照		3講
10	24	水	4	診断学各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照		3講
10	26	金	3	症候診断学⑦	呼吸器診断学のポイント	第2内科 迎 寛	3講
10	26	金	4	OSCEについて	試験の概要、心構え等	先端医育センター 安武 亨	3講
10	30	火	3	診断学各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照		3講
10	30	火	4	診断学各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照		3講
10	31	水	3	診断学各論実習⑩	各論実習ローテーション表参照		3講
10	31	水	4	診断学各論実習⑩	各論実習ローテーション表参照		3講
11	7	水	3	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	内科・総合診療科	3講
11	7	水	4	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	内科・総合診療科	3講
11	14	水	3	内科診断学総論実習②	内科診断学総論実習要項参照	内科・総合診療科	3講
11	14	水	4	内科診断学総論実習②	内科診断学総論実習要項参照	内科・総合診療科	3講

各論実習ローテーション表

<各論実習>

下記の日程に従って、神経、血液、感染症、代謝、内分泌、消化器、呼吸器、循環器、膠原病、腎臓、外科、プライマリケア、疾患についての基本的診断手技の実習を行う。

実習期日			10/2	10/3	10/9	10/10	10/16	10/17	10/23	10/24	10/30	10/31
実習項目 担当責任教員	実習時間	集合場所 実習場所	火	水	火	水	火	水	火	水	火	水
医療面接 (地域包括ケア 教育センター) 永田康浩 (総合診療科) 中道聖子	13:30~15:00	第3講義室	I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV	
プライマリケア・BLS (総合診療科) 依田彩文	15:20~16:50	第3講義室	I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV	
神経疾患 (脳神経内科) 白石裕一 宮崎禎一郎 吉村俊祐	13:30~15:00	病院本館5F 脳神経内科外来		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV
	15:20~16:50			I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV
血液疾患 (原研内科) 今泉芳孝	13:30~15:00	病院3階 血液内科外来	III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI	
感染症疾患 (熱研内科) 高橋健介	15:20~16:50	病院本館7F 旧シミュレーションセンター	III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI	
代謝疾患 (第1内科) 鎌田昭江	13:30~15:00	病院9F チェアマン室		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI
内分泌疾患 (第1内科) 堀江一郎	15:20~16:50	病院9F チェアマン室		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI
消化器疾患 (消化器内科) 松島加代子	13:30~15:00	中央診療棟4階 多目的研修室	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII
	15:20~16:50		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII	
膠原病疾患 (第1内科) 中村英樹 一瀬邦弘 岩本直樹	15:20~16:50	病院本館9F 多目的室1 (第一会議室)		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII
呼吸器疾患 (第2内科) 尾長谷靖	13:30~15:00	中央診療棟4階 多目的研修室	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X
	15:20~16:50		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X	
腎臓疾患 (腎臓内科) 牟田久美子	15:20~16:50	中央診療棟4階 多目的研修室		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X
循環器疾患 (循環器内科) 深江学芸	13:30~15:00	中央診療棟4階 シミュレーションセンター	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II
	15:20~16:50		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II	
外科 (第二外科) 高槻光寿	15:20~16:50	中央診療棟4階 シミュレーションセンター		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II

- ☆ I・IIは各論実習のグループ編成を示す。以下同様
- ☆ グループ編成は後日知らせる。
- ☆ 総論と各論でグループ編成が異なることに注意
- ☆ BLS: Basic Life Support
- ☆ 実習(各論)の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること

## 内科診断学総論要項

### <総論実習>

基本的身体診察法を学ぶための実習2回（11/7, 11/14のいずれも午後）は、A～Pの16グループに分かれて、下表の指導教員のもとで行う。各実習日の13:30に下表の場所に集合すること。

グループ	指導担当教員	集合場所・実習場所
A	(第1内科) 阿比留教生	病院7階 旧シミュレーション室
B	(第1内科) 中村英樹	
C	(第1内科) 辻野 彰	
D	(第2内科) 尾長谷靖	病院3階 呼吸器内科外来集合
E	(第2内科) 福島千鶴	病院3階 呼吸器内科外来集合
F	(第2内科) 坂本憲徳	病院3階 呼吸器内科外来集合
G	(循環器内科) 河野浩章	病院2階 循環器内科外来
H	(循環器内科) 池田聡司	病院2階 循環器内科外来
I	(消化器内科) 竹島史直	病院3階 消化器内科外来
J	(消化器内科) 宮明寿光	病院9階 ゼミ室
K	(原研内科) 波多智子	病院3階 血液内科外来
L	(原研内科) 今泉芳孝	病院3階 血液内科外来
M	(熱研内科) 山下嘉郎	病院3階 呼吸器感染症外来
N	(熱研内科) 泉田真生	病院3階 呼吸器感染症外来
O	(総合診療科) 中道聖子	第3講義室・1F総診外来
P	(総合診療科) 依田彩文	第3講義室・1F総診外来

☆ A・Bは総論実習のグループ編成を示す。以下同様

☆ グループ編成は後日知らせる。

☆ 実習（総論）の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること。

# 臨床検査医学

責任者	氏名 (教室)	柳原 克紀 (臨床検査医学 (病態解析・診断学) )		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Laboratory Medicine		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

患者の病態を把握するために必要な検査が何かを学び、それぞれの検査の特徴を知った上で、それらを適切に使い分け、かつ適切に結果を解釈する思考を構築する。検査値から鑑別を広く挙げ、病態を深く読む視点を養う。

## 2. 授業到達目標

臨床検査の意義とその解釈を説明できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

正しい臨床診断を得るためには、検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深める。各種検査についての基本的知識や解釈、原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

臨床検査ガイド 文光堂

標準臨床検査医学 医学書院

臨床検査法提要 金原出版

よくわかる輸血学・改訂版 大久保 光夫 羊土社

移植・輸血検査学 講談社

血液細胞アトラス 文光堂

Handbook of Hematologic Pathology Marcel Dekker Inc, USA

Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications Lela Buckingham F.A.Davis

戸田新細菌学 吉田眞一、柳雄介、吉開泰信 南山堂

標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・医動物学」 一山智、田中美智男 医学書院

医療スタッフのための 微生物検査のススメ 柳原克紀 ヴァンメディカル

## 5. 成績評価の方法・基準等

成績評価の方法：定期考査100%。成績評価の基準：60点以上を合格とする。特別な理由なく講義に1/3以上欠席した場合は、定期考査の受験資格はない。

## 6. 事前・事後学修の内容

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

## 7. 教員名

柳原 克紀、長谷川 寛雄、森永 芳智、宇野 直輝、賀来 敬仁 (臨床検査医学)、  
長井 一浩 (細胞療法部)

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 臨床検査医学

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	18	火	3	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査 柳原克紀	3 講
9	18	火	4	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査 柳原克紀	3 講
9	21	金	1	血液学検査	血液学検査	臨床検査 長谷川寛雄	3 講
9	21	金	2	免疫血清検査	免疫血清検査	臨床検査 長谷川寛雄	3 講
9	25	火	3	輸血検査	輸血検査	細胞療法 長井一浩	3 講
9	25	火	4	輸血検査	輸血検査	細胞療法 長井一浩	3 講
10	5	金	1	臨床化学総論	臨床化学総論	臨床検査 宇野直輝	3 講
10	5	金	2	臨床化学各論	臨床化学各論	臨床検査 賀来敬仁	3 講
10	19	金	1	臨床化学各論	臨床化学各論	臨床検査 賀来敬仁	3 講
10	19	金	2	一般検査	一般検査	臨床検査 森永芳智	3 講
10	26	金	1	遺伝子検査総論	遺伝子検査総論	臨床検査 宇野直輝	3 講
10	26	金	2	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	臨床検査 長谷川寛雄	3 講
11	7	水	1	微生物検査	微生物検査	臨床検査 森永芳智	3 講
11	7	水	2	微生物検査	微生物検査	臨床検査 森永芳智	3 講
11	14	水	1	生理機能検査	生理機能検査	臨床検査 賀来敬仁	3 講
11	14	水	2	検査の実際	検査の実際	臨床検査 柳原克紀	3 講

# 臨床疫学・医療情報学

責任者	氏名 (教室)	本多 正幸 (医療情報学)		
	電話番号	095-819-7536	e-mail	m-honda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30~18:30		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	General Medicine・Medical Informatics		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

[臨床疫学]

臨床の現場では、患者に対し最適で最良の医療を提供するためEvidenceに基づいた臨床判断を下すことが重要

である。そのために必要な基本的臨床疫学の知識とEvidenced Based Medicine (EBM) の実践法の授業を行う。

[医療情報学]

医療分野におけるIT化に向けた政府や厚生労働省の動向、病院情報システムや地域医療情報システムの実態とその問題点を把握し、病院における患者データの管理や研究支援（統計学）に関してその方法を理解する。資料およびPC等を用いた講義形式により授業を展開する。

## 2. 授業到達目標

[臨床疫学]

患者の種々の医療問題に対しEBMを実践する方法を学ぶ。

[医療情報学]

医療分野におけるIT化の動向、医療機関における情報システム・電子カルテと特徴と問題点、地域医療連携システムの実情とメリット、離島医療支援の経過と現状、データの標準化、セキュリティに関して概ね基礎的内容が説明できる。基本的な統計学の概念が説明できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

[臨床疫学]

臨床疫学に必要な統計学、EBMの実践（臨床上の問題点の抽出、情報の収集、批判的吟味、患者への適用）についての講義及び演習

[医療情報学]

医療情報システム、病院情報システム、広域医療情報ネットワーク、システム運用、患者データベース、データの再利用（統計解析）などに関する講義

## 4. 教科書・教材・参考書

<参考書>

臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版 Robert Fletcher, 他2名 (著)、福井 次矢(翻訳)  
メディカルサイエンスインターナショナル 5,400円

また、各講義の中で、参考書や参考資料については個別に提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

[臨床疫学] 出席および与えられたテーマに対するレポートで行う。

[医療情報学] 出席状況、レポートによる評価。レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて調査し、適切なキーワードを用いて的確に内容が説明できているかどうかを判断基準とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

[臨床疫学] これまで学習した医学統計学を復習しておく。

[医療情報学] これまで学習した情報処理関連の講義・演習等を復習しておく。

## 7. 教員名

本多正幸、松本武浩（医療情報学）、  
前田隆浩、中道聖子（総合診療科）

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

# 臨床疫学・医療情報学

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	1	月	1	医療情報学	情報セキュリティ、統計解析 I (統計学の基礎)	医療情報部・本多正幸	3 講
10	1	月	2	医療情報学	統計解析 II (推定・検定・他)	医療情報部・本多正幸	3 講
10	15	月	1	医療情報学	医療情報システム概要と 病院情報システム	医療情報部・松本武浩	3 講
10	15	月	2	医療情報学	地域連携の I T 化	医療情報部・松本武浩	3 講
10	22	月	1	臨床疫学	臨床に必要な統計学	総合診療学・ 前田隆浩, 中道聖子	3 講
10	22	月	2	臨床疫学	E B M の実践 患者問題の定式化	総合診療学・ 前田隆浩, 中道聖子	3 講
10	29	月	1	臨床疫学	E B M の実際のための情報収集法	総合診療学・ 前田隆浩, 中道聖子	3 講
10	29	月	2	臨床疫学	E B M の患者への適用	総合診療学・ 前田隆浩, 中道聖子	3 講

# 臨床薬理学

責任者	氏名 (教室)	佐々木 均 (臨床薬物動態学 (薬剤部))		
	電話番号	095-819-7245	e-mail	sasaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00以降		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Clinical Pharmacology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

臨床で薬物治療を実施する場合、薬剤の体内動態を合理的に予測し、病態に影響する各種要因や最新の相互作用・副作用の情報を考慮し、適正な製剤を選択し、総合的な投与計画を設計する必要がある。この講義では、薬物投与設計のための薬物速度論を理解し、相互作用や製剤の基礎知識を深め、実際に臨床で応用できる能力を身に付ける。

## 2. 授業到達目標

医薬品に関わる法規制について概説できる。  
処方設計における注意点を理解し、処方箋の書き方を実践できる。  
薬物動態について説明でき、薬物速度論による投与設計ができる。  
TDMの意義について理解し、実施すべき薬物を列挙できる。  
薬物の相互作用について説明できる。  
製剤学的工夫がされた薬剤について概説できる。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

薬物の臨床使用を想定した点滴投与、経口投与などの薬物速度論を講義する。さらに、薬物投与設計のための投与量、投与間隔、投与方法などの理論を学び、実際の薬物について、自分で投与設計を行う。また、Therapeutic Drug Monitoringの症例をもとに影響因子を考察する。さらに、処方設計の考え方、薬物相互作用の基礎知識、新規製剤の知識、特定薬剤治療管理料を算定できる薬剤の詳細について講義する。

## 4. 教科書・教材・参考書

LACSを用いて授業資料を事前配布する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

定期考査 (70%)と、出席・小テスト (30%)を考慮して判定する。

## 6. 事前・事後学修の内容

LACSを用いて授業資料を事前配布する。

## 7. 教員名

佐々木 均、北原 隆志 (薬剤部)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

## 臨床薬理学

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	1	月	3	医薬品概論	医薬品開発の歴史、医薬品にかかわる法規制について概説する。	薬剤部・佐々木	3 講
10	1	月	4	処方設計	処方箋の法的意義や処方設計における注意点などに関して講義する。	薬剤部・北原	3 講
10	15	月	3	薬物動態 1	薬物の体内動態（吸収・分布）の原理と影響する各種要因について講義する。	薬剤部・佐々木	3 講
10	15	月	4	薬物動態 2	薬物の体内動態（代謝・排泄）の原理と影響する各種要因について講義する。	薬剤部・佐々木	3 講
10	22	月	3	TDM	Therapeutic Drug Monitoring対象薬剤の紹介及び処方における注意点を症例をもとに講義する。	薬剤部・北原	3 講
10	22	月	4	薬物速度論	静脈注射、経口投与、点滴注射などの基礎理論を講義する。	薬剤部・佐々木	3 講
10	29	月	3	製剤	種々の製剤の特徴に関して講義する。	薬剤部・北原	3 講
10	29	月	4	相互作用	薬物の製剤学的、生物薬剤学的、薬理学的な相互作用について講義する。	薬剤部・北原	3 講

# 東洋医学

責任者	氏名 (教室)	有賀 純 (医科薬理学)		
	電話番号	095-819-7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:30		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Kampo (Japanese traditional medicine)		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

保険適応の医療用薬剤として漢方薬は30年以上の歴史があり、多くの医師が様々な疾患の治療に漢方薬を使用する。日本の漢方薬は、米国など海外でも治療体系に組み込まれている。診療に必要な和漢薬治療の基本、漢方薬の基礎概念を学ぶ。同時に、漢方薬を含めた薬剤反応（薬効）の個人差（多様性）の遺伝子レベルでの理解を深め、より実践的な「薬物療法の論理」を学び、将来臨床の場において「自家薬籠中の薬（P-drug）」を正しく形成する基盤を作ること为目标とする。

## 2. 授業到達目標

漢方医学の基本的な考え方について概説できる。  
代表的な漢方処方構成と効果、副作用を概説できる。  
漢方医学が臨床において用いられている現状を概説できる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

漢方医学を用いている臨床、西洋医学(エビデンス)の観点から漢方処方、生薬についての研究、漢方医学の歴史、漢方医学における診察法と証などについて、それぞれの分野の専門家が講義を行う。生薬を観察する、漢方薬の試飲を行うなどの体験学習、学生が患者とその家族、医師などの役を演じるロールプレイ学習も予定されている。

## 4. 教科書・教材・参考書

プリント資料配布  
<参考書>

漢方医学テキスト 日本東洋医学会学術教育委員会 南江堂  
症例から学ぶ和漢診療学 寺澤捷年 医学書院  
はじめての漢方診療ノート 三瀧忠道 医学書院

## 5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

日常生活の中で漢方薬がどのように用いられているかに注意を払い、触れる機会があればその都度、調べてみる。

## 7. 教員名

有賀 純、松永 隼人（医科薬理学）、松島 加代子（消化器内科）、  
服部 智久、溝口 和臣（株式会社ツムラ）、  
田中 隆（薬学部・天然物化学）、柳田 俊彦（宮崎大学医学部）  
田原 英一（飯塚病院）、境 徹也（佐世保共済病院）、

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	18	火	1	漢方薬Ⅰ	漢方医学の診断・治療 1	田原 英一	3 講
9	18	火	2	漢方薬Ⅱ	漢方医学の診断・治療 1	田原 英一	3 講
9	21	金	3	漢方薬Ⅲ	漢方薬の臨床 1 (麻酔科)	境 徹也	3 講
9	21	金	4	漢方薬Ⅳ	漢方薬の臨床 2	有賀 純	3 講
10	5	金	3	漢方薬Ⅴ	漢方薬の臨床 3 (消化器科)	松島 加代子	3 講
10	5	金	4	漢方薬Ⅵ	生薬の有効成分について	田中 隆	3 講
10	19	金	3	漢方薬Ⅶ	漢方薬の基礎と臨床	服部 智久	3 講
10	19	金	4	漢方薬Ⅷ	漢方薬はなぜ効くのか	溝口 和臣	3 講
10	30	火	1	特別講義	ロールプレイ 1	柳田 俊彦	ボードイン
10	30	火	2	特別講義	ロールプレイ 2	柳田 俊彦	ボードイン

# 総合病理学

責任者	氏名 (教室)	中島 正洋 (原研病理)		
	電話番号	095-819-7105	e-mail	moemoe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 12:00～15:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Clinical pathology		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

臨床医としての診療の中で、病因解明や死因究明のため亡くなられた患者さんの剖検の機会があり、病理解剖の結果を踏まえてのCPC(clinico-pathological conference)を通じて、今後の診療に役立てることが求められる。また、臨床研修制度の中で、病理解剖症例のCPCレポートが義務づけられている。CPCは病理医と臨床医が、貴重な剖検例から得られる全身臓器に観られる病理変化を通じて病態を考察する、総合病理学である。

## 2. 授業到達目標

本授業の目的は、学生が与えられた病理解剖症例を通して、CPCを体験し、患者さんの病態を総合的に解析し、最終診断に至る過程を学ぶことである。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

病理学講座 (旧第1、第2病理) と原研病理の教員が各1回ずつ担当する。

授業は、病理解剖症例を用いて、CPC方式で行う。

実際の病理解剖症例について、臨床病歴、現症、検査データ、画像などのプレゼンテーション資料から病態を推察し臨床診断を行い、さらに問題点を提起する。

その後、病理解剖所見 (肉眼所見・組織所見) を観察 (標本検鏡を含む) し、病理診断をまとめ、総合討論する。

## 4. 教科書・教材・参考書

病理解剖マニュアル：病理と臨床 第30巻 臨時増刊号 文光堂  
外科病理学 第4版 文光堂

## 5. 成績評価の方法・基準等

期末試験は行わず、卒業試験科目として卒業判定時に出席点と受講態度を重視して評価する。正当な理由なく3回 (症例) 以上欠席したものは失格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

事前に病理学総論・各論の総括的復習を行うこと。

## 7. 教員名

下川 功、林 洋子 (第1病理)、  
福岡 順也、新野 大介、二口 充 (第2病理)、  
中島 正洋 (原研病理)、三浦 史郎 (原研病理)

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 総合病理学

(4年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	27	木	1～2	剖検症例 1	CPC形式	原研病理・中島	実2
10	4	木	1～2	剖検症例 2	CPC形式	原研病理・三浦	実2
10	11	木	1～2	剖検症例 3	CPC形式	病理1・下川、林	実2
10	18	木	1～2	剖検症例 4	CPC形式	病理1・下川、林	実2
10	25	木	1～2	剖検症例 5	CPC形式	病理2・福岡	CBT室
11	1	木	1～2	剖検症例 6	CPC形式	病理2・二口	CBT室
11	2	金	1～2	剖検症例 7	CPC形式	病理2・新野	CBT室

# 臨床推論PBL

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Problem-based learning		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

Problem-based learning (PBL)は、4年次の学生に対し臨床各科ローテーションが始まる前に、課題探索・自己問題解決能力のトレーニングとして、平成16年度から導入された教育方法である。

医学部（医学科）学生はこの時期までは、主に座学により医学的知識の蓄積に努めてきたが、実際の臨床医療を学ぶためには自主的問題解決型の思考、学習が必要となる。よって、臨床実習前に、あるテーマに対して調査、討論を重ねて解答、解決法を自ら見出す学習としてPBLを行う。

## 2. 授業到達目標

- (1)与えられた知識の記憶にとどまらず、必要な知識を自ら獲得する方法と習慣を身に付ける。
- (2)臨床に即した問題解決が行えるよう、病態の基礎医学的理解から診断・治療までを症例に基づいて一貫して学ぶことにより、臨床実習に必要な基本的知識と考え方を習得する。
- (3)グループ学習を通じてコミュニケーション能力を身に付け、チーム医療の基本を学ぶ。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員よりテーマとなる疾患等を示し、学生はそのテーマに対して調査・検討を行い、解決法を探る。

## 4. 教科書・教材・参考書

適宜資料等を提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

出席の状況、討論への参加状況をもとに評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

これまでに学んだ医学的知識を体系的に確認しておくこと。

## 7. 備考

ローテーション表及び各科時間割は、別途手引きとして配付する。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

# 臨床実習

責任者	氏名 (教室)	上谷 雅孝 (放射線医学)		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	4年次・後期、 5年次・通年	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	55
科目英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。

目標は、

- ①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。
- ②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。
- ③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種との役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

## 2. 授業到達目標

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

## 4. 教科書・教材・参考書

適宜資料等を配付する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各科目で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。Advanced OSCEの成績は臨床実習の成績の一部となる。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

診療科により異なる。

## 7. 教員名

「臨床実習の手引」を参照

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

# 医学ゼミ

責任者	氏名 (教室)	柳原 克紀 (臨床検査医学 (病態解析・診断学) )		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次 前期・後期、3～4年次 後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1単位
科目英語名	Small group medical seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。A0学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

## 2. 授業到達目標

各担当教員による。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

各担当教員による。

## 4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

## 6. 備考

授業科目の選択方法

- A. 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- B. 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する (第3希望まで)。
- C. 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。

3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

## 7. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

平成30年度 医学ゼミ 開講テーマ一覧(4年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
公衆衛生	青柳 潔	論文から学ぶ公衆衛生学	文献を通して医学の社会性について学ぶ	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	金曜日1校時	公衆衛生学資料室	積極性、レポート	
法医学	村瀬 社彦	異状死とは？死者からの伝言	法医学教室ではさまざまな死と遭遇する。事件事故であれ病気であれ、死には必ず原因があり、生には常にその原因が付随している。各々の症例についてそんな観点から考え、異状死(突然死)について医療人としての理解を深めてもらう。	各症例の事件発生即報告書、死体検案書、解剖検査記録などを参考にして、「なぜ亡くなったのか」、さらには「防ぐことはできたのか」を考える。適宜、論文検討を加え、最終的に症例報告として報告書をまとめる。	金曜日5校時	基礎棟6階 法医学教室 大学院セミナー室	総合的に評価する	
第二内科	宮崎泰可	内科診療実践編	教科書を読むだけではわからない、内科臨床医に求められる実践的な判断力、手技を身につける。	模擬病歴、実際の画像、シミュレーターなどを用いて実践的な内科の知識と手技の習得を目指す。	金曜日1校時	新中央診療棟4F シミュレーション室	出席状況、レポート、討論への参加具合を評価。	
循環器内科	前村 浩二	心電図道場(好きになる心電図)	心電図に対する苦手意識をなくし、楽しく判読ができるようになることをめざす。	講義で学んだだけでは、心電図判読に苦手意識を持っている学生が多い。心電図判読のコツは最初に心電図判読の作法を理解した上で、多くの症例の心電図を自分で読んでみることである。本ゼミでは、さまざまな症例の心電図を自分で実際に読んでもらい、それを添削しながら判読のコツをつかんでもらう。後半では症例に即してクイズ形式で読んでもらう。また心電図判読を入口にして、循環器疾患が好きになるような心エコーなどの実地的な内容も盛り込む。	金曜日5校時	病院本館9階ゼミ ナール室(906)	出席率、討論参加度	
精神神経科	小澤寛樹	映画から見る精神医学	具体的イメージにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通して、人の心に対する理解を深め、自己の考え、感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神疾患を取り扱った映像作品を毎回取り上げ鑑賞し、1~2人3人がその疾患に関して事前研究と資料作成、講義当日にプレゼンテーションを実施する事で、能動的な参加姿勢を養う。	原則として水曜日17時開始	第3講義室または精神科外来63番診察室	①出席点50%②視聴後に行うディスカッションへ参加意欲・各回の提出レポート50%	毎回映画の視聴後にテーマディスカッション、解説講義を21時頃まで行います。期間内で5校時目以降に他科目を受講する必要がある人、その他予定のある人などは、その点留意してください。
移植・消化器外科(第二外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには国際対策まで	外科の入門編から実践さらには国際対策まで幅広く、選りすぐりの講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	1. 外科の歴史(長崎の外科から世界の外科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診察、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるEBM(論文の見方、読み方教えます) 5. 消化管外科の進歩知識:ピルローって知ってる? 6. 国際に出る外科学(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についてともに語ろう 8. 乳癌外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	金曜日16:30-17:30	移植・消化器外科医局(第二カンファラーム) 医局受付で問い合わせてください。	出席を重要視する。ディスカッション内容、フリートーク形式でするので、レポート・試験などはありません。	* 講義内容、順番は予定であり若干の変更があります。 * 学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 * 欠席する場合は、医局まで連絡ください。 * 時間都合が合わない場合は、申し出て下さい。
泌尿器科	宮田康好	本ゼミを初歩の泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学・医療の基本部分の理解へもつなげていく。また、学会や講演会などでの発表の基礎となるスキルを学ぶ。	泌尿器科の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に伝えられるように、主にマンガを用いて、学生自身が司会進行する形で発表を行う。これに適宜教員からの補足をを行う。また、その発表を通して簡単なプレゼンテーションスキルやアイデア抽出法についても学ぶ。	金曜日1校時	泌尿器科・移植外科医局	出席率、発表および討論への参加態度、発表の内容や出来栄は評価対象にはせず、試験やレポートはありません。	学会などで開催されない日もあります(最初にスケジュールを確認します)ので留意ください。	
耳鼻咽喉科	渡邊 毅	将来役に立つ耳鼻咽喉科・頭頸部外科(入門編)	身近だがとつきにくい、耳鼻咽喉科・頭頸部外科を知り、将来(医師になっても)に役立てることを目的とする。	耳鼻咽喉科の歴史を探り、診察実習や実際の医療の現場を通じて耳鼻科の内科的側面・外科的側面を体験してもらい、学問としての耳鼻咽喉科と臨床医学としての耳鼻咽喉科、さらにORFや国家試験、将来医師になっても役に立つ振付いた医療の知識・技術・経験を手に入れることを目的とする。	月曜日17:00-18:30	11階 耳鼻咽喉科医局	出席、積極性、発表内容等を総合的に評価する。	
産科婦人科	増崎英明	女性の一生について考える	産婦人科の最新の知見について、教室員とのディスカッションを通じて理解を深める	論文抄読、トピックセミナー、症例検討、講演会	水曜日18:30~	産婦人科医局ゼミ室	出席、レポート提出により総合的に判断する	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い種々の感染症や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物vs生き物の独特な生態において何が勝手がなるか?学生との双方に意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに基礎的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように攻撃していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	月曜日16:30-18:00	長崎大学病院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
フロンティア生命科学	岩永 正子	論文から学ぶ「がん」の医学・臨床疫学研究	近年、臨床系・基礎系問わず、疫学研究手法が疫学研究手法として重要性が高まっている。トップジャーナルの英語の原論文を通して、研究デザインの重要性を学び、かつ、英語読解能力を養う。	教育および各自が選んだ「がん」に関する疫学研究・臨床疫学研究の英文論文を題材とし、各自が紹介・説明・発表し、議論・討論を行う。	金曜日1校時	フロンティア生命科学オーブンラボ5(南学部C棟6階)	出席状況、積極的な参加、文献の理解、発表を評価する	

# アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次 前期・後期、 5年次 前期・後期、 6年次 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (研究医コース)	単位数	各1単位
科目英語名	Advanced research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につける。

## 2. 授業到達目標

科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

### 1. 4年次から研究医コースに配属した学生の場合

（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅴの5回分の評価）

- (1) 4年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
- (2) 4年後期、5年前期・後期の評価は学期ごとに学生から研究ノートを提出させて行う。
- (3) 6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

### 2. 5年次から研究医コースに配属した学生の場合

（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅲの3回分の評価）

- (1) 5年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
- (2) 5年後期の評価は学生から研究ノートを提出させて行う。
- (3) 6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

なお、6年次前期の評価は、論文提出による評価を可能とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

各配属教室による。

## 7. 備考

【配属教室の選択方法】

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

## English Skills for Fourth Year Medical Students

**Instructors:** Luc Loosveldt  
Jim Briganti

**Class Time :** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

Course Objectives	
In this course, students will be guided in their selection of specific medical cases, disease trends, other local and global health issues on which to present individually and in groups to their peers. Small group discussion to further critical thinking and communication skills will form an integral part of the course.	
Required Textbooks	
<ul style="list-style-type: none"><li>• Class materials will be made available on the English Section's website, NU-minds.</li></ul>	
Topics	
1	Introduction of the course and its materials; mini-talk: "How to Read to Maximize Learning"
2	First topic - how to read, how to explore, how to discuss; deciding the groups
3	First group discussion; first report
4	Short presentations + Q&A practice
5	Second topic; second group discussion
6	Second report; evaluating other groups' reports
7	Second Short Presentation followed by Q&A
8	Third topic; second group discussion
9	Third report; evaluating other groups' reports
10	Third Short Presentation followed by Q&A
11	Fourth topic; second group discussion
12	Fourth report; evaluating other groups' reports
13	Fourth Short Presentation followed by Q&A + Deciding on final project
14	Final group discussion + reviewing and preparing the final project
15	Final Poster sessions
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, quizzes, group project, written work, and in-class and on-line participation. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.	
<i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i>	

平成30年度 授業時間割 5年前期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金																	
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6												
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$												
		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30												
4	2	臨床実習 ⑤						3	臨床実習 ⑤						4	臨床実習 ⑤						5	臨床実習 ⑤						6	臨床実習 ⑤						研究医コース											
	9							10							11							12							13																		
	16	臨床実習 ⑥						17	臨床実習 ⑥						18	健康診断						19	臨床実習 ⑥						20	臨床実習 ⑥																	
	23							24							25	臨床実習 ⑥						26							27																		
	30	振替休日							1								2								3	憲法記念日							4	みどりの日													
5	7	臨床実習 ⑦						8	臨床実習 ⑦						9	臨床実習 ⑦						10	臨床実習 ⑦						11	臨床実習 ⑦																	
	14							15							16							17							18																		
	21	臨床実習 ⑧						22	臨床実習 ⑧						23	臨床実習 ⑧						24	臨床実習 ⑧						25	臨床実習 ⑧																	
	28							29							30							31							1																		
6	4	臨床実習 ⑨						5	臨床実習 ⑨						6	臨床実習 ⑨						7	臨床実習 ⑨						8	臨床実習 ⑨																	
	11							12							13							14							15																		
	18	臨床実習 ⑩						19	臨床実習 ⑩						20	臨床実習 ⑩						21	臨床実習 ⑩						22	臨床実習 ⑩																	
	25							26							27							28							29																		
7	2	臨床実習 ⑪						3	臨床実習 ⑪						4	臨床実習 ⑪						5	臨床実習 ⑪						6	臨床実習 ⑪																	
	9	臨床実習 振り返り						10							11							12							13																		
	16	海の日							17	臨床実習 ⑫								18	臨床実習 ⑫								19	臨床実習 ⑫								20	臨床実習 ⑫										
	23	臨床実習 ⑫						24							25							26							27																		
	30								1								2								3																						
8	6	夏季休業							7	夏季休業							8	夏季休業							9	夏季休業							10	夏季休業													
	13								14								15								16								17														
	20								21								22								23								24														
	27								28								29								30								31														
9	3	臨床実習 ⑬						4	臨床実習 ⑬						5	臨床実習 ⑬						6	臨床実習 ⑬						7	臨床実習 ⑬																	
	10							11	卒前OSCE補助						12	臨床実習 ⑬						13	臨床実習 ⑬						14	臨床実習 ⑬																	
	17	敬老の日							18	臨床実習 ⑭								19	臨床実習 ⑭								20	臨床実習 ⑭								21	臨床実習 ⑭										
	24	振替休日							25								26	臨床実習 ⑭								27	臨床実習 ⑭								28	臨床実習 ⑭											

平成30年度 授業時間割 5年後期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金															
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6										
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$										
		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30		10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30										
10	1	臨床実習 ⑮						2	臨床実習 ⑮						3	臨床実習 ⑮						4	臨床実習 ⑮						5	臨床実習 ⑮															
	8	体育の日							9	臨床実習 ⑮								10	臨床実習 ⑮								11	臨床実習 ⑮						12	臨床実習 ⑮										
	15	臨床実習 ⑯						16	臨床実習 ⑯						17	臨床実習 ⑯						18	臨床実習 ⑯						19	臨床実習 ⑯															
	22							23							24							25							26																
	29	臨床実習 ⑰						30	臨床実習 ⑰						31	臨床実習 ⑰						1	臨床実習 ⑰						2	臨床実習 ⑰															
11	5	臨床実習 ⑱						6	臨床実習 ⑱						7	臨床実習 ⑱						8	臨床実習 ⑱						9	臨床実習 ⑱															
	12	臨床実習 ⑲						13	臨床実習 ⑲						14	臨床実習 ⑲						15	臨床実習 ⑲						16	臨床実習 ⑲															
	19							20							21							22							23	勤労感謝の日															
	26	臨床実習 ⑲						27	臨床実習 ⑲						28	臨床実習 ⑲				OSCE補助		29	臨床実習 ⑲						30	OSCE補助															
12	3	臨床実習 振り返り						4							5							6							7	臨床実習 ⑳															
	10	臨床実習 ⑳						11	臨床実習 ⑳						12	臨床実習 ⑳						13	臨床実習 ⑳						14	臨床実習 ⑳															
	17							18							19							20							21																
	24	振替休日							25	冬季休業							26	冬季休業							27	冬季休業							28	冬季休業											
1	31	冬季休業							1	元日							2	冬季休業							3	冬季休業							4	高次臨床実習オリエンテーション											
	7	高次臨床実習 I ①						8							9							10							11																
	14	成人の日							15	高次臨床実習 I ①								16	高次臨床実習 I ①								17	高次臨床実習 I ①						18	高次臨床実習 I ①										
	21	高次臨床実習 I ①						22							23							24							25																
	28							29							30							31							1																
2	4	高次臨床実習 I ②						5	高次臨床実習 I ②						6	高次臨床実習 I ②						7	高次臨床実習 I ②						8	高次臨床実習 I ②															
	11	建国記念の日							12	高次臨床実習 I ②								13	高次臨床実習 I ②								14	高次臨床実習 I ②						15	高次臨床実習 I ②										
	18	高次臨床実習 I ②						19							20							21							22																
	25							26							27							28							29																
3	4	春季休業							5	春季休業							6	模擬試験							7	春季休業							8	春季休業											
	11								12								13	春季休業							14	春季休業							15	春季休業											
	18								19								20	春季休業							21	春分の日							22	春季休業											
	25								26								27								28	春季休業							29	春季休業											

# 臨床実習

責任者	氏名 (教室)	上谷 雅孝 (放射線医学)		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	4年次・後期、 5年次・通年	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	55
科目英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。

目標は、

- ①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。
- ②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。
- ③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種との役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

## 2. 授業到達目標

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

## 4. 教科書・教材・参考書

適宜資料等を配付する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各科目で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。Advanced OSCEの成績は臨床実習の成績の一部となる。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

## 6. 事前・事後学修の内容

診療科により異なる。

## 7. 教員名

「臨床実習の手引」を参照

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

# 高次臨床実習

責任者	氏名 (教室)	上谷 雅孝 (放射線医学)		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	5年次・後期、 6年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	27.5
科目英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

## 2. 授業到達目標

診療科により異なる。「高次臨床実習学習要項」を参照。

## 3. 授業内容 (講義・実習項目)

各診療科または学外実習先より6つの実習先を選択し、1ターム4週間の実習を3ターム行なう。詳細は「高次臨床実習学習要項」を参照。

## 4. 教科書・教材・参考書

資料は適宜提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。6ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

各診療科により異なる。

## 7. 教員名

「高次臨床実習学習要項」を参照

## 8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	A

# アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次 前期・後期、 5年次 前期・後期、 6年次 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (研究医コース)	単位数	各1単位
科目英語名	Advanced research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につける。

## 2. 授業到達目標

科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

### 1. 4年次から研究医コースに配属した学生の場合

（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅴの5回分の評価）

- (1) 4年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
- (2) 4年後期、5年前期・後期の評価は学期ごとに学生から研究ノートを提出させて行う。
- (3) 6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

### 2. 5年次から研究医コースに配属した学生の場合

（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅲの3回分の評価）

- (1) 5年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
- (2) 5年後期の評価は学生から研究ノートを提出させて行う。
- (3) 6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

なお、6年次前期の評価は、論文提出による評価を可能とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

各配属教室による。

## 7. 備考

【配属教室の選択方法】

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

平成30年度 授業時間割 6年前期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金					
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$
4	2	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	3	卒業試験(第1回)						4	卒業試験(第1回)							5	卒業試験(第1回)						6	研究医コース				
	9	高次臨床実習Ⅱ ③						10		健康診断					11	高次臨床実習Ⅱ ③							12	高次臨床実習Ⅱ ③						13	高次臨床実習Ⅱ ③				
	16	高次臨床実習Ⅱ ③						17		健康診断					18	高次臨床実習Ⅱ ③							19	高次臨床実習Ⅱ ③						20	高次臨床実習Ⅱ ③				
	23	高次臨床実習Ⅱ ③						24		健康診断					25	高次臨床実習Ⅱ ③							26	高次臨床実習Ⅱ ③						27	高次臨床実習Ⅱ ③				
5	30	振替休日						1							2								3	憲法記念日						4	みどりの日				
	7	高次臨床実習Ⅱ ④						8							9	高次臨床実習Ⅱ ④							10	高次臨床実習Ⅱ ④						11	高次臨床実習Ⅱ ④				
	14	高次臨床実習Ⅱ ④						15							16	高次臨床実習Ⅱ ④							17	高次臨床実習Ⅱ ④						18	高次臨床実習Ⅱ ④				
	21	高次臨床実習Ⅱ ④						22							23	高次臨床実習Ⅱ ④							24	高次臨床実習Ⅱ ④						25	高次臨床実習Ⅱ ④				
	28	高次臨床実習Ⅱ ④						29							30	高次臨床実習Ⅱ ④							31	高次臨床実習Ⅱ ④											
6	4	高次臨床実習Ⅱ ⑤						5							6	高次臨床実習Ⅱ ⑤							7	高次臨床実習Ⅱ ⑤						8	高次臨床実習Ⅱ ⑤				
	11	高次臨床実習Ⅱ ⑤						12							13	高次臨床実習Ⅱ ⑤							14	高次臨床実習Ⅱ ⑤						15	高次臨床実習Ⅱ ⑤				
	18	高次臨床実習Ⅱ ⑤						19							20	高次臨床実習Ⅱ ⑤							21	高次臨床実習Ⅱ ⑤						22	高次臨床実習Ⅱ ⑤				
	25	高次臨床実習Ⅱ ⑤						26							27	高次臨床実習Ⅱ ⑤							28	高次臨床実習Ⅱ ⑤						29	高次臨床実習Ⅱ ⑤				
7	2	高次臨床実習Ⅱ ⑥						3							4	高次臨床実習Ⅱ ⑥							5	高次臨床実習Ⅱ ⑥						6	高次臨床実習Ⅱ ⑥				
	9	高次臨床実習Ⅱ ⑥						10							11	高次臨床実習Ⅱ ⑥							12	高次臨床実習Ⅱ ⑥						13	高次臨床実習Ⅱ ⑥				
	16	海の日						17							18	高次臨床実習Ⅱ ⑥							19	高次臨床実習Ⅱ ⑥						20	高次臨床実習Ⅱ ⑥				
	23	高次臨床実習Ⅱ ⑥						24							25	高次臨床実習Ⅱ ⑥							26	高次臨床実習Ⅱ ⑥						27	高次臨床実習Ⅱ ⑥				
	30	模擬試験						31							1	模擬試験							2	模擬試験						3	模擬試験				
8	6	夏季休業						7							8	夏季休業							9	夏季休業						10	夏季休業				
	13	夏季休業						14							15	夏季休業							16	夏季休業						17	夏季休業				
	20	夏季休業						21							22	夏季休業							23	夏季休業						24	夏季休業				
	27	夏季休業						28							29	夏季休業							30	夏季休業						31	夏季休業				
9	3	卒業試験(第2回)						4							5	卒業試験(第2回)							6	卒業試験(第2回)						7	卒業試験(第2回)				
	10	卒前OSCE						11							12	卒前OSCE							13	卒前OSCE						14	卒前OSCE				

平成30年度 授業時間割 6年後期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金					
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$
9	17	敬老の日						18							19	卒前集中講義							20	卒前集中講義						21	卒前集中講義				
	24	振替休日						25							26	卒前集中講義							27	卒前集中講義						28	卒前集中講義				
10	1	卒前集中講義						2							3	卒前集中講義							4	卒前集中講義						5	卒前集中講義				
	8	体育の日						9							10	卒前集中講義							11	卒前集中講義						12	卒前集中講義				
	15	卒前集中講義						16							17	卒業試験再試験							18	卒業試験再試験						19	卒業試験再試験				
	22	卒前集中講義						23							24	卒前OSCE再試験							25	卒前OSCE再試験						26	卒前OSCE再試験				
	29	卒前集中講義						30							31	卒前OSCE再試験														1	卒前OSCE再試験				
11	5	卒前集中講義						6							7	卒前OSCE再試験							8	卒前OSCE再試験						9	卒前OSCE再試験				
	12	卒前集中講義						13							14	卒前OSCE再試験							15	卒前OSCE再試験						16	卒前OSCE再試験				
	19	卒前集中講義						20							21	卒前OSCE再試験							22	卒前OSCE再試験						23	卒前OSCE再試験				
	26	卒前集中講義						27							28	卒前OSCE再試験							29	卒前OSCE再試験						30	卒前OSCE再試験				
12	3	卒前集中講義						4							5	卒前OSCE再試験							6	卒前OSCE再試験						7	卒前OSCE再試験				
	10	卒前集中講義						11							12	卒前OSCE再試験							13	卒前OSCE再試験						14	卒前OSCE再試験				
	17	卒前集中講義						18							19	卒前OSCE再試験							20	卒前OSCE再試験						21	卒前OSCE再試験				
	24	振替休日						25							26	冬季休業							27	冬季休業						28	冬季休業				
1	31	冬季休業						1							2	元日							3	冬季休業						4	冬季休業				
	7	模擬試験						8							9	模擬試験							10	模擬試験						11	模擬試験				
	14	成人の日						15							16	模擬試験							17	模擬試験						18	模擬試験				
	21	成人の日						22							23	模擬試験							24	模擬試験						25	模擬試験				
	28	成人の日						29							30	模擬試験							31	模擬試験											
2	4	成人の日						5							6	退職教授記念講演会							7	退職教授記念講演会						8	退職教授記念講演会				
	11	建国記念の日						12							13	退職教授記念講演会							14	退職教授記念講演会						15	退職教授記念講演会				
	18	建国記念の日						19							20	退職教授記念講演会							21	退職教授記念講演会						22	退職教授記念講演会				
	25	建国記念の日						26							27	退職教授記念講演会							28	退職教授記念講演会						29	退職教授記念講演会				
3	4	春季休業						5							6	春季休業							7	春季休業						8	春季休業				
	11	春季休業						12							13	春季休業							14	春季休業						15	春季休業				
	18	春季休業						19							20	春季休業							21	春季休業						22	春季休業				
	25	春季休業						26							27	春季休業							28	春季休業						29	春季休業				

# 高次臨床実習

責任者	氏名 (教室)	上谷 雅孝 (放射線医学)		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	5年次・後期、 6年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	27.5
科目英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

## 2. 授業到達目標

診療科により異なる。「高次臨床実習学習要項」を参照。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

各診療科または学外実習先より6つの実習先を選択し、1ターム4週間の実習を3ターム行なう。詳細は「高次臨床実習学習要項」を参照。

## 4. 教科書・教材・参考書

資料は適宜提示する。

## 5. 成績評価の方法・基準等

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。6ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

各診療科により異なる。

## 7. 教員名

「高次臨床実習学習要項」を参照

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	A

# アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次 前期・後期、 5年次 前期・後期、 6年次 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (研究医コース)	単位数	各1単位
科目英語名	Advanced research seminar		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につける。

## 2. 授業到達目標

科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

## 3. 授業内容（講義・実習項目）

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

## 4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

## 5. 成績評価の方法・基準等

### 1. 4年次から研究医コースに配属した学生の場合

（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅴの5回分の評価）

- （1）4年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
- （2）4年後期、5年前期・後期の評価は学期ごとに学生から研究ノートを提出させて行う。
- （3）6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

### 2. 5年次から研究医コースに配属した学生の場合

（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅲの3回分の評価）

- （1）5年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
- （2）5年後期の評価は学生から研究ノートを提出させて行う。
- （3）6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

なお、6年次前期の評価は、論文提出による評価を可能とする。

## 6. 事前・事後学修の内容

各配属教室による。

## 7. 備考

【配属教室の選択方法】

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

## 8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

# 臨床総括講義

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	6年次・後期	講義形態	講義・演習
必修・選択	必修	単位数	6
科目英語名	Clinical Core Lecture		

## 1. 授業の概要及び位置づけ

これまでに学習した医学の総論・各論を総括する。

## 2. 授業内容（講義・実習項目）

卒前集中講義の授業計画を参照。

## 3. 教科書・教材・参考書

資料は適宜提示する。

## 4. 成績評価の方法・基準等

卒前集中講義（第6年次）と卒業試験から構成され、卒業試験合格が単位修得要件となる。  
卒前集中講義において、出席すべき時間数の3分の1を超えて欠席した者は卒業試験の受験資格を失う。

## 5. 事前・事後学修の内容

これまでに学習した内容を確認しておくこと。

## 6. 教員名

卒前集中講義の授業計画を参照

## 7. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

平成30年度 卒前集中講義 (6年前期)

※1校時…8:50～10:20、2校時…10:30～12:00、3校時…13:00～14:30、4校時…14:40～16:10

月	日	曜日	校時	H30 授業項目	担当講座等	担当教員 (〇…オーガナイザー)	備考	講義室
9	18	火	1	検査値の見方	臨床検査医学, 細胞療法部	〇柳原 克紀, 長井 一浩		第1講義室
			2	国家試験: 輸血医療からのアプローチ				
			3	胸痛	循環器内科	前村 浩二		
			4		内科2	尾長谷 靖		
9	19	水	1	小児に特徴的な common diseases	小児科	森内 浩幸		
			2	心電図の読み方	循環器内科	前村 浩二		
			3	統合失調症と双極性障害	精神神経科	今村 明		
			4	国家試験対策 代謝疾患の考え方	内科1	阿比留 教生		
9	20	木	1	神経疾患の診断と治療	脳神経内科	辻野 彰		
			2	失神	総合診療科	中道 聖子		
			3	眼底所見(糖尿病を含む)	眼科	隈上 武志		
			4	貧血	原研内科	波多 智子		
9	21	金	1	肺癌および鑑別を要する疾患	内科2	山口 博之		
			2	胸部外科領域の押さえておくべきポイント	腫瘍外科	永安 武		
			3	産業保健	公衆衛生	青柳 潔		
			4	心エコー	循環器内科	恒任 章		
9	25	火	1	膠原病-血管炎症候群を中心として 内臓疾患と皮膚病変	内科1, 皮膚科	〇折口 智樹, 室田 浩之	室田先生 8:50-10:20 折口先生 10:30-12:00	
			2					
			3	先天性疾患と遺伝性疾患	小児科, 産婦人科	〇森内 浩幸(近藤 達郎), 三浦 清徳		
			4					
9	26	水	1	月経異常、正常異常妊娠	産婦人科	北島 道夫		
			2	泌尿器疾患ケーススタディ	泌尿器科	酒井 英樹		
			3	先天性心疾患	心臓血管外科	三浦 崇		
			4	予備				
9	27	木	1	肝炎・肝硬変・肝癌	消化器内科	中尾 一彦		
			2	脳腫瘍	脳神経外科	松尾 孝之		
			3	呼吸困難	循環器内科, 耳鼻科, 内科2	〇前村 浩二, 迎 寛, 金子 賢一	迎先生 13:00-13:50 前村先生 14:00-14:50 金子先生 15:00-15:50	
			4					
9	28	金	1	国家試験のための画像診断の知識	放射線科	上谷 雅孝, 西田 暁史		
			2	救急疾患の画像診断				
			3	腹痛	腫瘍外科	安武 亨		
			4	運動麻痺・筋力低下①	脳神経内科	白石 裕一		
10	1	月	1	救急蘇生, 小児救急	小児科, 救命救急センター	〇橋本 邦生, 田崎 修, 山下 和範	橋本先生 8:50-9:40 田崎先生 9:50-10:40 山下先生 10:50-11:40	
			2					
			3	救急の輸液管理, ショック, 電解質異常①	救命救急センター	〇田崎 修, 山下 和範		
			4	消化管癌および炎症性腸疾患	消化器内科	竹島 史直		
10	2	火	1	予備				
			2	腎不全・蛋白尿	腎臓内科	西野 友哉		
			3	運動麻痺・筋力低下②	脳外科	出雲 剛	13:30-14:30	
			4	リウマチ性疾患・変形性関節症	内科1	川上 純		
10	3	水	1	予備				
			2	高齢者保健	地域医療	前田 隆浩		
			3	創傷外科と慢性創傷, 再生医療	形成外科	田中 克己		
			4	不整脈	循環器内科	深江 学芸		
10	4	木	1	感染症の診断と治療	感染症学, 熱研内科	〇泉川 公一, 有吉 紅也	有吉先生 8:50-10:20 泉川先生 10:30-12:00	
			2					
			3	めまい	耳鼻科, 脳外科	〇木原 千春, 出雲 剛		
			4	腹部外科領域の押さえておくべきポイント	移植・消化器外科	江口 晋		
10	5	金	1	運動麻痺・筋力低下③	整形外科	富田 雅人	9:30-10:30	
			2	化膿性関節炎	整形外科	尾崎 誠		
			3	白血病	原研内科	宮崎 泰司		
			4	救急の輸液管理, ショック, 電解質異常②	腎臓内科	小畑 陽子		